ノ許可ヲ經二年以內選擧權被選擧權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間町村稅率四分ノ一以下ヲ增加スルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第三十條　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一　町村規則ヲ設定スル事

二　歲入出豫算ヲ定ムル事

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料加入金手數料町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

四　町村有不動產ニ關シ權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事

五　基本財產ノ處分ヲ爲ス事

六　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ棄却ヲ爲ス事

七　町村有財產ノ管理方法ヲ定ムル事

八　町村吏員ノ身元保證ヲ徵シ及其ノ額ヲ定ムル事

九　町村ニ係ル訴訟又ハ和解ニ關スル事

十　其ノ他法律命令ニ依リ町村會ノ職權ニ屬セラレタル事項

町村會ハ町村長ノ報告書ヲ請求シテ町村有財產ノ管理又ハ收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選擧シ町村長又ハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類又ハ金庫ヲ檢閱セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長又ハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

町村會ハ町村長又ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第三十一條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十二條　町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第三十三條　町村會ハ會議ノ必要アル每ニ町村長之ヲ招集ス但シ輕易ノ事件ハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聞キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ可決ト爲シ施行スルコトヲ得

町村會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

北海道廳長官ハ會議及傍聽ノ規律及取締ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

町村會ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ會議ニ關スル規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第三十四條　町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ町村吏員中ニ就キ町村長之ヲ命ス

議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ニハ議長及議員一名以上之ニ署名捺印スヘシ

第四章　町村ノ財務

第一款　町村有財產及收入

第三十五條　町村ハ不動產積立金穀等ヲ以テ一般又ハ特別ノ基本財產ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財產ノ蓄積ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　町村ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ國、公共團體又ハ個人ノ事業ニ對シ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　町村ハ必要ナル支出及法律命令ニ依ル支出ヲ負擔スヘシ但シ町村ノ事情ニ依リ北海道地方費ヨリ其ノ全部又ハ一部ヲ補助ス

第三十八條　町村ハ使用料、加入金、手數料、町村稅及夫役現品ヲ徵收スルコトヲ得

第三十九條　使用料ハ町村有財產又ハ町村營造物ノ使用ニ付、手數料ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付、加入金ハ町村有財產ヲ町村住民ノ全部又ハ一部ノ直接ノ共用ニ供スル場合ニ之ヲ徵收ス

第四十條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一　國稅北海道地方稅ノ附加稅

二　直接若ハ間接ノ特別稅

第四十一條　三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初又ハ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

町村內ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ町村內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若ハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキハ納稅義務者ノ町村外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘシ

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ前項ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ本稅額ヲ各市區町村ニ分割シテ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第四十三條　所得稅法【第五條】ニ揭クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國又ハ公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國又ハ公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺、官立公立ノ學校病院又ハ國若ハ公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺、國又ハ公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林又ハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有財產ニ對シテハ第六十九條ニ揭クル期間中ハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第四十四條　町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシメ町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部內ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ營造物ノ收入又ハ町村ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ費用ニ充ツヘシ

第四十五條　夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅又ハ直接北海道地方稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ納稅義務者ニ賦課ス

學藝美術手工ニ關スル勞役ハ夫役トシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十六條　町村ノ公法上ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促手數料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ハ國、北海道地方費及府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第四十七條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十八條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災地變等已ムヲ得サル支出若ハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ當リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ町村會ノ議決ヲ經テ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以內ト爲シ年年ノ償還步合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以內ニ還了スヘシ

町村ハ無記名債券ヲ發行スルコトヲ得ス

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲スニ付必要アルトキハ町村會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ借入金ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　豫算及決算

第四十九條　町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度一箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後三日以內ニ之ヲ北海道廳支廳長ニ報告シ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第五十條　豫算ノ議決ヲ經タルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ町村長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス町村長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第四項ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第五十一條　町村ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ檢査ヲ行ヒ又每年少クトモ一回臨時檢査ヲ行フヘシ

檢査ハ町村長又ハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時檢査ニハ町村會ノ選擧シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第五十二條　町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以內ニ證書類ヲ添ヘ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ北海道廳支廳長ニ報告シ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章　町村ノ一部ノ事務

第五十二條ノ二　町村ノ一部ニシテ所有財產又ハ營造物ニ付其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ內務大臣ノ許可ヲ得テ財產營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選擧職務權限處務規程等ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第五十二條ノ三　財產ヲ有スル町村ノ一部ニシテ新ニ財產ヲ取得セムトスルトキハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五十二條ノ四　町村ノ一部ノ事務ニ付本令ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章　町村組合

第五十三條　町村役場事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ハ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合町村ハ其ノ他ノ事務ノ全部又ハ一部ヲ共同處理スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外町村事務ノ一部ヲ共同處理セシムルコトヲ要スルトキハ所轄支廳長、支廳所轄ヲ異ニスルトキハ北海道廳長官ハ町村組合ヲ設クルコトヲ得

第五十四條　町村組合會議員ハ各町村會議員中ヨリ更ニ互選セシメ之ニ充ツ但シ各町村ニ於テ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ其ノ選出スヘキ人員ハ北海道廳長官ノ設置ニ係ル組合ニ付テハ北海道廳長官、北海道廳支廳長ノ設置ニ係ル組合ニ付テハ當該支廳長之ヲ定ム

町村組合ニハ町村ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第七章　町村行政ノ監督

第五十五條　監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若ハ處分ヲ停止シ若ハ取消スコトヲ得

第五十六條　本令ニ依ル訴願又ハ訴訟ハ決定書又ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以內ニ提起スヘシ

特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外異議訴願又ハ訴訟ノ爲處分ノ執行ヲ停止セス

第五十七條　町村會ノ解散ハ北海道廳長官之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ更ニ議員ヲ選擧スヘシ

第五十八條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第四十八條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ又ハ變更スル事

三　直接國稅ノ二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第五十九條　左ニ揭クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村規則ヲ設ケ又ハ改正スル事

二　使用料加入金手數料ヲ新設シ又ハ變更スル事

三　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

四　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ北海道地方稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

五　直接北海道地方稅ノ二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

六　第四十四條ニ依リ町村住民ノ一部若ハ町村內ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第六十條　左ニ揭クル事件ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村有不動產ニ關シ權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事

二　基本財產ノ處分ヲ爲ス事

三　第四十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第六十一條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第六十二條　北海道廳長官北海道廳支廳長ハ町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得北

海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金又ハ解職トシ北海道廳支廳長ノ懲戒處分ハ譴責又ハ十圓以下ノ過怠金トス

第六十三條　町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲町村ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ北海道廳支廳長之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

北海道廳支廳長ハ賠償ノ裁決ヲ爲シタルトキハ假ニ財產ヲ差押フルコトヲ得

第八章　附則

第六十四條　本令施行ノ時期ハ内務大臣之ヲ定ム

第六十五條　二級町村ト爲ス地ハ内務大臣之ヲ指定ス

第六十六條　町村會成立スル迄ノ間町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ

第六十七條　二級町村中島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ付テハ内務大臣ハ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十八條　【現役ノ屯田兵村ニハ本令ヲ施行セス】

第六十九條　屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財產ニ關シテハ【屯田兵】服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ本令ヲ適用セス

第七十條　本令ニ於テ直接稅又ハ間接稅トスヘキ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第七十一條　本令施行ニ付必要ナル事項ハ北海道廳長官之ヲ定ム

●北海道二級町村制施行地

（明治三十五年三月十三日内務省令第七號）

北海道二級町村制ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行シ其ノ實施地ヲ左ノ通リ指定ス但シ數町村合併ノ分ハ現在ノ町村名ヲ大字トシテ之ヲ存ス

町村名	所屬郡名	區域
【札幌村	札幌郡	札幌村、苗穗村、丘珠村、雁來村】
手稻村	同郡	下手稻村、上手稻村、山口村
【豐平村	同郡	豐平村、平岸村、月寒村】
白石村	同郡	白石村、上白石村
【廣島村	同郡	廣島村】
【石狩町	石狩郡	本町、辨天町、新町、濱町、仲町、横町、船場町、親船町、若生町、八幡町、生振村】
花川村（ハナカハ）	同郡	花畔村、樽川村
【當別村	同郡	當別村】
望來村	厚田郡	聚富村、望來村、嶺泊村
【厚田村	同郡	古潭村、押琴村、厚田村、小谷村、別狩村、安瀬村、濃晝村】
【濱益村	濱益郡	茂生村、群別村】
黄金村（コガネ）	同郡	川下村、實田村、柏木村、尻苗村
【龜田村	龜田郡	龜田村、鍛冶村、神山村、桔梗村、赤川村、石川村】
【湯川村	同郡	龜ノ尾村、上湯川村、下湯川村】
【錢龜澤村	同郡	錢龜澤村、志苔村、根崎村、石崎村】
【戶井村	同郡	戶井村、小安村】
【七飯村	同郡	七飯村、藤城村、峠下村、鶴野村、軍川村、大中山村】
【木古内村	上磯郡	木古内村、札苅村、泉澤村、釜谷村】
【森村	茅部郡	尾白内村、宿野邊村、森村、鷲ノ木村、蛯谷村、石倉村】
【八雲村	山越郡	八雲村、山越内村】
上ノ國村	檜山郡	北村、大留村、上ノ國村、木ノ子村、汐吹村、石崎村、小砂子村
乙部村	爾志郡	乙部村、小茂内村、突符村、三ツ谷村、蚊柱村
熊石村	同郡	熊石村、相沼内村、泊川村
久遠村	久遠郡	太田村、上古丹村、久遠村、湯ノ尻村
【瀨棚村	瀨棚郡	瀨棚村、梅花都村、中歌村、虻羅村、島歌村】
【磯谷村	磯谷郡	横澗村、島古丹村、能津登村、北尻別村】
【高島村	高島郡	高島村、祝津村】
朝里村	小樽郡	朝里村、熊碓村、張碓村、錢函村
【大江村	余市郡	仁木村、大江村、山道村】
【古平町	古平郡	濱町、港町、入船町、丸山町、新地町、畚來村、沖村、澤江村、歌棄村】
【美國町	美國郡	小泊村、船澗村、厚苫村、幌武意村、婦美村】
奈江村	空知郡	奈江村
【由仁村	夕張郡	由仁村】
【角田村	同郡	角田村】
【長沼村	同郡	長沼村】
【新十津川村	樺戶郡	新十津川村】
【深川村	雨龍郡	深川村】
【留萌村	留萌郡	留萌村、禮受村】
三泊村	同郡	三留村
苫前村	苫前郡	苫前村、力晝村
【羽幌村	同郡	羽幌村】
【鬼脇村	利尻郡	鬼脇村、石崎村】
仙法志村	同郡	仙法志村
【鴛泊村	同郡	鴛泊村、本泊村】
【沓形村	同郡	沓形村】
船泊村	禮文郡	船泊村、神崎村
【香深村	同郡	香深村、尺忍村】
【網走町	網走郡	北見町、網走村、勇仁村、新栗履村】
藻琴村	同郡	藻琴村、鄕寄村、濤沸村
能取村	同郡	能取村、最寄村
虻田村	虻田郡	虻田村
辨邊村	同郡	辨邊村、禮文村
【苫小牧村	勇拂郡	樽前村、覺生村、錦多峰村、小糸魚村、苫小牧村、勇拂村、植苗村】
【浦河町	浦河郡	浦河村、向別村、後鞆村、井寒臺村】
荻伏村	同郡	荻伏村、姉茶村、野深村、後邊戶村
西舍村	同郡	西舍村、幌別村ノ内（幌別川以西ノ部分）
杵臼村	同郡	杵臼村、幌別村ノ内（幌別川以東ノ部分）
【帶廣町	河西郡	下帶廣村、荊苞村】
上帶廣村	同郡	上帶廣村
伏古村	同郡	伏古村
幸震村	同郡	幸震村
賣買村	同郡	賣買村、迫別村、戶蔦村、鵜拔村

北海道二級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス但シ數町村合併ノ分ハ現在ノ町村名ヲ大字トシテ之ヲ存ス

（明治三十九年二月二十二日内務省令第一號）

村名	所屬郡名	區域
篠路村	札幌郡	篠路村（篠路兵村ヲ除ク）
【琴似村	同	琴似村、發寒村、篠路村内ノ篠路兵村】
藻岩村（モイワ）	同	山鼻村、圓山村
【江別村	同	江別村、對雁村、篠津村】
【惠庭村（エニハ）	千歳郡	漁村、島松村】
尻岸内村	龜田郡	尻岸内村
茂別村（モベツ）	上磯郡	茂邊地村、石別村
知内村	同	知内村、小谷石村
尾札部村	茅部郡	尾札部村
臼尻村	同	臼尻村、熊泊村
鹿部村	同	鹿部村
砂原村	同	砂原村、掛澗村
【長萬部村	山越郡	長萬部村】
吉岡村	松前郡	禮髭村、吉岡村、宮歌村
泊村	檜山郡	泊村、伏木戶村、柳崎村、鹹川村、小黑部村、田澤村
厚澤部村（アッサブ）	同	土橋村、目名村、俄虫村、赤沼村、安野呂村、館村、鶉村
奧尻村（オクシリ）	奧尻郡	釣懸村、赤石村、藥師村、青苗村
太櫓村	太櫓郡	太櫓村、古櫓太村、良瑠石村、鵜泊村
東瀨棚村	瀨棚郡	東瀨棚村
利別村	同	利別村
西島牧村（ニシシマコマキ）	島牧郡	永豐村、千走村、江泥逢村、原歌村
東島牧村（ヒガシシマコマキ）	同	本目村、歌島村、輕臼村
歌棄村（ウタスツ）	歌棄郡	潮路村、有戶村、種前村、美谷村
【前田村	岩内郡	前田村、老古美村、梨野舞納村、幌似村ノ内字切通ヨリ南直線堀株川ヲ基點トシ同所ヨリ西同川ヲ下リ神惠内川ノ落合ニ至ル以西】
【發足村	同	發足村、幌似村ノ内字切通ヨリ南直線堀株川ヲ基點トシ西同川ヲ下リ神惠内川ノ落合ニ至ル以東】
神惠内村	古宇郡	神惠内村、赤石村、珊内村
【倶知安村	虻田郡	倶知安村】
【鹽谷村	忍路郡	鹽谷村、桃内村、忍路村、蘭島村】
赤井川村	余市郡	赤井川村
入舸村	積丹郡	野塚村、日司村、入舸村、出岬村
【余別村	同	西河村、來岸村、余別村、神岬村】
【三笠山村（ミカサヤマ）	空知郡	市來知村、（字峯延三號及三線以北ヲ除ク）幌内村、幾春別村】
【沼貝村	同	沼貝村、市來知村ノ内字峯延三號及三線以北】
【栗澤村	同	栗澤村】
【瀧川村	同	瀧川村】
【歌志内村	同	歌志内村】
【蘆別村	同	蘆別村】
登川村	夕張郡	登川村
月形村	樺戶郡	月形村
【一已村	雨龍郡	一已村】
【秩父別村	同	秩父別村】
【東旭川村	上川郡	東旭川村】
【東川村	同	東川村】
【永山村	同	永山村】
【鷹栖村	同	鷹栖村（字比布ヲ除ク）】
【比布村（ピップ）	同	鷹栖村ノ内字比布】
【當麻村	同	當麻村】
愛別村	同	愛別村
【士別村	上川郡	士別村】
釼淵村	同	釼淵村
【上富良野村	空知郡	上富良野村】
鬼鹿村	留萌郡	鬼鹿村、天登雁村
燒尻村	苫前郡	燒尻村
天賣村	同	天賣村
渚滑村	紋別郡	渚滑村
湧別村	同	湧別村
眞狩村	虻田郡	眞狩村
狩太村	同	狩太村
【安平村	勇拂郡	安平村】

【厚眞村	同	厚眞村】
三石（ミツイシ）村	三石郡	姨布村、邊訪村、幌毛村、鳧舞村、本桐村、歌笛村
樣似村	樣似郡	樣似村、鵜苫村、平鵜村、冬島村、二七村、岡田村、幌滿村、誓內村
幌泉村	幌泉郡	幌泉村、油駒村、小越村、庶野村、猿留村、近呼村、笛舞村、歌露村、歌別村
【芽室村	河西郡	芽室村、美生村、羽帶村、美蔓村、西士狩村】
【音更村	河東郡	音更村、然別村、東士狩村、凋寒村ノ內蝶多村分割線ト凋寒村境ト交叉點ヨリ分水嶺チ趁テ士幌川ノ支流「オサルシ」川水源ノ山上ニ至ル以西、蝶多村ノ內蝶多村十勝川河岸字「タンチヒラ」ヨリ直ニ北方高丘ニ上リ山脈チ趁テ凋寒村ノ境界ニ至ル以西】
生剛村	十勝郡	生剛村、愛牛村
大津村	同	大津村、長臼村、鼈奴村、旅來村、十勝村、當緣村ノ內海岸「ホロカヤントー」沼ト當緣川トノ中間ニ在ル高丘ノ中央チ上リ「オイカマナイ」川ト當緣川トノ間ニ在ル分水嶺チ趁テ中川郡界ニ至ル以東
茂寄村	廣尾郡	茂寄村、歷舟村、大樹村、當緣村ノ內海岸「ホロカヤントー」沼ト當緣川トノ中間ニ在ル高丘ノ中央チ上リ「オイカマナイ」川ト當緣川トノ間ニ在ル分水嶺チ趁テ中川郡界ニ至ル以西
豐頃村	中川郡	豐頃村、安骨村
凋寒村	同	凋寒村（蝶多村分割線ト凋寒村境界ト交叉點ヨリ分水嶺チ趁テ士幌川支流「オサルシ」川水源ノ山上ニ至ル以西チ除ク）蝶多村ノ內蝶多村十勝川河岸字「タンチヒラ」ヨリ直ニ北方高丘チ上リ山脈チ趁テ凋寒村ノ境界ニ至ル以東、十弗村、樣舞村、誓牛村、信取村、蓋派村、居邊村
【幕別村	同	幕別村、止若村、咾別村、白人村、別奴村】
【濱中村	厚岸郡	濱中村、後靜村、琵琶瀨村、散布村、霧多布村、榊町】
和田村	根室郡	和田村、穗香村、幌茂尻村、厚別村ノ內風蓮川チ以テ境界トシ其以東、昆布盛村、落石村

（明治四十二年三月十七日內務省令第七號）

北海道二級町村制施行地チ左ノ通指定シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス但シ數村合併ノ分ハ現在ノ村名チ大字トシテ之チ存ス

村名	所屬郡名	區域
南尻別村	磯谷郡	南尻別村
黑松內村	壽都郡	黑松內村
島野（シマノ）村	岩內郡	野東村、敷島內村
【泊村	古宇郡	泊村、盃村、興志內村、堀株村（岩內郡）、茅沼村（同）】
小澤村	岩內郡	小澤村
香江村	空知郡	香江村
浦臼村	樺戶郡	浦臼村
幌向村	空知郡	幌向村
【上名寄村	上川郡	上名寄村】
【多寄村	上川郡	多寄村】
神樂村	上川郡	神樂村
神居村	上川郡	神居村
初山別村	苫前郡	初山別村
【枝幸村	枝幸郡	枝幸村、頓別村、歌登村、澄文村】
宗谷村	宗谷郡	宗谷村、猿拂村、泊內村
【野付牛村	常呂郡	野付牛村、生顏常村】
【紋別村	紋別郡	紋別村、藻鼈村】
【靜內（シブナイ）村	靜內郡	下下方村、中下方村、上下方村、目名村、遠佛村、幕別村、市父村、農家村、碧蘂村、有良村、捫別村、歸蟹村、佐妻村、春立村、遠別村、音江村】
門別村	沙流郡	門別村、佐瑠太村、平賀村、富仁家村、波恵村、慶能舞村、賀張村、厚別村、栞貫村

（大正四年三月十六日內務省告示第十一號）

北海道二級町村制施行地チ左ノ通指定シ大正四年四月一日ヨリ施行ス但シ數村合併ノ分ハ現在ノ村名チ大字トシテ之チ存ス

村名	所屬郡名	區域
新篠津村	石狩郡	新篠津村
千歲村	千歲郡	千歲村、蘭越村、烏柵舞村、長都村
落部村	茅部郡	落部村
大島村	松前郡	江良町村、原口村、淸部村
熱郛村	歌棄郡	熱郛村、作開村
雨龍村	雨龍郡	雨龍村
北龍村	雨龍郡	北龍村
【美瑛村	上川郡	美瑛村】
下名寄村	中川郡	下名寄村
下富良野村	空知郡	下富良野村
【天鹽村	天鹽郡	天鹽村】
【美幌村	網走郡	美幌村、杵端邊村、古梅村、活汲村、達媚村、鐵木禽村】
斜里村	斜里郡	斜里村、蒼瑁村、止別村、朱圓村、遠音別村
常呂村	常呂郡	常呂村、少牛村、太茶苗村、手師學村
鐺沸村	常呂郡	鐺沸村
興部村	紋別郡	興部村、瑠橡村、沙留村
雄武村	紋別郡	雄武村、幌內村、澤木村
壯瞥村	有珠郡	壯瞥村
鵡川村	勇拂郡	鵡川村、井目戶村、萌別村、生鼈村
【人舞村	上川郡	人舞村】
【屈足村	上川郡	屈足村】
【本別村	中川郡	本別村、押帶村、勇足村、幌蓋村、負箙村、嫁侶村】
白糠村	白糠郡	白糠村、庶路村
齒舞村	花咲郡	友知村、沖根婦村、珸瑤瑁村、沖根邊村、婦羅理村、齒舞村

（大正八年三月二十四日內務省告示第十五號）

北海道二級町村制施行地チ左ノ通指定シ大正八年四月一日ヨリ施行ス但シ數村チ合併シテ一村ト爲スモノニ付テハ現在ノ村名チ大字トシテ存ス

村名	所屬郡名	區域
根法華村	龜田郡	根法華村
北村	空知郡	北村
上北龍村	雨龍郡	上北龍村
中川村	中川郡（天鹽國）	中川村

常盤村	中川郡（天鹽國）	常盤村
山部村	空知郡	山部村
南富良野村	空知郡	南富良野村
占冠村	勇拂郡	占冠村
幌延村	天鹽郡	幌延村、沙流村
遠別村	天鹽郡	遠別村
德舜瞥村	有珠郡	德舜瞥村
幌別村	幌別郡	幌別村、鷲別村、登別村
白老村	白老郡	白老村、社臺村、敷生村
似灣村	勇拂郡	似灣村、累標村、穗別村、邊富內村
昆布森村	釧路郡	昆布森村、跡永賀村、仙鳳趾村
尺別村	白糠郡	尺別村

（大正十二年三月三十日內務省告示第八十號）

北海道二級町村制施行地チ左ノ通指定シ大正十二年四月一日ヨリ施行ス但シ數村チ合併シテ一村ト爲スモノニ付テハ現在ノ村名チ大字トシテ存ス

村名	所屬郡名	區域
大澤村	松前郡	大澤村、上及部村、荒谷村、炭燒澤村
小島村	松前郡	根部田村、赤神村、札前村、茂草村、雨垂石村
貝取澗村	久遠郡	貝取澗村、平田內村、長磯村
政泊村	壽都郡	政泊村
樽岸村	壽都郡	樽岸村、湯別村
幌加內村	雨龍郡	幌加內村
高江村	新冠郡	高江村、大狩部村、萩柄村、受乞村、元神部村、比宇村、泊津村、去童村、姉去村、萬揃村、滑若村
平取村	沙流郡	平取村、紫雲古津村、荷菜村、二風谷村、荷負村、長知內村、幌去村、貫氣別村、荷菜摘村
右左府村	沙流郡	右左府村
鳥取村	釧路郡	鳥取村
淕別村	足寄郡	淕別村、利別村
足寄村	足寄郡	足寄村、螺灣村
舌辛村	阿寒郡	舌辛村、徹別村、蘇牛村、飽別村
熊牛村	川上郡	熊牛村、塘路村、虹別村
弟子屈村	川上郡	弟子屈村、屈斜路村
太田村	厚岸郡	太田村
別海村	野付郡	別海村、平糸村、野付村、（根室郡）西別村、（同）走古潭村、（同）厚別村
標津村	標津郡	標津村、伊茶仁村、（野付郡）茶志骨村、（目梨郡）忠類村、（同）蕪別村、（同）崎無異村
植別村	目梨郡	植別村
泊村	國後郡	泊村、東沸村、米戶賀村、秩苅別村
留夜別村	國後郡	留夜別村、大瀧村
斜古丹村	色丹郡	斜古丹村
紗那村	紗那郡	紗那村、有萌村、別飛村
留別村	擇捉郡	（紗那郡）留別村、（振別郡）振別村、（同）老門村、內保村、丹根萌村
蘂取村	蘂取郡	蘂取村、乙今牛村

●北海道一級町村及北海道二級町村竝島嶼町村ノ町村會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ公民權又ハ選擧權ニ關スル件

（大正十五年四月八日勅令第五十六號）

朕北海道一級町村及北海道二級町村竝島嶼町村ノ町村會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ公民權又ハ選擧權ニ關スル件チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（攝政名、內務大臣副署）

本令公布ノ際現ニ北海道一級町村及北海道二級町村竝島嶼町村ノ町村會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期チ終ル迄ノ間公民權又ハ選擧權ノ納稅要件チ闕クニ至リタルカ爲其ノ職チ失フコトナシ本令公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ其ノ職ニ在ルニ至リタル者亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之チ施行ス

●北海道一級町村行政ニ關シ北海道一級町村制第百十三條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ件

（大正十四年十月二十九日內務、大藏省令）

北海道一級町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可チ要スル事件中北海道一級町村制第百十三條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權チ下級官廳ニ委任シ又ハ許可チ受ケシメサル事件左ノ通定ム

第一條　左ニ揭クル事件ハ北海道廳長官之チ許可スヘシ

一　町村助役ノ定數增加、町村收入役代理者ノ設置、公法上ノ收入徵收、身元保證金、傳染病豫防救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸、退隱料、退職給與金、療治料、救助金、手當金、死亡給與金、弔祭料、遺族扶助料ニ關スル條例チ設ケ又ハ改正スルコト

二　特別稅段別割チ新設シ又ハ變更スル事及之ニ關スル條例チ設ケ又ハ改正スル事但シ大正九年勅令第二百八十二號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ許可スル課稅ノ限度チ超エサルモノニ限ル

三　町村條例チ廢止スル事

四　北海道地方費ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル町村債及町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可チ得テ借入レタル北海道地方費債ノ收入金ヨリ借入ルル當該町村債ニ關スル事

五　小學校舍ノ建築、增築、改築等ニ關スル費用、傳染病豫防費、急施チ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル町村債ニ關スル事但シ小學校舍ノ爲ニスル町村債ニシテ償還期限十年度チ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

六　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル町村債ニ關スル事但シ借入金チ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ニ揭クル事件ハ其ノ許可チ受クルコトチ要セス

一　町村債ノ借入額チ減少シ利息ノ定率チ低減シ又ハ之カ爲償還年限チ短縮スル事

二　町村債ノ借入先チ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル町村債チ其ノ他ノ方法ニ依ル町村債ニ變更スルコト

三　許可チ受ケタル町村債ニ關スル條例又ハ議決ノ定ムル所ニ基キ既定ノ償還年限チ延長セスシテ低利借替チ爲シ又ハ繰上償還チ爲ス事但シ外資ニ依リタル町村債ノ借替又ハ外資チ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　特別稅ニ關スル條例使用料、手數料、加入金、町村ノ常設委員ニ關スル規則及町村ノ部會ニ關スル規程チ廢止スル事

五　三年度チ超エサル繼續費チ定メ又ハ其ノ年期內ニ於テ之チ變更スル事

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之チ施行ス

●北海道二級町村行政ニ關シ北海道二級町村制第六十一條ノ規定ニ依ル命令ノ件

（大正十四年十月二十九日內務、大藏省令）

北海道二級町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可チ要スル事件中北海道二級町村制第六十一條ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權チ下級官廳ニ委任シ又ハ許可チ受ケシメサル事件左ノ通定ム

北海道二級町村行政ニ關シ北海道二級町村制第六十一條ノ規定ニ依ル命令ノ件

一

第一條　左ニ揭クル事件ハ北海道廳長官之ヲ許可スヘシ

一　特別税段別割ヲ新設シ又ハ變更スル事但シ大正九年勅令第二百八十二號ニ依リ北海道廳長官ニ於テ許可スル課税ノ限度ヲ超エサルモノニ限ル

二　北海道地方費ノ基金又ハ敎育資金ヨリ借入ルル町村債及町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル北海道地方費債ノ收入金ヨリ借入ルル當該町村債ニ關スル事

三　小學校舍ノ建築、增築、改築等ニ關スル費用、傳染病豫防費、急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル町村債ニ關スル事但シ小學校舍ノ爲ニスル町村債ニシテ償還期限十年度ヲ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル町村債ニ關スル事但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ニ揭クル事件ハ北海道廳支廳長之ヲ許可スヘシ

一　三年度ヲ超エサル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期内ニ於テ之ヲ變更スル事

第三條　左ニ揭クル事件ハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一　町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減シ又ハ之カ爲償還年限ヲ短縮スル事

二　町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル町村債ニ變更スル事

三　許可ヲ受ケタル町村債ニ關スル議決ノ定ムル所ニ基キ既定ノ償還年限ヲ延長セスシテ低利借替ヲ爲シ又ハ繰上償還ヲ爲ス事但シ外資ニ依リタル町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四　使用料、手數料、加入金ニ關スル規則及町村ノ部會ニ關スル規程ヲ廢止スルコト

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ北海道廳長官ニ委任スルノ件

（大正十二年一月二十日勅令第十三號）

朕北海道町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ北海道廳長官ニ委任スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（攝政名御璽內務、大藏大臣副署）

北海道一級町村制第百十一條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ行フ許可ノ職權ハ大正十一年水害地方ノ急施ヲ要スル該水害復舊ノ工事費ニ充ツル爲借入ルル町村債ニ關シテハ北海道廳長官之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道二級町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ北海道廳長官ニ委任スルノ件

（大正十二年一月二十日内務省令第三號）

北海道二級町村制第五十八條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ行フ許可ノ職權ハ大正十一年水害地方ノ急施ヲ要スル該水害復舊ノ工事費ニ充ツル爲借入ルル町村債ニ關シテハ北海道廳長官之ヲ行フ（大藏大臣連署）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方

（明治三十三年五月二十三日内務省令第二十三號）

北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方ニ關シテハ明治三十二年九月内務省令第四十五號第二條乃至第八條及明治三十三年三月内務省令第八號ヲ準用ス但シ明治三十二年九月内務省令第四十五號第三條中ノ北海道廳長官ハ北海道廳支廳長トス

●北海道一級町村公民名譽職ヲ擔任セス又ハ其職務ヲ執行セサル者處分規則

（明治三十三年五月二十四日内務省令第二十七號）

北海道一級町村制第五條ニ依ル町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔任セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ明治三十二年九月内務省令第五十號ヲ準用ス

●北海道一級町村會會議及傍聽ノ紀律取締規則

（明治三十二年九月七日内務省令第四十九號　改正　明治三三年第二四號）

【北海道區制第七十一條】及北海道一級町村制第七十一條ニ依ル會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ明治二十九年三月内務省令第三號ヲ準用ス

●北海道一級町村ノ人口ニ關スル件

（大正十三年十一月三日内務省令第二十四號）

北海道一級町村ノ人口ニ關スル件左ノ通定ム

北海道一級町村制ノ人口ハ内閣ニ於テ官報ヲ以テ公示シタル最近ノ人口ニ依ル但シ部隊、艦船及刑務所内ニ在リタル人員ハ之ヲ除ク

前項公示ノ人口現在ノ日以後ニ於テ町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲シタルトキハ關係町村ノ人口ハ左ノ區別ニ依リ北海道廳長官ノ告示シタル人口ニ依ル但シ町村ノ境界變更ノ區域ニ現住者ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

一、町村ノ廢置分合ニシテ町村全部ノ區域ニ係ルトキハ内閣ニ於テ官報ヲ以テ公示シ又ハ本令ノ規定ニ依リ北海道廳長官ノ告示シタル關係町村ノ最近ノ人口ヲ集計シタルモノ仍町村ノ廢置分合前ノ日ニ屬スル最近人口ヲ内閣ニ於テ官報ヲ以テ公示アリタルトキハ更ニ公示ニ係ル關係町村ノ人口ヲ集計シタルモノ

二、前號以外ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ調査シタル廢置分合又ハ境界變更ヲ爲シタル日ノ現在人口

前項ノ規定ハ町村ノ境界確定シタル爲關係町村ノ人口ニ異動アル場合ニ之ヲ準用ス

二級町村ヲ一級町村ト爲シタル場合ニ於テ二級町村當時町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲シタル爲第一項ノ規定ヲ適用シ能ハサルトキハ其ノ町村ノ人口ハ左ノ區別ニ依リ北海道廳長官ノ告示シタル人口ニ依ル但シ町村ノ境界變更ノ區域ニ現住者ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

一、町村全部ノ區域ニ渉ル廢置分合ヲ爲シタルトキハ第二項第一號ノ規定ノ例ニ準シ關係町村ノ人口ヲ集計シタルモノ

二、前號以外ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ調査シタル一級町村ト爲リタル日ノ現在人口

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十一月内務省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

●北海道二級町村制施行地ニシテ屯田兵村ニ屬スル公有財産營造物事業及權利義務ノ歸屬シタルモノノ行政ニ關スル規定

（明治三十九年七月六日内務省令第二十五號）

北海道二級町村制施行地ノ部落ニシテ屯田兵村ニ屬スル公有財産、營造物、事業及權利義務ノ歸屬シタルモノノ行政ニ關シテハ北海道一級町村制第五章ノ規程ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治三十九年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道町村會議員總代人選擧罰則

（明治三十二年十二月二十三日法律第百九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道區町村會議員總代人及沖繩縣區會議員等選擧ノ罰則ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道【區】町村會議員總代人【及沖繩縣區會議員】ノ選擧ニ關シテハ市町村會議員選擧ニ關スル罰則ヲ適用ス

北海道【區制】町村制【及沖繩縣區制】ニ依リ開設スル他ノ議會ノ議員ノ選擧ニ付テ亦前項ニ同シ

第三章　島嶼

●島嶼町村制

（明治四十年三月十六日勅令第四十六號　改正　大正九年第一九三號、一五年第二一七號）

朕沖繩縣及島嶼町村制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

島嶼町村制

第一章　總則
第二章　町村吏員
　第一款　組織及任免
　第二款　職務權限及處務規程
　第三款　給料及給與
第三章　町村會
　第一款　組織及選擧
　第二款　職務權限及處務規程
第四章　町村ノ財務
　第一款　財産營造物及收入支出
　第二款　歳入出豫算及決算
第五章　町村内一部ノ行政及町村組合
第六章　町村行政ノ監督
第七章　雜則

島嶼町村制

第一章　總則

第一條　本令ハ町村制ノ規定ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼ノ町村ニ之ヲ施行ス但シ勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　町村ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法令又ハ慣例ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ府縣知事内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入スルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ定ム

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テハ支廳長之ヲ定ム

第四條　町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲スコトヲ要スルトキハ町村ノ申請ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本令ニ從ヒ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第六條　町村住民ニシテ町村名譽職ノ當選任命ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ退キ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル制裁ニ付府縣知事ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ必要ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七條　町村ハ町村住民ノ權利義務町村ノ事務又ハ町村ノ營造物ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章　町村吏員

第一款　組織及任免

第八條　町村ニ町村長收入役及書記ヲ置キ有給吏員トス

町村長收入役ハ町村ニ各一名トシ書記ノ定員ハ府縣知事之ヲ定ム

町村長收入役ハ支廳長ノ具申ニ依リ府縣知事之ヲ任免ス

書記ハ支廳長之ヲ任免ス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ハ町村長又ハ書記ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第九條　支廳長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村ノ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長一名ヲ置クコトヲ得

支廳長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村ニ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

區長及委員ハ名譽職トシ其ノ町村ニ於テ被選擧權ヲ有スル者ノ中ニ就キ支廳長之ヲ任免ス

第二款　職務權限及處務規程

第十條　町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料手數料加入金町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六　其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第十一條　町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督ス

第十二條　町村會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ其ノ議決ヲ取消スコトヲ得

前項取消處分ニ不服アル町村會ハ支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ支廳長ノ指揮ヲ請フヘシ

前項支廳長ノ處分ニ不服アル町村會ハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第十三條　町村會成立セサルトキ又ハ第四十六條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ支廳長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第四十八[illegible]ルテ會議[illegible]

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

町村會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スル暇ナシト認ムルトキ又ハ[illegible]ノ數減少[illegible]ハ町村長[illegible]ニ於テハ[illegible]

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第十四條　町村會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ町村長ニ於テ專決處分セシムルコトヲ得

第十五條　町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　[illegible]長ハ支廳[illegible]町村吏員[illegible]

第十七條　町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條　書記ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

町村長故障アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス

第十九條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第十五條ニ依ル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中

別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

收入役故障アルトキハ町村長ハ書記ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十條　區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助執行ス

委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第五十三條ノ規定ハ區長及委員ニ之ヲ準用ス

第三款　給料及給與

第二十一條　町村吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十二條　有給吏員ノ退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　前二條ニ定ムルモノノ外町村ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サムトスルトキハ支廳長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十四條　町村吏員ノ給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ町村ノ負擔トス

第二十五條　本章ニ規定スルモノノ外町村吏員ノ組織及職務權限等ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第三章　町村會

第一款　組織及選擧

第二十六條　町村會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

町村會議員ノ定數ハ一町村四名以上十二名以下トシ府縣知事之ヲ定ム

第二十七條　帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二箇年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村內ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ町村會議員ノ選擧權ヲ有ス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ支廳長ノ許可ヲ得テ前項二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

第一項ニ定ムル要件中其ノ年限ニ關スルモノハ町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ第一項ニ定ムル要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第二十八條　選擧權ヲ有スル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ選擧權ヲ停止ス家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第二十九條　選擧權ヲ有スル者ハ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ被選擧權ヲ有セス第一號乃至第五號ニ該當スル者ニシテ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサルトキ亦同シ

一　所屬府縣島ノ官吏及有給吏員
二　其ノ町村ノ有給吏員
三　檢事警察官吏及收稅官吏
四　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校教員
六　前條ニ依リ選擧權停止中ノ者及選擧ニ參與スルコトヲ得サル者

前項ニ揭ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條　町村會議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ四箇年トス

町村會議員中闕員ヲ生シ其ノ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ支廳長若ハ町村長町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第三十一條　選擧ニ關シ必要ナル規程ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第三十二條　選擧ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ支廳長ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ支廳長ニ報告スヘシ

第三十三條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得其ノ申立ノ期間ハ支廳長ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ支廳長ニ訴願スルコトヲ得

支廳長ニ於テ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ前條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ前條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項支廳長ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及町村長ノ決定ハ無效トス

本條支廳長ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第三十四條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第三十五條　町村會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ町村長之ヲ決定ス

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

町村會議員ハ其ノ被選擧權ヲ有セストスル決定又ハ裁決確定スル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十六條　第三十三條及前條ニ規定スル決定及裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條　特別ノ事情アル町村ニ於テハ支廳長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村會ヲ設ケス選擧權ヲ有スル者ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二款　職務權限及處務規程

第三十八條　町村會ハ町村ニ關スル事件及法令ニ依リ町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第三十九條　町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　町村規則ヲ設ケ及改廢スル事
二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第十五條ノ事務其ノ他法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
三　歲入出豫算ヲ定ムル事
四　決算報告ヲ認定スル事
五　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手數料加入金町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
六　不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事
七　基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
十　町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十一條　町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十二條　町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第四十四條　町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四十五條　町村會ハ町村長之ヲ招集ス但シ輕易ノ事件ニ付テハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聞キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ議決ト看做スコトヲ得

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十六條　町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條　議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第四十九條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十條　町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ之ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ町村吏員中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第五十二條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ニハ議長及議員一名以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第五十三條　町村會議員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

費用ノ辨償ハ町村ノ負擔トス

第四章　町村ノ財務

第一款　財產營造物及收入支出

第五十四條　町村ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財產ハ基本財產ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財產ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財產又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ基本財產又ハ積立金穀等ノ蓄積ヲ命スルコトヲ得

第五十五條　舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ町村內ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財產ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス

前項ノ營造物又ハ財產ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十六條　町村ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第五十七條　町村ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ町村內ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財產ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十八條　町村ハ第五十五條及前條ニ規定スル財產ノ使用ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第五十九條　町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十條　町村ハ其ノ必要ナル費用及法令又ハ慣例ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財產ヨリ生スル收入使用料手數料過料過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第六十一條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ稅目及稅率ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第六十二條　三箇月以上町村內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第六十三條　町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市區町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

住所滯在數市區町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係市區町村ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　所得稅法第四條ノ六ニ掲クル者ノ所得及同法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市區町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前各項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第六十六條　數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村内ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ町村内ノ一部ヲ利スル財産ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル

第六十七條　數個人又ハ町村内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第六十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外町村稅及夫役現品竝其ノ賦課徴收ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

町村稅ノ賦課徴收ニ關スル規程ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十九條　町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村會ノ議決ヲ經テ町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第七十條　使用料及手數料ニ關スル事項ニ付テハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ規則中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用ニ關スル町村規則ニ付亦同シ

第七十一條　第六十八條及前條ノ規定ニ依リ過料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル

第七十二條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴稅令書ノ交付後三箇月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料手數料加入金ノ徴收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

第七十三條　町村稅使用料手數料加入金夫役現品ニ代フル金錢過料過怠金其ノ他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

滯納者前項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徴收金ハ府縣ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條町村長ノ處分ニ不服アル者ハ支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第七十四條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　歲入出豫算及決算

第七十五條　町村長ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第七十六條　町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第七十八條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十九條　町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第八十條　收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又町村長ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ書記ニ之ヲ準用ス

第八十一條　町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第八十二條　町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第八條第五項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第八十三條　豫算ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第五章　町村内一部ノ行政及町村組合

第八十四條　町村内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ町村有財産ニ關スル規定ニ依ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ爲特ニ要スル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル町村内ノ一部ノ負擔トス

町村内ノ一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第八十五條　町村内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ町村内ノ一部ヲ利スル財産營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ支廳長ハ町村會ノ意見ヲ徴シテ町村規則ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ該事件ニ關シ町村會ノ議決スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定員任期及選擧權被選擧權ニ關スル事項ハ前項ノ町村規則中ニ之ヲ規定スヘシ

前項ノ外區會議員ノ選擧及區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ町村内一部ノ行政ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第八十六條　町村事務ノ一部又ハ全部ヲ共同處理セシムル爲支廳長ハ町村會ノ意見ヲ徴シ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得其ノ變更解除ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

第八十七條　町村組合ヲ設クルトキハ支廳長ハ前條ノ例ニ依リ組合規程ヲ設クヘシ其ノ變更ニ付亦同シ

組合規程ニ於テハ組合ノ名稱組合ヲ組織スル町村組合ノ共同事務及組合役場ノ位置其ノ他必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ於テハ前項ノ外仍組合會ノ組織及選擧組合吏員ノ組織及選任組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クルコトヲ要ス

第八十八條　町村組合ハ法人トス

町村組合ニ關シテハ町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十九條　本令ニ定ムルモノノ外町村組合ニ關スル必要ノ規定ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第六章　町村行政ノ監督

第九十條　町村行政ハ第一次ニ於テ支廳長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ町村行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第九十一條　本令ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議又ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本令中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

異議ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第九十二條　監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

府縣知事ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

第九十三條　町村ニ於テ法令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ支廳長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ支廳長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第九十四條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第七十四條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村規則ヲ設ケ及改廢スル事
二　基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
三　特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
四　不動産ノ管理及處分ニ關スル事
五　使用料手數料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
六　寄附又ハ補助ヲ爲ス事
七　第六十七條ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲ス事

第九十六條　左ニ掲クル事件ハ支廳長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　第五十五條ノ處分ヲ爲ス事
二　第六十六條ニ依リ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
三　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
四　特別會計ヲ設クル事

第九十七條　町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第九十八條　町村吏員ノ服務紀律懲戒賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第九十九條　町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關シ支廳長ノ職權ニ屬スル事件ノ一部ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ支廳長ハ其[illegible]タル事件ハ[illegible]支廳出張所長ニ委任スルコトヲ得

第七章　雜則

第百條　削除

第百一條　内務大臣ハ特別ノ事情アル町村ノ町村會議員選擧被選擧權ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百二條　本令ニ定ムル直接國稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

附　則

本令施行ノ地域及期日ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

（明治四十年内務省令第二十五號ヲ以テ明治四十一年四月一日ヨリ沖繩縣ニ、明治四十年内務省令第三十號ヲ以テ明治四十一年四月一日ヨリ東京府大島ニ、同年十月一日ヨリ同府八丈島ニ、明治四十一年内務省令第一號ヲ以テ明治四十一年四月一日ヨリ鹿兒島縣大島郡及對馬島ニ、大正十二年内務省令第十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ東京府利島、新島、神津島、三宅島、御藏島ニ施行）

附　則（大正十五年勅令第二百十七號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ島司ニ爲シタル許可又ハ指揮ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可又ハ指揮ナキモノハ之ヲ新規定ニ依リ支廳長ニ爲シタル許可又ハ指揮ノ申請ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ島司ニ於テ町村會ノ意見ヲ徴シタル場合ニ於テハ新規定ニ依リ支廳長ニ於テ町村會ノ意見ヲ徴シタルモノト看做ス

從前ノ規定ニ依リ島司ノ爲シタル處分ニ對シ島司ニ訴願シタル[illegible]支廳長ニ對スル訴願提起ノ期間ハ[illegible]アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

從前ノ規定ニ依リ島司ニ爲シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ裁決ナキモノハ之ヲ新規定ニ依リ支廳長ニ爲シタル訴願ト看做ス

看做ス

從前ノ規定ニ依リ島司ノ爲シタル處分又ハ裁決ハ第十二條第二項及第四項、第三十三條第五項、第三十五條第二項、第七十二條第三項及第四項竝ニ第七十三條第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ支廳長ノ爲シタル處分又ハ裁決ト看做ス

●町村制ヲ施行セサル島嶼指定

（大正十年五月三日勅令第百九十號）

朕明治二十二年勅令第一號町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

町村制第百五十七條ノ規定ニ依リ島嶼ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京府管下

小笠原島及伊豆七島

附　則

本令ハ大正十年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第三百三十五號ハ之ヲ廢止ス

●島嶼町村制施行ニ際シ取扱方

（明治四十一年三月二十八日內務省令第五號　改正　大正九年第十七號）

島嶼町村制ノ施行ニ際シ取扱方ノ件左ノ通定ム

第一條　島嶼町村制施行ニ際シ事務取扱ニ關シテハ明治二十一年內務省令第四號ノ規定ヲ準用ス但同省令第四條ノ豫算ハ町村長ニ於テ之ヲ設ケ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　明治二十一年內務省令第四號第七條精算ノ場合ニ於テ其ノ殘餘アルトキハ町村長ハ町村會ノ決議ヲ經テ之ヲ町村ノ歲入ニ繰越シ又ハ基本財產ト爲スコトヲ得

第三條　町村役場ノ位置ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムヘシ

●沖繩縣間切島竝東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件

（明治四十年三月十六日勅令第四十五號）

朕沖繩縣間切島竝東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　沖繩縣ノ間切島ハ之ヲ村ト改メ東京府伊豆七島中利島、神津島、御藏島、青ヶ島、大島波浮港及八丈島大賀鄕、中ノ鄕ニ村ノ名稱ヲ附ス

村ノ行政ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第二條　間切島內ノ村又ハ島ハ字トシテ其ノ名稱ヲ存ス

東京府伊豆七島及小笠原島ニ於テ村ト稱セサル島ハ從來管轄ヲ同フシタル村ノ一部ヲ成シ大字トシテ其ノ名稱ヲ存ス

第三條　村ヲ廢置分合シ其ノ區域名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲スコトヲ要スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ合併セラレタル村ノ名稱ニ付テハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ爲財產處分ヲ要スルトキハ關係アル村會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ地域及期日ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

（明治四十年內務省令第二十四號ヲ以テ明治四十一年一月一日ヨリ沖繩縣ニ、明治四十年內務省令第二十九號ヲ以テ明治四十一年二月一日ヨリ東京府大島及八丈島ニ、大正十二年內務省令第十八號ヲ以テ同年八月一日ヨリ東京府利島、新島、神津島、三宅島、御藏島ニ施行）

（明治四十一年三月二十八日內務省令第四號）

明治四十年勅令第四十五號第三條ニ依リ村ヲ廢置分合シ其ノ區域ヲ變更シタル場合ニ於テハ明治三十年內務省令第三號ノ規定ヲ準用ス

第四章　朝鮮

●府制

（大正二年十月三十日制令第七號　改正　大正九年第一二號）

府制明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

府制

第一條　府ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ其ノ公共事務及法令ニ依リ府ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二條　府ノ廢置及府ノ區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

府ノ廢置又ハ境界變更ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ道知事ハ府尹ノ意見ヲ聽キ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ其ノ處分方法ヲ定ム

第三條　府內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ府住民トス

府住民ハ本令ニ依リ府ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ府ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第四條　府ハ府住民ノ權利義務又ハ府ノ事務ニ關シ府條例ヲ設クルコトヲ得

府條例ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條　府尹ハ府ヲ統轄シ之ヲ代表ス

第六條　府ニ府吏員ヲ置クコトヲ得

府吏員ハ府尹之ヲ任免ス

第七條　府吏員ハ府尹ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

府吏員ハ有給トス但シ府條例ノ定ムル所ニ依リ名譽職ト爲スコトヲ得

第八條　府尹ハ府吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第九條　府ニ府出納吏ヲ置キ官吏又ハ府吏員ノ中ニ就キ府尹之ヲ命ス

府出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第十條　府尹ハ府ノ官吏ヲシテ府ノ行政ニ關スル事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ職務關係ハ國ノ行政ニ關スル職務關係ノ例ニ依ル

第十一條　府尹ノ諮問ニ應セシムル爲府ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ府尹及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會員ノ定員ハ十二人以上三十人以下ノ範圍內ニ於テ朝鮮總督之ヲ定ム

協議會ハ府尹ヲ以テ議長トス

第十二條　府尹ハ府ニ關スル左ノ事件ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　府條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二　歲入出豫算ヲ定ムル事
三　府債ニ關スル事
四　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事
五　基本財產、特別基本財產及積立金穀等ノ設置又ハ處分ニ關スル事
六　第二條第二項ノ財產處分ニ關スル事

府尹ハ必要ト認ムルトキハ前項各號ニ揭クル事件ノ外府ニ關スル事件ヲ協議會ニ諮問スルコトヲ得

第十三條　協議會員ハ之ヲ選擧ス

協議會員ハ名譽職トス

協議會員ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第十四條　協議會員其ノ職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ解任スルコトヲ得

第十四條ノ二　前四條ニ規定スルモノノ外協議會及協議會員ノ選擧其ノ他協議會員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十五條　名譽職府吏員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職府吏員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第十六條　有給府吏員ニハ府條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十七條　收益ノ爲ニスル府ノ財產ハ基本財產トシテ之ヲ維持スヘシ

府ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第十八條　府ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

府ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條　府ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十條　府ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ府ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

府ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他府ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ府稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第二十一條　三月以上府內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十二條　府內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖府內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、府內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ府內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル府稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十三條　府稅、使用料、手數料及夫役現品竝其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十四條　府稅、使用料、手數料及營造物ノ使用方法ニ關シテハ前條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外府條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ其ノ府條例中ニハ十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　府稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　府稅其ノ他府ニ屬スル徵收金ハ道地方費ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十七條　府ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、府ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ府債ヲ起スコトヲ得

府ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二十八條　府ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製スヘシ

府ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第二十九條　府費ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十條　府ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三十一條　府ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第三十二條　府ノ財務ニ關スル規定竝府吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

第三十三條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十四條　居留民團、各國居留地會及漢城衞生會ニ關スル法令ハ之ヲ廢止ス

第三十五條　居留民團ノ事務及權利義務ニシテ教育ニ關スルモノハ學校組合之ヲ承繼シ其ノ他ハ府之ヲ承繼ス

前項學校組合及府ノ承繼スヘキモノノ區分ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ道【長官】之ヲ定ム

各國居留地會ノ事務及權利義務ハ城津各國居留地會ヲ除クノ外府之ヲ承繼ス但シ各國居留地內ニ在ル外國人墓地及仁川各國居留地會ノ積立金ハ此ノ限ニ在ラス

漢城衞生會ノ事務及權利義務ハ京城府之ヲ承繼ス

前四項ニ規定スルモノノ外財產及負債ノ處分ヲ要スルトキハ道【長官】ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ其ノ處分方法ヲ定ム

第三十六條　本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正三年朝鮮總督府令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

附　則（大正九年制令第十二號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ協議會員ノ職ニ在ル者ハ本令ニ依リ初メテ其ノ府ノ協議會員ノ選擧セラルル迄在任ス

●府制施行規則

（大正三年朝鮮總督府令第百十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

（大正三年一月二十五日朝鮮總督府令第三號　改正　大正八年第三二號、第一七七號、九年第一六號、第一〇二號、一〇年第一六號、第一九號、第六三號、第一〇二號、一一年第八九號、一二年第九六號、昭和二年第三〇號）

府制施行規則左ノ通定ム

府制施行規則

第一條　府ノ區域ハ行政區劃タル府ノ區域ニ依ル

第二條　協議會員ノ定員ハ左ノ如シ

一　人口二萬未滿ノ府　十二人
二　人口二萬以上三萬未滿ノ府　十四人
三　人口三萬以上五萬未滿ノ府　十六人
四　人口五萬以上十萬未滿ノ府　二十人
五　人口十萬以上ノ府　三十人

前項ノ人口ハ道知事ノ認定ニ依ル

協議會員ノ定員ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

第二條ノ二　帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子一年以來府住民ト爲リ其ノ府ニ於テ朝鮮總督ノ指定シタル府稅年額五圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ府ノ協議會員ノ選擧權ヲ有ス但シ禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧權ヲ有スル者府稅滯納處分中ハ選擧權ヲ行使スルコトヲ得ス家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第二條ノ三　協議會員ノ選擧權ヲ有スル者ハ其ノ府ノ協議會員ノ被選擧權ヲ有ス但シ左ニ揭クル者及前條第二項又ハ第三項ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　所屬道竝其ノ府ノ官吏及有給吏員
二　檢事及警察官吏
三　神職、僧侶、其ノ他諸宗教師
四　小學校及普通學校ノ教員

第二條ノ四　協議會員中闕員ヲ生シ其ノ闕員協議會員定員ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補闕選擧ヲ行フヘシ

第二條ノ五　府尹ハ選擧期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

府尹ハ選擧期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間每日午前九時ヨリ午後四時迄府廳ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ府尹ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府尹ハ三日內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ三日內ニ之ヲ道知事ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ府尹ノ決定確定シ又ハ道知事ノ決定アリタルニ依リ選擧人名簿ノ修正ヲ要スルトキハ府尹ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ道知事ノ指定スル場合ヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年內ニ行フ選擧ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後道知事ノ決定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ府尹ハ直ニ其ノ要領ヲ公示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ道知事ノ決定書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキ又ハ第二條ノ二第二項第三項ニ該當スルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但

シ名簿ハ之ヲ修正セス

第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ決定アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ道知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選擧人名簿調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヰ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二項又ハ第三項ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二條ノ六　府尹ハ選擧期日前少クトモ七日間選擧會場、投票ノ日時及選擧スヘキ協議會員數ヲ告示スヘシ

第二條ノ七　府尹ハ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

府尹ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第二條ノ八　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ハ府尹ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第二條ノ九　左ノ投票ハ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
二　現ニ協議會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ十　投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ府尹之ヲ決定ス

第二條ノ十一　協議會員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ府尹抽籤シテ之ヲ定ム

第二條ノ十二　府尹ハ選擧錄ヲ調製シ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ノ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

選擧錄ハ投票其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二條ノ十三　當選者定マリタルトキハ府尹ハ直ニ當選者ニ其ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ府尹ニ申出ツヘシ

第二條ノ十四　協議會員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ府尹ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二條ノ十一ノ規定ヲ準用ス

第二條ノ十五　選擧ヲ終リタルトキハ府尹ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ道知事ニ報告スヘシ

第二條ノ十三第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ府尹ハ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ道知事ニ報告スヘシ

第二條ノ十六　選擧ノ規定ニ違反ノ事實アルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ニ限リ道知事ハ選擧又ハ當選ヲ取消スヘシ

選擧ノ規定ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ選擧人ハ當選者定マリタル日ヨリ五日内ニ其ノ理由ヲ道知事ニ申立テ前項ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二條ノ十七　道知事選擧又ハ當選ヲ取消シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二條ノ十八　選擧ノ取消アリタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

當選ノ取消アリタル場合ニ於テハ府尹ハ第二條ノ十一ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第二條ノ十九　協議會員ノ定員ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ

第二條ノ二十　協議會員ニシテ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無ハ府尹之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ五日内ニ之ヲ道知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二條ノ二十一　協議會員ハ選擧若ハ當選ノ取消アル迄又ハ前條第一項ノ決定確定シ若ハ前條第二項ノ申立ニ對シ決定アル迄ハ會議ニ列席スルコトヲ得

第二條ノ二十二　協議會ハ府尹之ヲ招集ス但シ輕易ナル事件ニ付テハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ協議會員ノ意見ヲ聽キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ協議會ノ意見ト看做スコトヲ得

招集及諮問スヘキ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二十三　協議會ハ府尹之ヲ開閉ス

協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二十四　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二條ノ二十五　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議長ハ必要アリト認ムルトキハ協議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二條ノ二十六　議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議錄ハ議長及出席協議會員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第二條ノ二十七　協議會員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第三條　府稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　市街地稅ノ附加稅
二　所得稅ノ附加稅
三　營業稅ノ附加稅
四　取引所稅ノ附加稅
五　地方稅家屋稅ノ附加稅
六　地方稅船稅ノ附加稅
七　地方稅車輛稅ノ附加稅
八　特別稅

附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ賦課スヘシ但シ第十條ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　國又ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地家屋物件及營造物ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

恩賜金事業ノ用ニ供スル土地家屋物件ニ付亦前項ニ同シ

國ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並敎會所說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

墓地並外國政府ノ所有ニ屬スル領事館及其ノ敷地ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五條　納稅者ノ府外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六條　市街地稅附加稅ハ市街地稅ノ十分ノ六、所得稅附加稅ハ所得稅ノ百分ノ十四、營業稅附加稅ハ營業稅額、取引所稅附加稅ハ取引所稅ノ百分ノ五十、地方稅家屋稅附加稅ハ地方稅家屋稅額、地方稅船稅附加稅ハ地方稅船稅額地方稅車輛稅附加稅ハ地方稅車輛稅額ヲ超ユルコトヲ得ス

必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第七條　永代借地及其ノ上ニ在ル建物ニ對シテハ其ノ借地料ヨリ國稅及地方稅ヲ控除シタル金額カ府稅額ニ等シキトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

借地料ヨリ國稅及地方稅ヲ控除シタル金額カ府稅額ヨリ少キトキハ其ノ差額ヲ府稅トシテ賦課スルコトヲ得

第八條　府尹ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅ヲ延期シ又ハ府稅ヲ減免スルコトヲ得

府稅ヲ減免セムトスルトキ又ハ年度ヲ超エ納稅ヲ延期セムトスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　夫役現品ハ特別ノ必要アルトキニ限リ之ヲ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞務ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役現品ニ付テハ之ヲ適用セス

急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役現品ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ納付ヲ命スヘシ

前項ノ命令ヲ發シタルトキハ府稅督促ノ例ニ依リ手數料ヲ徵收スヘシ

第十條　數人又ハ府ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ府ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ府ノ一部ニ對スル賦課ヲ爲スコトヲ得

第十一條　府稅ヲ徵收セムトスルトキハ府尹ハ納稅者ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ第十一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ徵收セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

使用料又ハ手數料ヲ徵收セムトスルトキハ府尹又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ納入告知書ヲ發スヘシ但シ即納ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

府尹ノ指定シタル使用料、手數料其ノ他ノ收入ハ其ノ府ニ於テ發行スル收入證紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

第十一條ノ二　府ハ朝鮮總督ノ指定シタル府稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スヘキ府稅ヲ府尹ノ指定シタル期日迄ニ府ニ拂込ムヘシ

第十一條ノ三　府ハ前條ノ規定ニ依ル徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ徵收義務者ニ交付スヘシ

第十一條ノ四　第十一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金拂込義務ノ免除ヲ府尹ニ申請スルコトヲ得

府尹前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ協議會ニ諮問シ之ヲ決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シ異議アル者ハ決定書ノ交付アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ十四日内ニ之ヲ道知事ニ申立ツルコトヲ得

第十二條　府稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一及第四條ノ三乃至第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十二條ノ二　前條ノ規定ハ第十一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル拂込金ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條　府稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納稅告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日内ニ府尹ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ使用料、手數料、過料、過怠金ノ徵收又ハ夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ府尹ニ申立ツルコトヲ得

前三項ノ異議ニ對シ府尹ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ三十日内ニ之ヲ道知事ニ申立ツルコトヲ得

前各項ノ申立及之ニ對スル決定ハ文書ヲ以テ爲スヘシ

第十四條　府尹ハ每會計年度府稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ年度開始前府協議會ノ諮問ヲ經テ歲入出豫算ヲ調製スヘシ

豫算ハ第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

豫算ニハ豫算說明書及財產明細表ヲ添附スヘシ

第十四條ノ二　府ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

第十五條　豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ第一號ノ式ニ準シ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十七條　繼續費ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

第十八條　府尹豫算ヲ調製シタルトキハ直ニ之ヲ道知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示シ豫算ノ謄本ヲ府出納吏ニ交付スヘシ

第十九條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ納稅告知書又ハ納入告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ納稅告知書又ハ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金、起債收入ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ歲入ト爲スコトヲ得

第二十條　歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
二　通信運搬費、土木建築費、物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、缺損補塡ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル年度ノ歲出ト爲スコトヲ得

第二十一條　各年度ノ經費ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ道知事ノ許可ヲ受ケ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第二十二條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

府尹豫算各項ノ金額ヲ流用シ又ハ豫備費ヲ支出シタルトキハ直ニ之ヲ道知事ニ報告スヘシ

第二十三條　支出ハ債主又ハ其ノ代理人ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　府出納吏ハ府尹ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク又ハ豫備費支出、費目流用其ノ他本令ノ規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第二十五條　遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ現金前渡ハ府ノ官吏吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費
二　訴訟費用

第二十七條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　歲入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戾ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂又ハ繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第二十九條　府ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

府尹ハ出納閉鎖後三月内ニ決算ヲ道知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ附スヘシ

第三十條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第二十八條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第三十一條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ府條例ノ規定ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第三十三條　工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ府條例ニ特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　府出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ毎月一回府尹之ヲ檢査スヘシ

府出納吏更迭シタルトキハ府尹ハ現金及帳簿ヲ檢査スヘシ

第三十五條　左ニ掲クル事件ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　府條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二　府債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ定率及償還方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事

第三十六條　左ニ掲クル事件ハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二　特別基本財産及積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スル事但シ積立金穀等ヲ其ノ目的ノ爲使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　不動産ノ處分ニ關スル事

四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五　年度内ノ收入ヲ以テ支辨スヘキ一時ノ借入金ヲ爲ス事

六　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

七　特別會計ヲ設クル事

八　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

第三十七條　府ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第三十八條　府ハ現金ノ出納及保管ノ爲府金庫ヲ置クコトヲ得

金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ道知事ノ許可ヲ受ケ府尹之ヲ定ム

第三十九條　金庫ハ出納吏ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ保管スル現金ハ府ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ府尹ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ府尹ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ府ニ納ムヘシ

第四十一條　府ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヨリ擔保ヲ徴スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ道知事ノ許可ヲ受ケ府尹之ヲ定ム

第四十二條　府尹ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ檢査スヘシ

附　則

本令ハ府制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年朝鮮總督府令第百二號）

本令ハ大正九年制令第十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年制令第十二號附則第二項ニ依ル協議會員ノ在任期間中ハ從來ノ規定ニ依ル協議會員ノ定員ヲ以テ協議會員ノ定員ト看做ス

第一號

大正何年度某府歳入出豫算

歳　入

一金　經常部豫算高
一金　臨時部豫算高
合計金

歳　出

一金　經常部豫算高
一金　臨時部豫算高
合計金

歳入出差引

殘金（ナシ）

歳計剩餘金ヲ翌年度ニ繰越サスシテ基本財産ニ編入セムトスル場合ハ左ノ通記載スヘシ

歳計剩餘金ハ全部基本財産ニ編入

又ハ

歳計剩餘金ノ内何歩基本財産ニ編入

大正何年度某府歳入出豫算

歳　入

經常部

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一　府税						
	一　地税附加税					○本税額一圓ニ付何程　何程
	二　家屋税附加税					○本税額一圓ニ付何程　何程
	三　何					○何
二　使用料及手數料						
	一　道路及公園使用料					○道路使用料一坪月額何程何坪　何程 ○公園使用料一坪月額何程何坪　何程
	二　病院收入					○藥價　何程 ○入院料一人一日何程延何人　何程 ○診察料一回何程何回　何程 ○手術料　何程 ○何
	三　避病院收入					○前例ニ準ス
	四　墓地使用料					○何等一坪何程何坪　何程
	五　火葬場使用料					○大人一回何程何回　何程 ○小兒一回何程何回　何程
	六　屠獸場使用料					○牛一頭何程何頭　何程 ○犢一頭何程何頭　何程 ○豚一頭何程何頭　何程
						○何
	七　水道使用料					○船舶給水料一噸何程何噸　何程 ○計量給水料何用一石何程何石　何程 ○專用栓給水料一戸月額何程何戸　何程 ○共用栓給水料私設一戸月額何程何戸　公設一戸月額何程何戸　何程 ○量水器使用料何吋一箇月額何程何箇　何程
	八　給水設備料					○增設費平均一箇所何程何箇所　何程 ○修繕費平均一箇所何程何箇所　何程
	九　督促手數料					○督促狀平均一通何程何通
	十　何					○何
三　交付金						
	一　國稅交付金					○國稅徵收金何程ノ百分ノ二
	二　地方費交付金					○地方費徵收金何程ノ百分ノ二
	三　國有地小作料交付金					○小作料徵收金何程ノ百分ノ二
四　財産ヨリ生スル收入						
	一　基本財産收入					○貸地料某所何地一坪何程何坪　何程 ○預金利子元金何程ニ對スル何步　何程 利 ○何
	二　何基本財産收入					○何
五　雜收入						
	一　物品賣却代					○屎尿代　何程 ○反古代　何程 ○何
	二　辨償金					○行旅病死人取扱費辨償金　何程 ○何
	三　報償金					○何
	四　何					○何
經常部計						

臨時部

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一　繰越金						
二　國庫補助金						
	一　水道費補助金					○水道敷設費補助金
	二　何					○何
三　地方費補助金						
	一　土木費補助金					○何通道路何費補助金
	二　何					○何
四　寄附金						
	一　土木費指定寄附金					○何
	二　何					○何
五　過年度收入						
	一　府税					
	二　何					
六　繰入金						
	一　何積立金繰入					○何程ノ内
	二　水道經濟ヨリ繰入					○何
	三　何					○何
七　財産賣却代						
	一　土地賣却代					○某所何地一坪何程何坪
	二　何					○何
八　府債						○何

臨時部計				
歲入合計				

歲出
經常部

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一事務費						
	一協議會費					○協議員費用辨償　何程 何人一人日額何程延何日 ○會場諸費　何程
	二府吏員給					○報酬　何程 平均月額何程何人 ○傭給　何程 內地人平均月額何程何人 朝鮮人平均月額何程何人
	三旅費					○何
	四宿舍料					○平均月額　何程何人
	五傭人料					○給仕給　何程 平均日額何程何人 ○小使給　何程 平均日額何程何人 ○臨時傭人料　何程 一人何程延何人
	六雜給					○府吏員費用辨償　何程 平均月額何程何人 ○慰勞金　何程 ○外勤手當　何程 ○府吏員宿直賄料　何程 一夜何程延何夜 ○小使宿直賄料　何程 一夜何程延何夜 ○退隱料　何程 ○退職給與金　何程 ○死亡給與金　何程 ○遺族扶助料　何程
	七需用費					○備品費　何程 ○消耗品費　何程 ○圖書及印刷費　何程 ○通信運搬費　何程 ○給仕小使被服費　何程 ○電燈費　何程 ○何
	八金庫諸費					○手當　何程 ○送金諸費　何程
	九公告諸費					○公文揭載料　何程 ○何
	十修繕費					○事務所修繕費　何程 ○吏員舍宅修繕費　何程 ○何
	十一雜費					○借家料　何程 ○何
二土木費						
	一道路橋梁費					○何通道路修繕費　何程 一坪何程何坪 ○何通橋渠修繕費　何程 ○街燈費　何程 一基一月何程何基 ○並木植繼費　何程 ○常傭工夫給　何程 平均日額何程何人 ○雜費　何程
	二治水堤防費					○何川護岸修繕費　何程 ○何川堤防修繕費　何程 ○雜費　何程
	三溝渠費					○何
	四港灣費					○防波堤修繕費　何程 ○何
	五測量費					○諸傭給　何程 平均日額何程何人 ○器械費　何程 ○雜費　何程
	六何					○何
三傳染病豫防費						
	一雜給					○囑託醫手當　何程 平均月額何程何人 ○豫防從事員手當　何程 日額何程延何日 ○臨時傭人料　何程 一人何程延何人 ○何
	二需用費					○器具機械費　何程 ○藥品費　何程 ○隔離中赤貧者賄費　何程 ○雜費　何程
	三種痘費					○囑託醫手當　何程 一人何程何人 ○藥品費　何程 ○雜費　何程

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
四傳染病院（又ハ隔離病舍）費						
	一給料					○醫員給　何程 平均月額何程何人 ○調劑員給　何程 平均月額何程何人 ○事務員給　何程 平均月額何程何人
	二雜給					○何囑託手當　何程 平均月額何程何人 ○看護婦給　何程 平均日額何程何人 ○小使給　何程 平均日額何程何人 ○賄人給　何程 平均日額何程何人 ○傭人料　何程 一人何程延何人 ○慰勞金　何程 ○何宿直賄料　何程 一夜何程延何夜 ○小使宿直賄料　何程 一夜何程延何夜 ○何
	三需用費					○器具機械費　何程 ○備品費　何程 ○藥品費　何程 ○消耗品費　何程 ○患者賄費　何程 一人一日何程延何人 ○雜費　何程
	四修繕費					○何
五病院費						
	一給料					○前例ニ準ス
	二雜給					○前例ニ準ス
	三器具機械費					○何
	四備品費					○何
	五藥品費					○何
	六消耗品費					○何
	七患者費					○賄料　何程 一人一日何程延何人
	八修繕費					○何
	九雜費					○何
六汚物掃除費						
	一雜給					○監督員給　何程 平均月額何程何人 ○何
	二傭人料					○常傭給　何程 平均日額何程何人 ○臨時傭人料　何程 一人何程延何人
	三馬匹費					○馬匹購入費　何程 平均一頭何程何頭 ○飼料　何程 一頭一月何程何頭 ○何
	四器具機械費					○何
	五消耗品費					○何
	六修繕費					○公共便所修繕費　何程 ○何
	七雜費					○何
七水道費						
	一雜給					○水質試驗囑託給　何程 一人何程何人 ○巡視給　何程 平均日額何程何人 ○鉛鐵工給　何程 平均日額何程何人 ○工夫給　何程 平均日額何程何人 ○石工給　何程 平均日額何程何人 ○大工給　何程 平均日額何程何人 ○何
	二需用費					○器具機械費　何程 ○消耗品費　何程 ○電話費　何程 ○何
	三作業費					○專用栓新設費　何程 平均一戶何程何戶 ○樹栽費　何程 ○何
	四修繕費					○水道修繕費　何程 ○家屋修繕費　何程
八屠獸場費						

	一　雑給					○居夫給　平均日額何程何人　何程 ○傭人料　一人何程延何人　何程
	二　需用費					○器具機械費　何程 ○消耗品費　何程 ○水道使用料　何程 ○何
	三　修繕費					○何
九　墓地及火葬場費						
	一　墓地費					○看守人手當　一人何程何人　何程 ○修繕費　何程 ○雑費　何程
	二　火葬場費					○看守人給　平均日額何程何人　何程 ○消耗品費　何程 ○修繕費　何程 ○雑費　何程
十　公園費						○園丁給　平均日額何程何人　何程 ○樹栽費　何程 ○修繕費　何程 ○點火費　何程
十一　勸業費						
	一　造林費					○某所何町歩一町　何程
	二　產業奬勵費					○何
	三　何					○何
十二　救助費						
	一　棄兒救助費					○何
	二　窮民救助費					○何
	三　罹災救助費					○何
	四　行旅病死人諸費					○何
十三　警備費						
	一　雑給					○組頭手當　何程 ○小頭手當　平均何程何人　何程 ○消防組員出場手當　一人一回何程延何人　何程
						○死傷手當　何程
	二　需用費					○器具機械費　何程 ○被服費　何程 ○何
	三　修繕費					○詰場修繕費　何程 ○信號所修繕費　何程
十四　基本財產造成費						
	一　基本財產造成					
	二　何基本財產造成					
十五　財產管理費						
	一　管理費					○何修繕費　何程 ○何ニ對スル火災保險料　何程
	二　諸稅					○地稅　何程 ○何
十六　雑支出						
	一　滯納處分費					○何
	二　過年度支出					○何
	三　午砲費					○砲手手當　何程 ○雑費　何程
	四　神社費					○神饌幣帛料
	五　一時借入金利子					○元金何程ニ對スル何歩利何月分
	六　何					○何
十七　豫備費						
經常部計						

臨時部

科目 款	項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	減	附記
一　土木費						
	一　道路橋梁費					○何通道路新開(改修)費　何程 ○何通橋梁新架(架換)費　何程
	二　治水堤防費					○何
	三　何					○何
二　傳染病院(又ハ隔離病舍)建築費						
	一　新築費					○木造平家建病室　一棟　一坪何程何坪　何程 ○何
	二　改築(增築)費					○何
三　水道費						
	一　取水工事費					○何
	二　淨水工事費					○何
	三　配水池工事費					○何
	四　水管工事費					○何
	五　何					○何
四　積立金穀						
	一　何建築積立金					
	二　何					
五　寄附及補助						
	一　寄附金					○何
	二　補助費					○何
六　府債費						
	一　元金償還					○元金何程ノ内　何程
	二　利子					○元金何程ニ對スル何歩利何月分
	三　諸費					○何
七　某費本年度支出額						
	一　某費ノ內某費本年度支出額					
	二　何					
臨時部計						
歲出合計						

備考
一　豫算金額ハ圓位ニ止ムヘシ
二　附記欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ掲記スヘシ
三　歲入出科目中其ノ項ヲ數多ニ區分スルヲ便トスル場合ハ本例ノ外適宜ニ之ヲ設クルモ妨ケナシ

第二號

自大正何年度
至大正何年度　某府某費繼續年期及支出方法

一金　　某費中某費

內譯

金　　大正何年度支出額
金　　大正何年度支出額
金　　大正何年度支出額

某府繼續費某費收支計算表

收入

科目 款	項	大正何年度	同何年度	同何年度	計	附記
一　補助金						
	一　國庫補助金					
	二　地方費補助金					
二　府債						
三　府費繰入金						
四　雜收入						
五　繰越金						
合計						

支出

科目 款	項	大正何年度	同何年度	同何年度	計	附記
某費						
	一　何工事費					○何

	二　雜給					○何
	三　需用費					○何
	四　何					○何
合計						

備考

一　繼續費ト爲ス費用ニ付特別會計ヲ設ケス又ハ特定ノ收入ナキ場合ニハ「繼續費某費支出計算表」トシ收入ノ部ハ之ヲ設クルヲ要セス

●府制及學校組合令ノ施行ニ關スル件（大正三年一月二十五日朝鮮總督府令第二號）

府制及學校組合令ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　從前ノ居留民團規則中府ニ關スル財產ノ管理方法、營造物ノ管理使用方法、使用料、消防、汚物掃除、救助、施療及督促手數料以外ノ手數料ニ關スル規定ハ府制又ハ府制ニ依リ發スル命令ニ牴觸セサル限當分ノ內府條例トシテ效力ヲ有ス

府住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ府條例ヲ以テ其ノ使用ニ關スル規定ヲ設クル迄慣行ニ依ルコトヲ得

第二條　府ノ區域ヲ包含スル學校組合ニ屬スル財產及營造物ノ管理方法、授業料及保育料ニ關シ居留民團規則ヲ以テ定メタル從前ノ規定ハ學校組合令及學校組合令ニ依リ發スル命令ニ牴觸セサル限學校組合令ニ依リ組合會ノ議決ヲ經テ定メタルモノト看做ス

第三條　府制施行前居留民團ノ徵收金滯納者ニ對シ居留民團民長ノ爲シタル督促又ハ滯納處分ハ府尹ノ爲シタルモノト看做ス

第四條　府制施行前居留民團法施行規則第三十八條第二項又ハ第三十九條第三項ニ依リ爲シタル異議ノ申立ハ從前ノ規定ニ依リ完結スヘシ

第五條　府制施行前居留民團法施行規則第三十九條第一項又ハ第二項ニ依リ民長ニ爲シタル異議ノ申立ハ府尹之ヲ決定スヘシ

第六條　府制施行前ニ爲シタル民團稅、使用料、手數料、夫役現品ノ賦課又ハ財產若ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ從前ノ規定ニ依ル期間內ニ府尹ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得居留民團法施行規則第三十八條第二項ノ處分ニ關シ異議アル者亦同シ

府制施行前居留民團法施行規則第三十九條第一項又ハ第二項ニ依ル異議ノ申立ニ對シ爲シタル民長ノ決定ニ異議アル者ハ從前ノ規定ニ依ル期間內ニ府尹ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第七條　前二條ノ異議ニ關シ府尹ノ爲シタル決定ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八條　居留民團民長、各國居留地會ノ事務擔任者及漢城衞生會會長ハ書類、帳簿、財產及負債ノ目錄並處分未濟若ハ未著手又ハ將來計畫スヘキ見込ノ事項ニ付キ其ノ順序方法及意見ヲ記載シタル書面ヲ調製シ府制施行後二十日內ニ其ノ擔任スル事務ヲ府尹ニ引繼クヘシ

第九條　居留民團ノ會計役又ハ會計事務ヲ掌ル者、各國居留地會ノ事務擔任者及漢城衞生會會長ハ現金、書類、帳簿其ノ他ノ物件ノ目錄ヲ調製シ府制施行後二十日內ニ其ノ擔任スル會計事務ヲ府尹ニ引繼クヘシ

第十條　前二條ノ期間內ニ引繼ヲ了スルコト能ハサルトキハ道【長官】ノ許可ヲ受ケ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　居留民團ノ事務引繼ニ關シテハ道【長官】ノ定ムル所ニ依リ府又ハ學校組合ニ引繼クヘキモノ及大正二年度ノ財務ニ關スルモノニ區分シ書類、帳簿、財產又ハ負債ノ目錄等ハ各別ニ調製スヘシ

第十二條　城津各國居留地會ノ事務ハ城津郡守ニ引繼クヘシ其ノ引繼ニ關シテハ第八條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス

城津各國居留地會ノ事務及權利義務ニ關シテハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ咸鏡北道【長官】之ヲ定ム

第十三條　淸津學校組合ノ事務及權利義務ニシテ教育事務ニ屬セサルモノハ淸津府之ヲ承繼ス其ノ承繼スヘキモノニ付疑アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ咸鏡北道【長官】之ヲ決定ス

淸津學校組合ノ管理者及會計役ハ第八條乃至第十一條ノ規定ニ準シ府尹ニ其ノ事務ヲ引繼クヘシ

第十四條乃至第十六條第十九條第二十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　居留民團、各國居留地會及漢城衞生會ノ收支ハ府制施行ノ日ノ前日ヲ以テ打切リ居留民團民長、各國居留地會ノ事務擔任者又ハ漢城衞生會會長ニ於テ決算スヘシ

前項ノ決算ハ城津各國居留地會ニ在リテハ城津郡守其ノ他ニ在リテハ府尹ニ之ヲ報告シ府尹又ハ城津郡守ハ之ヲ道【長官】ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第十五條　道【長官】ハ府制施行後直ニ府制第三十五條第二項ニ依リ定メタル權利義務ノ區分ヲ告示スヘシ

民團債ニシテ府及學校組合ノ負擔ニ歸スヘキモノアルトキハ各其ノ負擔スヘキ部分ヲ告示スヘシ

前項ノ告示アリタルトキハ債權者ハ府又ハ學校組合ニ對シ各其ノ負擔部分ニ付テノミ辨濟ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　大正二年度ニ屬スル居留民團ノ財務ハ從前ノ例ニ依リ府尹之ヲ處理ス

府尹ハ前項ノ事務ヲ處理スル爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

府尹ハ出納閉鎖後一月內ニ決算ヲ道【長官】ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第十七條　居留民團ノ廢止ニ依リ退職シタル吏員其ノ他ノ者ニ對スル諸給與及殘務整理ニ要スル費用ハ大正二年度ノ民團收入ヲ以テ支辨スヘシ

前項ノ吏員其ノ他ノ者ニ對スル退職給與金ノ額及其ノ支給方法ハ從前ノ例ニ依ル

第十八條　大正二年度ニ屬スル居留民團ノ收入ヲ以テ其ノ支出ニ充ツルニ足ラサルトキハ府尹ハ道【長官】ノ許可ヲ受ケ府ノ收入ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得

第十九條　居留民團ノ決算剩餘金ハ道【長官】ノ定ムル所ニ依リ府及學校組合ニ交付スヘシ

居留民團ノ歲計ニ剩餘ヲ生スル見込アルトキハ府尹ハ道【長官】ノ許可ヲ受ケ決算前ト雖之ヲ府又ハ學校組合ニ交付スルコトヲ得

第二十條　大正二年度居留民團豫算ノ執行ニ依リ取得シタル財產ハ道【長官】ノ定ムル所ニ依リ府尹ハ遲滯ナク府又ハ學校組合ニ交付スヘシ

第二十一條　大正二年度ニ屬スル漢城衞生會ノ豫算ニ關スル事務ハ從前ノ例ニ依リ經理ス

第二十二條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外居留民團、各國居留地會及漢城衞生會ノ殘務整理ニ關シ必要ナル事項ハ道【長官】之ヲ定ム

第二十三條　府尹ハ豫算ノ成立ニ至ル迄府又ハ學校組合ニ必要ナル收入支出ニ付假豫算ヲ設ケ道【長官】ノ許可ヲ受クヘシ但シ淸津學校組合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ支出ハ假ニ府稅又ハ學校組合費ヲ徵收シテ之ニ充テ又ハ居留民團、各國居留地會又ハ漢城衞生會ノ引繼金若ハ一時借入金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

前項ニ依リ假徵收ヲ爲シタル府稅又ハ學校組合費ハ豫算成立ノ上納稅人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ

第二十四條　各國居留地會ノ徵收未濟金ノ徵收及滯納處分ニ關シテハ府稅ノ例ニ依ル

城津各國居留地會ノ徵收未濟金ノ徵收及未拂金ノ支拂ハ城津郡守之ヲ行フ

附　則

本令ハ府制及學校組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●面制（大正六年六月九日制令第一號）

改正　大正九年第一三號

面制明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

面制

第一條　面ハ法令ニ依リ面ニ屬セシメタル事務ヲ處理ス

第二條　面ノ事務ハ面長之ヲ擔任ス

第三條　面ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ有給又ハ無給ノ面吏員ヲ置クコトヲ得

面吏員ハ郡守又ハ島司之ヲ任免ス

面吏員ハ面長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第四條　面長ノ諮問ニ應セシムル爲面ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ面長及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會員ノ定員ハ八人以上十四人以下ノ範圍內ニ於テ朝鮮總督之ヲ定ム

協議會ハ面長ヲ以テ議長トス

第四條ノ二　面長ハ面ニ關スル左ノ事件ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、賦課金又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

三　借入金ニ關スル事但シ第九條第二項ノ一時ノ借入金ヲ除ク

四　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

五　第十四條ノ財產ノ處分ニ關スル事

面長ハ必要ト認ムルトキハ前項各號ニ揭クル事件ノ外面ニ關スル事件ヲ協議會ニ諮問スルコトヲ得

第四條ノ三　協議會員ハ朝鮮總督ノ指定スル面ニ在リテハ之ヲ選擧シ其ノ他ノ面ニ在リテハ郡守又ハ島司之ヲ命ス

協議會員ハ名譽職トス

協議會員ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第四條ノ四　協議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ郡守又ハ島司ハ道知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ解任スルコトヲ得

第五條　前四條ニ規定スルモノノ外協議會及協議會員ノ選擧其ノ他協議會員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條　面ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

面ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第七條　面ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ面ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

面ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他面ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ賦課金及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八條　賦課金其ノ他面ニ屬スル徵收金ハ地方費ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵及還付ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第九條　第四條ノ三ノ朝鮮總督ノ指定スル面ハ天災事變又ハ舊債償還ノ爲必要アルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得永久ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要アル場合ニ於テ二十年內ニ借入金ノ元利ヲ償還シ得ルコト確實ナルトキ亦同シ

面ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ道知事ノ認可ヲ受ケ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十條　面ハ毎會計年度歲入歲出豫算ヲ調製シ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　面ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

面ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第十二條　賦課金、使用料、手數料及夫役現品並其ノ賦課徵收ニ關スル事項其ノ他面ノ財務ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條　面ノ事務ノ一部ヲ共同處理セシムル爲必要アルトキハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ面組合ヲ設クルコトヲ得

面組合ニハ本令中面ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ニ付テハ朝鮮總督ハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ外面組合ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十四條　面ノ區域ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ道知事ハ關係アル面長ノ意見ヲ徵シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ面ニ屬スル財產ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　面長、面吏員ノ賠償責任、身元保證、事務引繼其ノ他面長、面吏員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正六年朝鮮總督府令第三十七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（大正九年制令第十三號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（大正九年朝鮮總督府令第百十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●面制施行規則（大正六年六月九日朝鮮總督府令第三十四號）

改正　大正八年第一二三號、九年第一號、第一〇三號、一一年第二四號、第八一號、一二年第二五號、一五年第七二號、昭和元年第二號、二年第二九號

面制施行規則左ノ通定ム

面制施行規則

第一章　面ノ事務

第一條　面ハ別段ノ定アルモノノ外左ノ事務ヲ處理スルコトヲ得

一　道路橋梁渡船、河川堤防、灌漑排水

二　市場、造林、農事養蠶畜產其ノ他ノ產業ノ改良普及、害鳥蟲驅除

三　墓地、火葬場、屠場、上水、下水、傳染病豫防、汚物ノ處置

四　消防、水防

五　諸證明、公簿閱覽

面ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項各號以外ノ事務ヲ處理スルコトヲ得

第二章　面吏員及協議會

第二條　面制第四條ノ三ノ規定ニ依リ指定シタル面ニ副長一人ヲ置ク

副長ハ面長ノ事務ヲ補佐シ面長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第二條ノ二　面ニ書記ヲ置キ其ノ定員ハ郡守又ハ島司之ヲ定ム

副長ヲ置カサル面ノ面長事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス副長ヲ置キタル面ニ於テ面長副長共ニ事故アルトキ亦同シ

第二條ノ三　面ハ道知事ノ認可ヲ受ケ技手ヲ置クコトヲ得

第二條ノ四　副長、書記及技手ハ有給トス

第三條　郡守又ハ島司ハ書記ノ中ニ就キ會計員ヲ命スヘシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ道知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

會計員ハ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

第一項但書ノ場合ニ於テハ本令中會計員ニ關スル規定ハ面長ニ之ヲ準用ス

第四條　町洞里ニ區長ヲ置ク

特別ノ事情アルトキハ郡守又ハ島司ハ二以上ノ町洞里ニ一區長又ハ一町洞里ニ二以上ノ區長ヲ置クコトヲ得

區長ハ無給トシ其ノ町洞里內ニ住所ヲ有スル者ノ中ニ就キ之ヲ任ス

區長ハ面ノ事務ニシテ町洞里ニ關スルモノヲ補助ス

第五條　郡守又ハ島司ハ面吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得懲戒ハ譴責、減給及解職トス

第六條　協議會員ノ定員左ノ如シ

一　人口五千未滿ノ面　八人

二　人口五千以上一萬未滿ノ面　十人

三　人口一萬以上二萬未滿ノ面　十二人

四　人口二萬以上ノ面　十四人

前項ノ人口ハ道知事ノ認定ニ依ル

協議會員ノ定員ハ總選擧又ハ總改任ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

第六條ノ二　協議會員ノ選擧ヲ行フ面左ノ如

シ

京畿道水原郡水原面
同　開城郡松都面
同　始興郡永登浦面
忠淸北道淸州郡淸州面
同　忠州郡忠州面
忠淸南道公州郡公州面
同　大田郡大田面
同　論山郡江景面
同　燕岐郡鳥致院面
同　天安郡天安面
全羅北道全州郡全州面
同　益山郡益山面
同　井邑郡井邑面
全羅南道光州郡光州面
同　麗水郡麗水面
同　濟州島濟州面
慶尙北道金泉郡金泉面
同　迎日郡浦項面
同　慶州郡慶州面
同　安東郡安東面
同　尙州郡尙州面
慶尙南道晋州郡晋州面
同　昌原郡鎭海面
同　統營郡統營面
同　密陽郡密陽面
同　東萊郡東萊面
黃海道海州郡海州面
同　黃州郡兼二浦面
同　鳳山郡沙里院面
平安南道安州郡安州面
平安北道義州郡義州面
同　定州郡定州面
同　宣川郡宣川面
同　江界郡江界面
江原道春川郡春川面
同　江陵郡江陵面
同　鐵原郡鐵原面
咸鏡南道咸興郡咸興面
同　北靑郡北靑面
咸鏡北道鏡城郡羅南面
同　城津郡城津面
同　會寧郡會寧面
同　慶興郡雄基面

第六條ノ三　帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子一年以來面內ニ住所ヲ有シ其ノ面ニ於テ朝鮮總督ノ指定シタル面賦課金年額五圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ面ノ協議會員ノ選擧權ヲ有ス但シ禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧權ヲ有スル者面賦課金滯納處分中ハ選擧權ヲ行使スルコトヲ得ス家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第一項ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ面ノ區域變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第六條ノ四　協議會員ノ選擧權ヲ有スル者ハ其ノ面ノ協議會員ノ被選擧權ヲ有ス但シ左ニ揭クル者及前條第二項又ハ第三項ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　所屬道郡島ノ官吏及有給吏員
二　其ノ面ノ面長及有給吏員
三　檢事及警察官吏
四　神職、僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校及普通學校ノ教員

第六條ノ五　協議會員中闕員ヲ生シ其ノ闕員定員ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補闕選擧ヲ行フヘシ

第六條ノ六　面長ハ選擧期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

面長ハ選擧期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間每日午前九時ヨリ午後四時迄面事務所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ面長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ面長ハ三日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ三日以內ニ之ヲ郡守又ハ島司ニ申出ツルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ面長ノ決定確定シ又ハ郡守若ハ島司ノ決定アリタルニ依リ選擧人名簿ノ修正ヲ要スルトキハ面長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ道知事ノ指定スル場合ヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年內ニ行フ選擧ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後郡守又ハ島司ノ決定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ面長ハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ郡守又ハ島司ノ決定書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキ又ハ第六條ノ三第二項、第三項ニ該當スルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正セス

第二項、第三項ノ場合ニ於テ決定アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ郡守又ハ島司ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選擧人名簿調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヰ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二項又ハ第三項ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條ノ七　面長ハ選擧期日前少クトモ七日間選擧會場、投票ノ日時及選擧スヘキ協議會員數ヲ公告スヘシ

第六條ノ八　面長ハ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

面長ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第六條ノ九　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ハ面長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第六條ノ十　左ノ投票ハ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
二　現ニ協議會員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ十一　投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ面長之ヲ決定ス

第六條ノ十二　協議會員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ採リ年齡同シキトキハ面長抽籤シテ之ヲ定ム

第六條ノ十三　面長ハ選擧錄ヲ調製シ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

選擧錄ハ投票其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第六條ノ十四　當選者定マリタルトキハ面長ハ直ニ當選者ニ其ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ面長ニ申立ツヘシ

第六條ノ十五　協議會員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ面長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第六條ノ十二ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ十六　選擧ヲ終リタルトキハ面長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡守又ハ島司ニ報告スヘシ

第六條ノ十四第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ面長ハ當選者ノ住所、氏名ヲ公告シ併セテ之ヲ郡守又ハ島司ニ報告スヘシ

第六條ノ十七　選擧ノ規定ニ違反ノ事實アルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ニ限リ道知事ハ選擧又ハ當選ヲ取消スヘシ

選擧ノ規定ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ選擧人ハ當選者定マリタル日ヨリ五日內ニ其ノ事由ヲ道知事ニ申立テ前項ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ申立ハ郡守又ハ島司ヲ經由スヘシ

第六條ノ十八　道知事選擧又ハ當選ヲ取消シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第六條ノ十九　選擧ノ取消アリタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

當選ノ取消アリタルトキハ面長ハ第六條ノ十二ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第六條ノ二十　協議會員ノ定員ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ

第六條ノ二十一　第六條ノ二ノ面以外ノ面ノ協議會員ハ第六條ノ四ニ規定スル資格ヲ有スル者ノ中ニ就キ之ヲ任命スヘシ

第六條ノ二十二　協議會員ニシテ第六條ノ四ニ規定スル資格ヲ闕クニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ資格ノ有無ハ郡守又ハ島司之ヲ決定ス

第六條ノ二十三　協議會員ハ選擧若ハ當選ノ取消アル迄又ハ前條ノ決定アル迄ハ會議ニ列席スルコトヲ得

第七條　協議會ハ面長之ヲ招集ス但シ輕易ナル事件ニ付テハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ協議會員ノ意見ヲ聽キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ協議會ノ意見ト看做スコトヲ得

招集及諮問スヘキ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

協議會ハ面長之ヲ開閉ス

第七條ノ二　協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニアラス

第七條ノ三　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七條ノ四　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議長ハ必要アリト認ムルトキハ協議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第七條ノ五　議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議錄ハ議長及出席協議會員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第八條　協議會員及區長ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第九條　費用辨償額、給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ道知事ノ認可ヲ受ケ郡守又ハ島司之ヲ定ム

第三章　賦課金其ノ他面ノ收入

第十條　賦課金及夫役現品ハ面內ニ住所ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

三月以上面內ニ滯在スル者ニ對シテハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ賦課金ヲ賦課スルコトヲ得

第十一條　面內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖面內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、面內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ面內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ付又ハ其ノ行爲ニ付賦課金ヲ賦課スルコトヲ得

第十二條　納入者ノ面外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ面外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ賦課金ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十三條　賦課金トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　地稅割又ハ市街地稅割
二　營業稅割
三　戶別割
四　特別賦課金

第十四條　地稅割又ハ市街地稅割及營業稅割ハ均一ノ課率ヲ以テ地稅又ハ市街地稅及營業稅ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課スヘシ但シ第二十條ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　戶別割ハ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ對シ其ノ所得、資產又ハ生計ノ程度ニ依リ等差ヲ設ケテ之ヲ賦課スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ等差ヲ設ケスシテ賦課スルコトヲ得

第十六條　特別賦課金ハ別ニ課目ヲ設ケテ賦課スルノ必要アルトキ之ヲ賦課スルモノトス

第十七條　地稅割又ハ市街地稅割、營業稅割及戶別割ノ課率ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　地稅割　地稅一圓ニ付　四十六錢
二　營業稅割　營業稅一圓ニ付　一圓
三　市街地稅割　市街地稅一圓ニ付　四十六錢
四　戶別割　納入義務者平均一人ニ付　（[illegible]）

特別ノ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第十八條　面長ハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ特別ノ事情アル者ニ對シ賦課金ノ納入ヲ延期シ又ハ賦課金ヲ減免スルコトヲ得

地稅令第八條乃至第十條、市街地稅令第六條又ハ大正三年制令第四號ニ依リ地稅又ハ市街地稅ヲ免除シタル土地ニ付テハ地稅割又ハ市街地稅割ハ之ヲ免除スヘシ

第十九條　夫役現品ハ[illegible]郡守又ハ島司[illegible]之ヲ金額ニ[illegible]

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ[illegible]得

第二十條　數人又ハ面ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ面ハ道知事ノ認可ヲ受ケ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ面ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　地税割又ハ市街地税割、營業税割及戸別割ハ各納期ニ賦課額ヲ均分シ地税又ハ市街地税、營業税及地方費ニ於テ徴收スル戸税又ハ家屋税ト同時ニ之ヲ徴收スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ別ニ徴收ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條　賦課金、現品、使用料又ハ手數料ヲ徴收セムトスルトキハ面長ハ納入者ニ對シ其ノ納額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發シ之ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ交付スヘシ但シ使用料又ハ手數料ヲ即納セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　賦課金ノ徴收ニ關シテハ國税徴收法第四條ノ一、第四條ノ三乃至第四條ノ八及國税徴收令施行規則第十條第一項ノ規定ヲ準用ス

第四章　面ノ財務

第二十四條　面長ハ毎會計年度賦課金其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出豫算ヲ調製シ年度開始ノ一月前ニ郡守又ハ島司ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十五條　面ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

第二十六條　面長ハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　面長ハ豫算ノ認可ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第二十八條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金、借入金ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ歳入ト爲スコトヲ得

第二十九條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、給料其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費、物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂ヲ決定シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、缺損補塡ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル年度ノ歳出ト爲スコトヲ得

第三十條　各年度ノ經費ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ道知事ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第三十一條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得

豫備費ノ支出ハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條　會計員ハ面長ノ決定ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條　支拂ハ債主又ハ其ノ代理人ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條　會計員支拂ヲ爲シタルトキハ領收證ヲ徴スヘシ

前項ノ領收證ハ第三十二條ノ決定ニ關スル書類ニ添付シ豫算ノ款項別ニ之ヲ編綴スヘシ

第三十五條　遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ現金前渡ハ面長面吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

第三十七條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第三十八條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、概算拂、前金拂、繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第三十九條　面ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

面長ハ出納閉鎖後一月内ニ決算ヲ調製シ郡守又ハ島司ノ承認ヲ受ケ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第四十條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第三十八條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第四十一條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四十二條　一件三百圓以上ノ工事ノ請負、物件ノ賣買、貸借及勞力ノ供給ハ公告シテ競爭ニ付スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受ケ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四十三條　現金ハ郵便局所、金融組合又ハ確實ナル銀行ニ預入ルヘシ但シ五十圓以下ノ金額ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ難キ場合ハ其ノ保管方法ヲ定メ郡守又ハ島司ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條　面ニハ收納簿、現金受拂簿、歳入內譯簿及歳出內譯簿ヲ備フヘシ

第四十五條　會計員ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ毎月一回以上面長之ヲ檢査スヘシ

會計員更迭シタルトキハ面長ハ現金及帳簿ヲ檢査スヘシ

第四十六條　特別賦課金又ハ使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ第四十八條第一項第一號ニ規定スル使用料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　借入金ヲ爲サムトスルトキハ其ノ借入方法、利率及償還方法ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四十八條　左ニ揭クル事件ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　墓地、火葬場、屠場、獸皮乾燥場、渡船ノ使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト

二　手數料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト

三　基本財產ノ設置、管理及處分ニ關スルコト

四　積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト但シ積立タル目的ノ爲處分スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

五　不動產ノ處分ニ關スルコト

六　寄附又ハ補助ヲ爲スコト

七　歳入歳出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト

第四十八條ノ二　第四十六條又ハ第四十八條第一號若ハ第二號ノ認可ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ公告スヘシ

第五章　面組合

第四十九條　面組合ヲ設ケムトスルトキハ組合規約ヲ定メ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ面組合ヲ解キ又ハ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第五十條　組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル面、組合ノ共同事務、組合協議會ノ組織、組合事務ノ管理方法及組合費用ノ分賦方法ヲ規定スヘシ

第五十一條　面組合ノ事務ヲ管理スル者ハ其ノ組合ヲ組織スル面ノ面長ノ中ニ就キ道知事之ヲ命スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ郡守又ハ島司ヲシテ其ノ事務ヲ管理セシムルコトヲ得

第五十二條　面組合ノ費用ハ其ノ組合ヲ組織スル面ニ之ヲ分賦スヘシ

第五十三條　面組合ニハ本令中面ニ關スル規定ヲ準用ス

第六章　雜則

第五十四條　面ノ公告ハ面ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ其ノ式トス

附　則

本令ハ面制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年朝鮮總督府令第十六號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正九年朝鮮總督府令第百三號）

本令ハ大正九年制令第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後一年內ニ行フ協議會員ノ選擧ニ付テハ道知事必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第六條ノ三ノ要件中面賦課金年額ヲ低下スルコトヲ得

協議會員ノ任命ニ付道知事必要ト認ムルトキハ當分ノ內朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第六條ノ二十一ノ要件中面賦課金年額ヲ低下スルコトヲ得

●面ニ關スル規程　（明治四十三年十月一日朝鮮總督府令第八號）

（改正　大正六年第四〇號、一一年第一二四號）

朝鮮總督府地方官官制第二十五條ニ依リ面ニ關スル規程左ノ通定ム

面ニ關スル規程

第一條　面ノ名稱及區域ハ從前ノ例ニ依ル

面ノ名稱及區域ノ變更ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ道知事之ヲ定ム

第二條　削除

第三條　面長ノ手當竝事務執行ニ要スル費用ハ面ノ負擔トス

面長ノ手當額、旅費額竝其ノ支給方法ハ道知事之ヲ定ム

第四條　本令ニ面ト稱スルハ社坊部其ノ他何等ノ名稱ヲ用ウルニ拘ラス面ニ該當スルモノヲ謂フ

附　則

第五條　本令施行ノ際面長又ハ面長ニ該當スル職務ニ在ル者ハ總テ本令ニ依リ其ノ職ニ任セラレタル者ト看做ス

第六條　本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●學校組合令　（大正二年十月三十日制令第八號）

學校組合令改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

學校組合令

第一條　學校組合ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍內ニ於テ內地人ノ教育ニ關スル事務ヲ處理ス

第二條　學校組合ヲ設置セムトスルトキハ發起人ハ區域ヲ定メ組合規約ヲ作リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ハ組合區域內ニ住所ヲ有シ獨立ノ生計ヲ營ム內地人三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルモノナルコトヲ要ス

第三條　學校組合ノ區域內ニ住所ヲ有スル內地人ハ其ノ組合ノ組合員トス

組合員ハ本令ニ依リ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ組合ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第四條　學校組合ノ分合廢止又ハ區域ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係組合ハ其ノ組合會ノ議決ヲ經テ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ組合之カ爲組合規約ノ設定若ハ變更又ハ財產處分ヲ要スルトキ亦同シ

何レノ學校組合ノ區域ニモ屬セサル地域ヲ組合ノ區域ニ編入セムトスル場合ニ於テハ第二條第二項ノ規定ニ準シ新ニ組合員タルヘキ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　學校組合ニ組合會ヲ置ク

第六條　組合會議員ハ之ヲ選擧ス

組合會議員ハ名譽職トス

組合會議員ノ選擧人及被選擧人ノ資格ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條　組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　組合規約ヲ變更スル事

二　歳入出豫算ヲ定ムル事

三　決算報告ヲ認定スル事

四　基本財產、特別基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

五　不動產ノ管理及處分ニ關スル事

六　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

七　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料組合費及夫役現品竝其ノ賦課徴收ニ關スル事

八　組合債ニ關スル事

九　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

十　組合ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第八條　組合會ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ管理者ヲシテ之ヲ專決處分セシムルコトヲ得

第九條　前四條ニ定ムルモノヲ除クノ外組合會及組合會議員ノ選擧ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十條　學校組合ニ管理者ヲ置ク

管理者ハ組合員中ヨリ道【長官】之ヲ命ス其ノ任期ハ三年トス

管理者ハ名譽職トス但シ必要ニ依リ有給ト爲スコトヲ得

府ノ區域ヲ包含スル學校組合ニ在リテハ府尹其ノ管理者ノ職務ヲ行フ

第十一條　管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

第十二條　組合會ノ議決其ノ權限ヲ超エ、法令若ハ組合規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ管理者ハ道【長官】ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ヲ取消シ其ノ事件ヲ處理スルコトヲ得

組合會成立セサルトキ、會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ管理者ハ道【長官】ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處理スルコトヲ得

第十三條　學校組合ニ有給又ハ名譽職ノ吏員ヲ置クコトヲ得

吏員ハ管理者之ヲ任免ス

吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十四條　管理者ハ組合吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第十五條　管理者ノ職務ヲ行フ府尹ハ府ノ官吏ヲシテ學校組合ノ行政ニ關スル事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ職務關係ハ國ノ行政ニ關スル職務關係ノ例ニ依ル

第十六條　組合會議員、名譽職タル管理者及吏員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職タル管理者及吏員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經テ道【長官】ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十七條　有給ノ管理者及吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經テ道【長官】ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十八條　有給ノ管理者及吏員ニハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十九條　收益ノ爲ニスル組合ノ財產ハ基本財產トシテ之ヲ維持スヘシ

組合ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第二十條　組合ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十一條　組合ハ內地人ノ教育ニ關シ必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　組合ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

組合ハ其ノ財產ヨリ生スル收入其ノ他組合

ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ組合費及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第二十三條　組合費ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ組合員ノ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　組合費又ハ夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　組合費及使用料ノ賦課徴收ニ關スル事項ニ付テハ組合規約中ニ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十六條　組合費其ノ他組合ニ屬スル徴收金ハ地方費ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十七條　組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、組合ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二十八條　組合ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製スヘシ

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第二十九條　組合費ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十條　組合ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第三十一條　組合ハ第一次ニ於テ郡守之ヲ監督シ第二次ニ於テ道【長官】之ヲ監督シ第三次ニ於テ朝鮮總督之ヲ監督ス但シ府尹管理者ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ第一次ニ於テ道【長官】之ヲ監督シ第二次ニ於テ朝鮮總督之ヲ監督ス

組合ノ區域數郡ニ跨ルトキハ其ノ監督官廳ハ朝鮮總督之ヲ指定ス

監督官廳ハ組合ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　左ニ揭クル事件ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　組合規約ヲ變更スル事

二　組合債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ其ノ年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　左ニ揭クル事件ハ道【長官】ノ許可ヲ受クヘシ

一　基本財產ノ管理及處分ニ關スル事

二　特別基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事但シ積立金穀等ヲ其ノ目的ノ爲使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　不動產ノ處分ニ關スル事

四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五　使用料、組合費及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

六　一時ノ借入金ヲ爲ス事

七　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

第三十四條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第三十五條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第三十六條　道【長官】ハ組合管理者ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第三十七條　組合ノ財務ニ關スル規定並組合管理者及組合吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

第三十八條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十九條　本令施行ノ際現ニ存スル學校組合ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第四十條　淸津以外ノ府ノ府尹ハ本令施行後直ニ學校組合ノ區域ヲ定メ組合規約ヲ作リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ學校組合ヲ設置スヘシ

前項ノ規定ニ依リ設置シタル學校組合ハ本令施行ノ日ニ於テ設置シタルモノト看做ス

第四十一條　本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

●學校組合令施行規則

（大正三年朝鮮總督府令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

（大正三年一月二十五日朝鮮總督府令第六號）　改正　大正三年第一一九號

學校組合令施行規則左ノ通定ム

學校組合令施行規則

第一章　設置及廢止

第一條　學校組合設置ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ發起人ハ其ノ願書ニ同意者ノ署名捺印シタル組合規約及左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　組合區域內ニ住所ヲ有スル內地人ノ職業別戶口表

二　入學スヘキ學年別兒童數表

三　校舍ノ設備豫定書

四　組合員タルヘキ者ノ資力調書

五　歲入歲出槪算

六　組合區域及鄰接地ノ略圖

第二條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱及區域

二　組合會議員ノ選擧人及被選擧人ノ資格

三　組合吏員ニ關スル規定

四　組合費、使用料及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル規定

五　前各號ノ外必要ナル規定

組合規約ハ組合管理者之ヲ告示スヘシ

第三條　組合創立ニ關スル費用ハ組合成立ノ後組合費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　學校組合令第四條第一項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ關係組合會ノ會議錄ヲ添附シ願出ツヘシ

學校組合令第四條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　組合ノ設置、分合、廢止又ハ區域ノ變更ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第二章　組合會

第六條　組合會議員ノ定數左ノ如シ

一　組合員五百未滿	六人
二　組合員五百以上二千未滿	八人
三　組合員二千以上五千未滿	十人
四　組合員五千以上一萬未滿	十二人
五　組合員一萬以上二萬未滿	十四人
六　組合員二萬以上四萬未滿	十六人
七　組合員四萬以上	十八人

前項ノ組合員ノ數ハ道【長官】ノ認定ニ依ル

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

第七條　組合成立シタルトキハ組合管理者ハ遲滯ナク組合會議員ノ選擧ヲ行フヘシ

第八條　新ニ組合ヲ設置シタル場合ニ於テ組合會成立スルニ至ル迄ノ間議員ノ選擧ニ付組合會ノ決定スヘキ事件ハ管理者之ヲ決定スヘシ

第九條　組合會議員ノ任期ハ三年トス

第十條　組合會議員中其ノ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補闕選擧ヲ行フヘシ闕員議員定數ノ三分ノ一ニ至ラスト雖管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ補闕選擧ヲ行フコトヲ得

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十一條　管理者ハ選擧期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

管理者ハ選擧期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間每日午前八時ヨリ午後四時迄組合事務所又ハ告示シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管理者ハ縱覽期間滿了後三日內ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ異議アル者ハ三日內ニ之ヲ道【長官】ニ申立ツルコトヲ得管理者ニ於テ異議アルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ組合會ノ決定確定シ又ハ道【長官】ノ決定アリタルニ依リ選擧人名簿ノ修正ヲ要スルトキハ管理者ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ道【長官】ノ指定スル場合ヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年內ニ行フ選擧ニ之ヲ用フ但シ名簿確定後道【長官】ノ決定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ道【長官】ノ決定書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキ又ハ選擧權ヲ行使スルヲ得サルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正セス

第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ決定アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ第一次監督官廳ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選擧人名簿調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヰ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

選擧人名簿調製及縱覽ニ關スル期日、期間ハ第一項及第二項ノ規定ニ拘ラス組合規約ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第二項又ハ第三項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十二條　管理者ハ選擧期日前少クモ七日間選擧會場、投票ノ日時及選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ

第十三條　管理者ハ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

管理者ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第十四條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ選擧スヘキ議員數ニ相當スル被選擧人ノ氏名ヲ連記シテ投函スヘシ但シ議員定數十人以上ノ學校組合ニ在リテハ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載スヘシ

投票用紙ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十五條　左ノ投票ハ無效トス但シ第二號、第四號又ハ第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　記載ノ人員選擧スヘキ定數ニ過キタルモノ又ハ第十四條第二項但書ノ場合ニ於テ一票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ管理者之ヲ決定ス

第十七條　組合會議員ノ選擧ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ管理者抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條　管理者ハ選擧錄ヲ調製シテ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

選擧錄ハ投票其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條　當選者定マリタルトキハ管理者ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ管理者ニ申立ツヘシ

第二十條　組合會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　選擧ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ管理者ハ當選者ノ住所、氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第二十二條　選擧ノ規定ニ違反ノ事實アルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ道【長官】ハ選擧又ハ當選ヲ取消スヘシ

選擧ノ規定ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ選擧人ハ當選者定マリタル日ヨリ五日內ニ其ノ事由ヲ道【長官】ニ申立テ前項ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　選擧又ハ當選ノ取消アリタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ錯誤ニ依リ當選者ヲ定メ又ハ當選者被選擧權ヲ有セサルニ因リ當選ノ取消アリタル場合ニ於テハ管理者ハ第十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第二十四條　組合會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無ハ組合會之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ異議アル者ハ決定アリタル日ヨリ五日內ニ之ヲ第一次監督官廳ニ申立ツルコトヲ得管理者ニ於テ異議アルトキ亦同シ

前項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十五條　組合會議員ハ選擧若ハ當選ノ取消アル迄又ハ前條第一項ノ決定確定シ若ハ前條第二項ノ異議ノ決定アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十六條　道【長官】選擧若ハ當選ヲ取消シ又ハ第十一條ノ異議ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ組合會第十一條ノ異議ノ決定ヲ爲シタルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十七條　組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條ノ二　組合會ハ組合ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ管理者又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第二十七條ノ三　組合會ハ監督官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第二十八條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十條　組合會ハ管理者之ヲ招集ス但シ輕易ナル事件ニ付テハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聽キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ議決ト看做スコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クモ三日前ニ議員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

組合會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第三十一條　組合會ニ於テ議決スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ遑ナシト認ムルトキハ管理者ハ之ヲ專

決處理スルコトヲ得

第三十二條　學校組合令第十二條及前條ニ依リ處理シタル事件ハ次回ノ組合會ニ之ヲ報告スヘシ

第三十三條　組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

組合ノ分合、廢止、組合區域ノ變更又ハ規約ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十五條　議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子、孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十六條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持シ必要アリト認メタルトキハ議員ノ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議錄ハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ組合會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十八條　組合會ノ會議及傍聽人取締ニ關スル事項ハ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第三章　組合吏員

第三十九條　組合ノ吏員ハ出納役及書記トス

出納役ハ組合ノ出納事務ヲ掌ル

出納役ヲ置カサル場合ニ於テハ管理者ハ書記ヲシテ出納事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

出納役ヲ置カサル場合ニ於テハ出納役ニ關スル規定ハ之ヲ出納事務ヲ掌ル者ニ準用ス

第四十條　管理者故障アルトキハ出納役之ヲ代理シ管理者、出納役共ニ故障アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

出納役故障アルトキハ管理者其ノ事務ヲ行ヒ又ハ書記ヲシテ之ヲ代理セシムヘシ

府ノ區域ヲ包含スル學校組合ノ出納役故障アルトキハ府尹ハ府ノ官吏又ハ書記ヲシテ之ヲ代理セシムヘシ

第四十一條　組合管理者及吏員ノ服務紀律、賠償責任及身元保證ニ付テハ府吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　組合ノ財務

第四十二條　管理者ハ毎會計年度組合費其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入出豫算ヲ調製シ遲クモ年度開始ノ一月前ニ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

豫算ハ第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

豫算ヲ組合會ニ提出スルトキハ管理者ハ併セテ豫算說明書及財產明細表ヲ提出スヘシ

第四十三條　管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

第四十四條　繼續費ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

第四十五條　組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示シ豫算ノ謄本ヲ出納役ニ交付スヘシ

第四十六條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金、起債收入ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ歳入ト爲スコトヲ得

第四十七條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費、物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、缺損補塡ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル年度ノ歳出ト爲スコトヲ得

第四十八條　組合費ヲ徵收セムトスルトキハ管理者ハ納入義務者ニ對シ納期日ヨリ少クモ十日前ニ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ

使用料ヲ徵收セムトスルトキハ現金卽納ノ場合ヲ除クノ外納入告知書ヲ發スヘシ

第四十九條　組合費ノ賦課ニ關スル異議ハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ管理者ニ之ヲ申立ツヘシ

營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ異議アルトキハ決定ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ第一次監督官廳ニ之ヲ申立ツルコトヲ得管理者ニ於テ異議アルトキ亦同シ

第一項及前項ノ規定ハ過料、使用料ノ徵收又ハ夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前各項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五十條　各年度ノ經費ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支拂スヘシ

年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第五十一條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五十二條　支出ハ債主又ハ其ノ代理人ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　出納役ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク又ハ豫備費支出、費目流用其ノ他本令ノ規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第五十四條　遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ現金前渡ハ組合吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第五十五條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

第五十六條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戾ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂及概算拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戾入スヘシ

第五十八條　組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

管理者ハ出納閉鎖後二月內ニ決算ヲ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第五十九條　決算ハ其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ト共ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者ハ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第六十條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第五十七條ノ拂戾金、戾入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六十一條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ組合規約ノ規定又ハ組合會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財產ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第六十三條　工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　組合ノ出納ハ毎月一回管理者之ヲ檢査シ且毎年度二回以上組合會ニ於テ互選シタル二人以上ノ委員其ノ檢査ヲ行フヘシ

第六十五條　組合ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第六十六條　組合ハ現金ノ出納及保管ノ爲組合金庫ヲ置クコトヲ得

金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ組合會ノ議決ヲ經道【長官】ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第六十七條　金庫ハ出納役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第六十八條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ保管スル現金ハ組合ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ組合ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ組合ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ組合ニ納付スヘシ

第六十九條　組合ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ道【長官】ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第七十條　管理者ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ檢査スヘシ

附　則

第七十一條　本令ハ學校組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十二條　本令施行ノ際現ニ水道、屠獸場、共同墓地又ハ火葬場ノ經營ヲ爲ス學校組合ハ當分ノ內其ノ經營ヲ繼續スルコトヲ得

第七十三條　本令施行前設立シタル學校組合ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ組合規約ヲ變更シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受クル迄ハ從前ノ組合規約ハ學校組合令及本令ニ牴觸セサル限リ其ノ效力ヲ有ス

第七十四條　本令施行ノ際現ニ管理者以外ノ組合吏員ニシテ會計役ノ職ニ在ル者ハ出納役ニ其ノ他ハ書記ニ本令ニ依リ任セラレタルモノト看做ス

第七十五條　本令施行ノ際現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期日ニ於テ其ノ職ヲ失フ本令施行後其ノ改選期日前ニ於テ選擧セラレタル補闕議員ニ付亦同シ

第七十六條　本令施行前ノ選擧ニ關スル選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第七十七條　本令施行前組合費、使用料ノ賦課徵收及財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ爲シタル異議ノ申立ハ從前ノ規定ニ依リ處置スヘシ

第一號

大正何年度某學校組合歳入出豫算

歳　入

一金　　歳入豫算高

又ハ

一金　　經常部豫算高

一金　　臨時部豫算高

合計金

歳　出

一金　　歳出豫算高

又ハ

一金　　經常部豫算高

一金　　臨時部豫算高

合計金

歳入出差引

殘金（ナシ）

歳計剩餘金ヲ翌年度ニ繰越サスシテ基本財產ニ編入セムトスル場合ハ左ノ通記載スヘシ

歳計剩餘金ハ全部基本財產ニ編入

又ハ

歳計剩餘金ノ內何歩基本財產ニ編入

大正何年度某學校組合歳入出豫算

歳　入

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一　組合費						
	一　戶別割					○何等　何程 一戶何程何戶
	二　何割					○何
二　使用料及手數料						
	一　學校授業料					○尋常科　何程 一人月額何程何人 ○何
	二　幼稚園保育料					○一人月額何程何人
	三　督促手數料					○督促狀平均一通　何程 何通
三　財產ヨリ生スル收入						
	一　基本財產收入					○貸地料　何程 某所何地一坪何程　何坪 ○預金利子　何程 元金何程ニ對スル何歩 利 ○何
	二　何學校（又ハ幼稚園）基本財產收入					○何
四　繰越金						
五　補助金						
	一　國庫補助金					○教員給與補助金　何程 ○學校設備費補助金　何程

	二 地方費補助金					○何
六 寄附金						
	一 何學校建築費指定寄附金					○何
	二 何					○何
七 過年度收入						
	一 組合費					
	二 何					
八 繰入金						
	一 何學校(幼稚園)積立金繰入					○何程ノ內
	二 何					○何
九 財產賣却代						
	一 土地賣却代					○某所何地一坪何程何坪
	二 何					○何
十 雜收入						
	一 物品賣却代					○反古代　何程 ○何
	二 土地轉貸收入					○某所何地一坪何程何坪
	三 何					○何
十一 組合債						
歲入合計						

歲出
經常部

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一 事務所費						
	一 報酬					○管理者報酬　何程 ○何
	二 給料					○何給料　何程 ○何給料平均額何程何人　何程
	三 旅費					○何
	四 宿舍料					○平均月額何程何人
	五 傭人料					○小使給　平均日額何程何人　何程 ○臨時傭人料一人何程延何人　何程
	六 雜給					○費用辨償　管理者何程　何程 ○何 ○慰勞金　何程 ○外勤手當　何程 ○吏員宿直賄料一夜何程延何夜　何程 ○小使宿直賄料一夜何程延何夜　何程 ○退隱料　何程 ○退職給與金　何程 ○死亡給與金　何程 ○遺族扶助料　何程 ○何
	七 需用費					○備品新調費　何程 ○備品修繕費　何程 ○消耗品費　何程 ○圖書及印刷費　何程 ○通信運搬費　何程 ○何
	八 金庫諸費					○手當　何程 ○送金諸費　何程
	九 修繕費					○事務所修繕費　何程 ○吏員舍宅修繕費　何程
	十 雜費					○公告諸費　何程 ○借家料　何程 ○何
二 會議費						
	一 費用辨償					○何人一日額何程延何日
	二 書記手當					○日額何程何日
	三 需用費					○前例ニ準ス
三 小學校(又ハ某學校)費						
	一 給料					○校長給　本俸何程　加俸何程　何程 ○訓導給　本俸何程平均月額何程何人　何程 加俸何程平均月額何程何人　何程
	二 旅費					○出張旅費　何程 ○赴任旅費　何程

	三 宿舍料					○前例ニ準ス
	四 雜給					○囑託給　平均月額何程何人　何程 ○小使給　平均日額何程何人　何程 ○臨時傭人料　一人何程延何人　何程 ○慰勞金　何程 ○教員宿直賄料　一夜何程延何夜　何程 ○小使宿直賄料　一夜何程延何夜　何程 ○教員退職給與金　何程 ○教員死亡賜金　何程
	五 需用費					○前例ニ準ス
	六 修繕費					○同
	七 雜費					○式日及運動會費　何程 ○兒童獎勵費　何程 ○借家料　何程 ○何
四 幼稚園費						
	一 給料					○保姆給　平均月額何程何人　何程 ○何
	二 旅費					○前例ニ準ス
	三 傭人料					○同
	四 雜給					○同
	五 需用費					○同
	六 修繕費					○前例ニ準ス
	七 雜費					○同
五 基本財產造成費						
	一 基本財產造成					
	二 何學校(又ハ幼稚園)基本財產造成					
六 財產管理費						
	一 管理費					○何修繕費　何程 ○何ニ對スル火災保險料　何程
	二 諸稅					○地稅　何程 ○何
七 國庫納金						○何
八 雜支出						
	一 借地料					○某所何地一坪何程何坪
	二 滯納處分費					○何
	三 過年度支出					○何
	四 一時借入金利子					○元金何程ニ對スル何步利何月分
九 豫備費						
經常部計						

臨時部

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
一 事務所建築費						
	一 新築費					○木造平家建校舍一棟一坪何程何坪　何程 ○同
	二 改築(增築)費					○何
二 何學校(又ハ幼稚園)建築費						
	一 新築費					○前例ニ準ス
	二 改築(增築)費					○何
三 積立金穀						
	一 何學校(又ハ幼稚園)建築積立金					
	二 何					
四 寄附及補助						
	一 寄附金					○何
	二 補助費					○何
五 組合債費						

	一　元金償還					○元金何程ノ內何程
	二　利子					○元金何程ニ對スル何步利何月分
	三　諸費					○何
六　何學校（又ハ幼稚園）建築費本年度支出額						
	一　某費ノ內某費本年度支出額					
	二　何					
臨時部計						
歲出合計						

備考

一　歲入ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ其ノ性質ニ從ヒ之カ區分ヲ爲スヘシ例ヘハ繰越金、補助金、寄附金、過年度收入、繰入金、財產賣却代、組合債ノ如キハ之ヲ臨時部ニ編入スヘシ雜收入中臨時事業ニ伴フ不用品賣却代ノ如キ亦臨時部ニ屬スルモノトス仍經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ歲入合計ヲ掲記スヘシ

二　歲出ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要ナキトキハ各款ヲ通シテ歲出合計ヲ掲記スヘシ

三　豫算金額ハ圓位ニ止ムヘシ

四　附記欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ掲記スヘシ

五　小組合ニ在リテハ旅費ト宿舍料ト傭人料トヲ雜給ニ合セ金庫諸費ト修繕費トヲ雜費ニ合セテ各一項ト爲スモ妨ケナシ

六　歲入出科目中其ノ項ヲ數多ニ區分スルヲ便トスル場合ニハ本例ノ外適宜之ヲ設クルモ妨ケナシ

七　學校組合令施行規則第七十二條ニ依リ屠獸場、共同墓地又ハ火葬場ヲ經營スル學校組合ノ豫算式ハ本例ノ外仍左ノ例ニ依ルヘシ

歲入

（第二款第二項幼稚園保育料ノ次、幼稚園保育料ナキ組合ニ在リテハ第一項學校授業料ノ次）

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
二　使用料及手數料						
	三　屠獸場使用料					○牛一頭何程何頭　何程 ○犢一頭何程何頭　何程 ○豚一頭何程何頭　何程 ○何
	四　共同墓地使用料					○一坪何程何坪
	五　火葬場使用料					○大人一回何程何回　何程 ○小兒一回何程何回　何程

歲出

（第四款幼稚園費ノ次、幼稚園ナキ組合ニ在リテハ學校費ノ次）

科目 款	科目 項	豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
五　屠獸場費						
	一　雜給					○屠夫給平均日額何程何人　何程 ○傭人料一人何程延何人　何程
	二　需用費					○器具機械費　何程 ○消耗品費　何程 ○何
	三　修繕費					○何
六　墓地及火葬場費						
	一　墓地費					○看守人手當一人何程何人　何程 ○修繕費　何程 ○雜費　何程
	二　火葬場費					○看守人給平均日額何程何人　何程 ○消耗品費　何程 ○修繕費　何程 ○雜費　何程

第二號

（自大正何年度至大正何年度）某學校組合某費繼續年期及支出方法

一金　　　　某費中某費

　內譯

金　　大正何年度支出額

金　　大正何年度支出額

金　　大正何年度支出額

某學校組合繼續費某費支出計算表

科目 款	科目 項	大正何年度	同何年度	同何年度	計	附記
一　某費						
	一　何工事費					○何
	二　雜給					○何
	三　需用費					○何
	四　何					○何
合計						

●學校組合規約準則

（大正三年一月二十五日朝鮮總督府訓令第一號　改正　大正一三年第二一號）

學校組合規約ハ左記準則ニ依ラシムヘシ　道【長官】

學校組合規約準則

第一條　本組合ハ何學校組合ト稱ス

第二條　本組合ノ區域ハ何道何府（何郡何面ノ內何）（及何面ノ內何）トス

第三條　本組合ノ公告ハ組合ノ掲示場ニ掲示ス

第四條　獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子ニシテ何月以上引續キ組合費（何圓以上）ヲ納ムル者ハ組合會議員ノ選擧權ヲ有ス但シ禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

家督相續人ノ組合費負擔期間ニ付テハ被相續人ノ組合費負擔期間ヲ通算ス

選擧權ヲ有スル者組合費滯納處分中ハ選擧權ヲ行使スルコトヲ得ス家資分產若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第五條　選擧權ヲ有スル者ハ被選擧權ヲ有ス但シ左ニ掲クル者及前條第三項又ハ第四項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　所屬道（府）郡ノ官吏

二　本組合ノ管理者及吏員

三　檢事及警察官吏

四　神職、僧侶其ノ他諸宗教師

五　小學校又ハ普通學校ノ教員

第六條　本組合ニ出納役一人及書記何人ヲ置ク（出納役及書記ヲ置カサルトキハ本條ヲ除ク）

出納役ハ名譽職（有給）トス

書記ハ有給（名譽職）トス

第七條　有給ノ管理者及吏員在職年一年以上ニシテ退職シタルトキハ退職給與金トシテ退職當時ノ給料月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額ヲ一時支給ス但シ懲戒ニ依リ解職セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

有給ノ管理者及吏員在職中死亡シタルトキハ死亡給與金トシテ死亡當時ノ給料月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額及死亡當時ノ給料四月分ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ一時支給ス

死亡給與金ヲ支給スヘキ遺族及其ノ順位ハ官吏死亡賜金給與ノ例ニ依ル

退職給與金又ハ死亡給與金ノ基礎トナルヘキ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職給與金ノ支給ヲ受ケタル者再就職シタルトキハ之カ在職年ハ再就職ノ月ヨリ起算ス但退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス（有給ノ管理者又ハ吏員ヲ置カサルトキハ本條ヲ除ク）

第八條　組合費ハ戶別割（及何割）トス

戶別割ハ獨立ノ生計ヲ營ム組合員ニ對シ其ノ資產所得及生計ノ程度ニ依リ之ヲ賦課ス

（何割ハ……）

第九條　戶別割（及何割）ノ賦課額（又ハ等級、賦課率）ハ每年組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但シ議決後組合費負擔ノ義務發生シタルトキハ管理者之ヲ定ム

第十條　戶別割ハ左ノ四期ニ分チ每期初日ノ現在ニ依リ之ヲ賦課ス

第一期　四月一日ヨリ六月三十日
第二期　七月一日ヨリ九月三十日
第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日
第四期　一月一日ヨリ三月三十一日

（何割ハ每月一日ノ現在ニ依リ之ヲ賦課ス）

第十一條　賦課期日後組合費負擔ノ義務發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス此ノ場合ニ在リテハ戶別割ハ其ノ期ノ分ニ限リ負擔義務發生ノ月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス

第十二條　戶別割ノ納期ハ賦課期日後何日以內（何割ハ每月十日以內）トス

隨時賦課ニ係ル組合費及使用料ノ納期ハ管理者之ヲ定ム

第十三條　管理者ハ特別ノ事情アル者ニ對シ組合費及使用料ノ納入延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

組合ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合費及使用料ヲ減免スルコトヲ得

第十四條　夫役現品ハ戶別割ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス

學藝、美術及手工ニ關スル勞役ハ夫役トシテ賦課セス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役現品ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ納付ヲ命スヘシ

第十五條　組合費及使用料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一第四條ノ三乃至第四條ノ五第四條ノ七及第四條ノ八ヲ準用ス

第十六條　新ニ組合區域內ニ住所ヲ定メタル者ハ二十日內ニ之ヲ管理者ニ屆出ツヘシ住所ニ移動アリタルトキ亦同シ

獨立ノ生計ヲ營ム者前項ノ屆出ヲ怠リタルトキハ五圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ處分ハ管理者之ヲ行フ

附則

組合費賦課前及賦課後何月內ニ行フ選擧ニ付テハ第四條組合費負擔ニ關スル規定ヲ適用セス

●學校組合ノ事務引繼ニ關スル件

（大正五年三月十一日朝鮮總督府令第十五號）

學校組合ノ事務引繼ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　學校組合管理者退職シタルトキハ退職ノ日ヨリ五日內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ

前項ノ場合ニ於テ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ管理者ノ職務ヲ代理スル者ニ引繼ヲ爲スヘシ

第二條　學校組合出納役又ハ出納事務ヲ掌ル管理者又ハ書記退職シタルトキハ退職ノ日ヨリ五日內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ但シ現金及現金出納簿ハ卽日之ヲ引繼クヘシ

前項ノ場合ニ於テ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ管理者、管理者ノ職務ヲ代理スル者又ハ管理者ニ於テ出納役ノ事務ヲ代理スヘキコトヲ命シタル書記ニ引繼ヲ爲スヘシ

第三條　第一條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事務ノ引繼ヲ受ケタル者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ引繼ヲ爲スヘシ

第四條　管理者ノ事務引繼ノ場合ニ於テハ第一號樣式ニ依リ書類、帳簿、財產ノ目錄及收支命令計算書竝處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付其ノ順序方法及意見ヲ記載シタル書面ヲ調製スヘシ

第五條　出納役ノ事務引繼ノ場合ニ於テハ現金ニ付テハ第二號樣式ニ依リ收支計算書ヲ、書類、帳簿、其ノ他ノ物件ニ於テハ第一號樣式ニ準シ其ノ目錄ヲ調製シ帳簿ニハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ年月日、合計高ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第六條　前二條ニ依リ調製スヘキ書類、帳簿、物件又ハ財產ノ目錄ハ現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リ引繼ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル日ノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ充用シ其ノ旨引繼書ニ記載スヘシ

第七條　第一條又ハ第二條ノ期間內ニ事務ノ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ事務ノ引繼ヲ爲スヘキ者ハ其ノ事由ヲ具シ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　事務ノ引繼ヲ了シタルトキハ直ニ其ノ顚末ヲ具シ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第九條　第一條乃至第三條ノ場合ニ於テ引繼

チ拒ミ又ハ故ナク引繼ヲ遲延シタル者ニ對シテハ道【長官】ハ十圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得

第十條　學校組合ノ分立アリタル爲事務ノ分割ヲ要スルトキハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ道【長官】之ヲ定ム

第十一條　學校組合ノ分合アリタル場合ニ於ケル事務引繼ニ付テハ第一條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　府ヲ包含スル學校組合ニ付テハ本令ヲ適用セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式ノ一

書類帳簿目錄

一圖面　何案
一何書類　何冊
一未決文書　何通
一戸別割徴收原簿　何冊
一組合債臺帳　何冊
一何　何冊

右及引繼候也

年　月　日

元何學校組合管理者　氏　名印

何學校組合管理者氏名宛

第一號様式ノ二

基本財産目錄

土地ノ部

所在地	地目	段別	地價	附記
字何番何	垈			何期間何某ニ貸付、賃貸料金何程別紙契約書ノ通
	畓			何某ニ小作セシム小作料金額何程別紙小作契約書ノ通
	田			同
	林野			植林中樹種樹齢本數等

建物ノ部

所在地	種別	坪數	附記
字何番何	平家木造瓦葺		何期間何某ニ貸付賃貸料金何程別紙契約書ノ通
何	何		

證券ノ部

種別	記號番號	利率	額面券面金額	附記
何公債				
何債券				
何株券				

金穀ノ部

種別	員數	附記
現金		何銀行預金通帳又ハ郵便貯金通帳ノ通
玄米		將來管理又ハ處分ノ意見アラハ詳記スヘシ
何		

右及引繼候也

年　月　日

元何學校組合管理者　氏　名印

何學校組合管理者氏名宛

備考　特別基本財産又ハ積立金穀アルトキハ本表ニ準シ適宜目錄ヲ調製スヘシ

第一號様式ノ三

公用又ハ公共ノ用ニ供シアル財産目錄

土地ノ部

種別	段別	地價	附記
學校敷地			
組合事務所敷地			
墓地			
何			

建物ノ部

種類	坪數	附記
平家木造瓦葺		學校敎室又ハ組合事務所用

備品ノ部

一時計　何個　學校又ハ組合事務所用
一椅子　何個　同上
一テーブル　何個　同上
一本箱　何個　同上
一何　何個　同上

器具機械ノ部

一何　何　學校又ハ何用
一何　何　同上

消耗品ノ部

一何　何　學校又ハ何用
一何　何　同上

右及引繼候也

年　月　日

元何學校組合管理者　氏　名印

何學校組合管理者氏名宛

備考　備品、器具機械及消耗品ハ組合事務所又ハ學校其ノ他營造物ノ所屬毎ニ別ニ目錄ヲ調製スヘシ

第一號様式ノ四

大正何年度組合收支命令計算書

收入ノ部

科目	豫算高	收入命令高	差引增減	備考
計				

支出ノ部

科目	豫算高	支出命令高	差引增減	備考
計				

右關係帳簿相添及引繼候也

年　月　日

元何學校組合管理者　氏　名印

何學校組合管理者氏名宛

第一號様式ノ五

處分未濟未著手事項引繼演說書

一何處分ノ件
、、、、、、、、、、、

將來企畫見込事項引繼演說書

一何工事ノ件
、、、、、、、、、

右及引繼候也

年　月　日

元何學校組合管理者　氏　名印

何學校組合管理者氏名宛

第二號様式ノ一

大正何年度組合收支計算書

一金何程　收入額
一金何程　支出額

收支差引

金何程　現在額（金庫現在金）

收入ノ部

科目	收入命令額	收入額	備考
			命令ニ對スル徴收增減ノ理由ヲ詳記スヘシ

支出ノ部

科目	支拂命令額	支拂額	備考
			命令ニ對スル支拂不足ノ理由ヲ詳記スヘシ

右關係帳簿及證憑書類相添及引繼候也

年　月　日

元何學校組合出納役　氏　名印

何學校組合出納役氏名宛

第二號様式ノ二

大正何年度歳入出外金收支計算書

一金何程　收入高
一金何程　支出高

收支差引

金何程　現在額（金庫現在金）

右關係帳簿及證憑書類相添及引繼候也

年　月　日

元何學校組合出納役　氏　名印

何學校組合出納役氏名宛

●府制施行規則及面制施行規則ニ規定スル府稅及面賦課金指定

（昭和二年四月一日　朝鮮總督府告示第九十九號）

府制施行規則第二條ノ二及面制施行規則第六條ノ三ニ規定スル府稅及面賦課金左ノ如ク指定ス但シ昭和二年四月一日以後一年內ニ調製スル選擧人名簿ニ依リ行フ選擧又ハ任命ニ付テハ同日前ニ於ケル府稅タル營業稅又ハ面賦課金タル營業割ヲ以テ府稅タル營業稅附加稅及特別營業稅又ハ面賦課金タル營業稅割及特別營業割ト看做ス

大正九年朝鮮總督府告示第二百四十二號ハ之ヲ廢止ス

府稅
　市街地稅附加稅
　營業稅附加稅
　家屋稅附加稅
　戸別稅
　特別戸別稅
　特別營業稅
面賦課金
　地稅割
　市街地稅割
　營業稅割
　戸別割
　特別營業割

●天災事變ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ納稅資格要件ニ關スル件

（大正十三年九月四日　朝鮮總督府令第四十七號）

天災事變ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ納稅資格要件ニ關スル件左ノ通定ム

天災事變ノ爲特別ノ事情アル者ニ對シ其ノ年分ニ限リ府稅、面賦課金又ハ學校費賦課金ヲ減免セラレタルトキハ其ノ減免ニ係ル府稅、面賦課金又ハ學校費賦課金ハ府制施行規則、面制施行規則又ハ學校費令施行規則ノ規定ニ依ル納稅資格要件ニ關シテハ減免セラレサルモノト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五章　臺灣

●臺灣州制

（大正九年七月三十日　律令第三號）
改正　大正一三年第五號

臺灣州制明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣州制

第一條　州ノ名稱及區域ハ國ノ行政區劃ニ依

ル

第二條　州ハ法律、勅令又ハ律令ニ依リ州ニ屬セシメタル事務ヲ處理ス

第三條　州知事ハ州ノ事務ヲ擔任シ州ヲ代表ス

第四條　州ニ有給ノ吏員ヲ置ク吏員ハ州知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

吏員ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定メ其ノ任免ハ州知事之ヲ行フ

第五條　官吏ノ州ノ事務ニ關スル職務關係ハ國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第六條　州ニ會計役ヲ置キ官吏又ハ吏員ニ就キ州知事之ヲ命ス

會計役ハ州ノ會計事務ヲ掌ル

第七條　州知事ハ州ノ事務ニ關シ其ノ職務ノ一部ヲ郡市街庄ノ官吏又ハ吏員ニ補助執行セシメ又ハ委任スルコトヲ得

第八條　州知事ハ州ノ事務ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第九條　州知事ハ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

州知事ハ吏員ノ懲戒處分ヲ行ハムトスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命スルコトヲ得

其ノ停職期間給料ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間州ノ公職ニ任命セラルルコトヲ得ス

第十條　州ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ吏員ニ付退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十一條　州知事ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ州ニ常設又ハ臨時ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トシ州ニ住所ヲ有スル者ニ就キ州知事之ヲ命ス

委員ハ州知事ノ指揮監督ヲ承ケ委託ヲ受ケタル事務ニ從事ス

第十二條　州ノ事務ニ關シ州知事ノ諮問ニ應セシムル爲州ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ州知事及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會員ノ定員ハ二十人以上三十五人以下ノ範圍内ニ於テ臺灣總督之ヲ定ム

協議會ハ州知事ヲ以テ議長トス

第十三條　州知事ハ州ニ關スル左ノ事件ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歳入出豫算ヲ定ムルコト但シ豫算ノ追加更正ニシテ州税、使用料又ハ手數料ニ增減變更ナキモノヲ除ク
二　州税、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト
三　第二十九條第一項ノ借入金ニ關スルコト
四　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト
五　繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト
六　基本財産及積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
七　第四十一條ノ財産ノ處分ニ關スルコト

第十四條　協議會員ハ州ニ住所ヲ有シ學識名望アル者ニ就キ臺灣總督之ヲ命ス

協議會員ハ名譽職トス

協議會員ノ任期ハ二年トス但シ補闕ノ協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第十五條　協議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ臺灣總督ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條　名譽職員ハ職務ノ爲ニ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十七條　州ハ基本財産又ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第十八條　州ハ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第十九條　州ハ其ノ必要ナル費用及法律、勅令又ハ律令ヲ以テ州ノ負擔ニ屬セシメタル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第二十條　州ノ費用ハ州税、州ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二十一條　法律、勅令又ハ律令ニ規定アルモノノ外州ノ費用ヲ以テ支辨シ得ル費目左ノ如シ

一　吏員ノ給料其ノ他ノ州及郡ノ廳費
二　土木費
三　教育費
四　衛生費
五　勸業費
六　社會事業費
七　警備費
八　協議會費
九　州費用取扱費

第二十二條　州税トシテ賦課シ得ルモノ左ノ如シ

一　地租附加税
二　所得税附加税
三　戸税
四　營業税
五　雜種税

戸税ハ構戸者ヨリ之ヲ徵收ス

營業税及雜種税ノ種類ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十三條　州ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市街庄ニ分賦スルコトヲ得

第二十四條　州ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

州ハ特定人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條　州ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ノ爲特別ノ必要アルトキハ夫役又ハ現品ヲ賦課スルコトヲ得

第二十六條　州ニ屬スル徵收金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ニ付テハ國ニ屬スル徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵及還付ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

第二十七條　州税、使用料、手數料及夫役現品竝其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十八條　使用料及手數料ニ關スル細則ハ州知事之ヲ定ム

細則中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

細則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二十九條　州ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

州ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第三十條　州ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始三月前迄ニ臺灣總督ニ提出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

州ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十一條　州ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後三月以內ニ臺灣總督ニ之ヲ報告スヘシ

第三十二條　州ノ費用ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十三條　州ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三十四條　州ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第三十五條　協議會及協議會員ニ關スル事項、費用辨償、給料、旅費其ノ他給與ニ關スル事項、賠償責任、身元保證其ノ他吏員ニ關スル事項竝財務ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十六條　州ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ州組合ヲ設クルコトヲ得

第三十七條　州組合ニハ州ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及必要ナル事項ニ付テハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十八條　州ノ事務ハ臺灣總督之ヲ監督ス

第三十九條　臺灣總督ハ州ノ事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十條　臺灣總督ハ州ニ於テ法律、勅令又ハ律令ヲ以テ其ノ負擔ニ屬セシメタル費用又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキ又ハ豫算中不適當ト認ムル費用アルトキハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加ヘ又ハ削減スルコトヲ得

第四十一條　州ノ廢置分合又ハ區域變更ニ依リ必要アルトキハ臺灣總督ハ關係州知事ノ意見ヲ徵シ州ノ財産ノ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

明治三十四年律令第十四號ハ之ヲ廢止ス

臺灣地方税規則ハ之ヲ廢止ス但シ大正十年三月三十一日迄ノ分ノ家税ハ之ヲ存續シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ州又ハ廳地方費ニ於テ之ヲ賦課徵收ス

前項ノ規定ニ依リ家税ヲ存續スル間州又ハ廳地方費ニ於テ戸税ヲ賦課徵收セス

當分ノ內州又ハ廳地方費ニ於テ警察費ヲ支辨スルコトヲ得

本令施行ノ際臺灣地方税規則ニ依ル地方費區ニ屬スル財産ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ州又ハ廳地方費ニ之ヲ分屬セシム

●臺灣州制施行令

（大正九年臺灣總督府令第四十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

大正九年九月二十九日
臺灣總督府令第百十號
改正　大正一一年第六〇號、一三年第一七號

臺灣州制施行令左ノ通相定ム

臺灣州制施行令

第一章　州ノ事務

第一條　州知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　州費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
二　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
四　證書及公文書類ヲ保管スル事
五　州税、使用料、手數料及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
六　其ノ他法令ニ依リ州知事ノ職權ニ屬スル事項

第二條　州知事ハ協議會招集ニ暇セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得第十五條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

前項及州制第十三條但書ノ處分ハ次ノ協議會ニ報告スヘシ

第三條　州ノ事務ニ關スル處務規程ハ州知事之ヲ定ム

第四條　州制第十一條ノ委員ノ組織及任期ニ關スル事項ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ州知事之ヲ定ム

第五條　吏員及名譽職員ニ對スル給料及給與ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　協議會

第六條　協議會ノ定員左ノ如シ

臺北州	三十五人
新竹州	二十人
臺中州	三十人
臺南州	三十五人
高雄州	二十人

第七條　州事務官ハ其ノ職務ニ在ル間協議會員タルモノトス

第八條　協議會ニ副議長一名ヲ置ク

副議長ハ協議會員ニシテ知事ノ職務ヲ代理スヘキ州事務官ヲ以テ之ニ充ツ

議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長、副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ協議會員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ協議會員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

假議長ノ選擧ハ一名每ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第九條　州知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏、吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第十條　協議會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ每年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十日以內トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ三日以內トス

臨時會ニ附スヘキ事件ハ豫メ之ヲ協議會員ニ通知スヘシ但シ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ州知事ハ直ニ之ヲ會議ニ附スルコトヲ得

第十一條　協議會ハ通常會閉會中ニ於ケル其ノ權限ニ屬スル事件ノ議決ヲ委任スル爲常置員會ヲ置クコトヲ得

常置員會ハ州知事、協議會員ニシテ內務部長タル州事務官及互選ニ依ル協議會員五名ヲ以テ之ヲ組織ス

常置員會ハ州知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ常置員タル州事務官議長ノ職務ヲ代理ス

常置員會及常置員ニ關スル規定ハ協議會ノ議決ヲ經臺灣總督ノ許可ヲ受ケ州知事之ヲ定ム

第十二條　協議會ハ州知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ通常會ニ在リテハ十四日、臨時會ニ在リテハ五日前迄ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　協議會ハ州知事之ヲ開閉ス

協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十四條　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十五條　議長及協議會員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ協議會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第十六條　協議會ノ會議ハ議長其ノ傍聽ヲ許可スルコトヲ得

第十七條　協議會ノ會議ハ國語ヲ以テ用語トス但シ議長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

議長必要アリト認ムルトキハ書記ヲシテ通譯セシムルコトヲ得

第十八條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第十九條　協議會員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第二十條　議長必要アリト認ムルトキハ協議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　議長必要アリト認ムルトキハ傍聽人ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　協議會ニ書記ヲ置キ州知事之ヲ命ス

書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務又ハ通譯ニ從事ス

第二十三條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顛末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議長ノ指名シタル出席協議會員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第二十四條　本令ニ定ムルモノノ外州知事ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　協議會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ解任シタルモノト看做ス

一　州外ニ轉住シタルトキ
二　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　禁治産准禁治産若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第三章　州ノ財務

第一款　州税、使用料、手數料及夫役現品

第二十六條　州內ニ住所ヲ有スル者ハ州税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十七條　三箇月以上州內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ州税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十八條　州內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖州內ニ土地、家屋、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ州內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ州税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

第二十九條　納税者ノ州外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地、家屋、物件若ハ其ノ收入又ハ州外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入又ハ州外ニ於ケル特定ノ行爲ニ對シテハ州税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第三十條　住所滯在州ノ內外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メ

タル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ州稅ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所滯在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル州ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

第三十一條　州ノ內外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メテ爲ス營業ヨリ生スル收入ニ付本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ關係アル州知事又ハ廳長協議ノ上其ノ步合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十二條　別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ニ揭クルモノニ對シテハ州稅ヲ賦課セス

一　國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地、家屋、物件

二　國、州、市、街庄其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地、家屋、物件及營造物

但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

三　祭祀、宗敎、慈善、敎育其ノ他公共事業ニ直接使用ノ土地、家屋、物件、但シ有料ニテ使用セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　州ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ州稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第三十四條　數人又ハ州ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ州ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ州ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　夫役又ハ現品ハ州內一部ノ市街庄若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十六條　州知事ハ特別ノ事情アル者ニ對シテ州稅ヲ減免シ又ハ其ノ納稅ノ延期ヲ許スコトヲ得

第三十七條　市制施行ノ州ニ於テハ郡廳舍建築、修繕費及郡役所費ハ街庄ニ分賦ス

前項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前々年度ニ於ケル街庄ノ直接國稅及州稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ州知事ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第三十八條　州稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒迄ノ間、營業ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條　市街庄ハ市街庄內ニ於テ州知事ノ指定シタル州稅又ハ屠場使用料ヲ徵收シ納入スル義務ヲ負フ

特別ノ規定アル州稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシム

第四十條　州稅ヲ徵收シ又ハ納付セシメントスルトキハ州知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市街庄ニ對シ徵收告知書ヲ發シ市尹街庄長ハ其ノ徵收告知書ニ依リ徵收傳令書ヲ調製シ之ヲ納人ニ交付シ其ノ稅金ヲ徵收スヘシ

州知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ前項ニ依ラス直ニ納人ニ對シ徵收告知書ヲ發スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地租附加稅ハ地租ヲ金庫ニ納付セシムルモノノ外地租ノ納稅告知書ニ附記シ別ニ徵收告知書ヲ發セス

第三十九條第二項ノ州稅ニ付テハ前二項ノ例ニ依ラス徵收セシムルコトヲ得

第四十一條及第四十二條ノ規定ハ前項ニ依リ徵收スル州稅ニ關シ之ヲ準用ス

第四十一條　州ハ州稅又ハ屠場使用料徵收ノ費用トシテ州ニ納入シタル稅金又ハ屠場使用料ノ百分ノ三以內ヲ其ノ市街庄ニ交付ス

第四十二條　市街庄ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金又ハ屠場使用料ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金又ハ屠場使用料納入義務ノ免除ヲ州知事ニ申請スルコトヲ得

第四十三條　法令中別ニ規定アルモノノ外使用料及手數料ニ關スル事項ハ州知事之ヲ定ム

第二款　州ノ歲入出豫算及決算

第四十四條　州稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入出豫算ヲ調製スヘシ

豫算ニハ豫算說明及財產明細表ヲ添付スヘシ

第四十五條　特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第四十六條　豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル必要ナル支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ豫備費ハ豫算ニ付臺灣總督ノ認可ヲ與ヘサリシ費用ニ充ツルコトヲ得ス

第四十七條　歲入歲出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第四十八條　州知事ハ豫算ノ認可ヲ受ケタル後直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十九條　各會計年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス但シ年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第五十條　州知事ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得但シ會計年度經過後ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　州ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ州知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第五十二條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ協議會ノ議決ヲ經臺灣總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得但シ公費ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第五十四條　決算ハ之ヲ協議會ニ提示シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第五十五條　繼續費ハ每年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第五十六條　一年度內ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサルモノニ限リ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第五十七條　工事又ハ物件ノ賣買、貸借及財產ノ管理、處分ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外臺灣總督府特別會計ノ例ニ依ル

第五十八條　州ハ州ニ屬スル現金ノ出納及保管ヲ爲サシムル爲州金庫ヲ置ク

第五十九條　州金庫ハ州本金庫及州支金庫トス

州本金庫ハ州廳所在地ニ之ヲ置キ州支金庫ハ州知事必要アリト認ムル地ニ之ヲ置ク

第六十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ州知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ州知事ノ許可ヲ受ケ其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付州ニ對シテ責任ヲ有ス

第六十二條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ州知事ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

第六十三條　州知事ハ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ナキ限度ニ於テ利子ヲ徵シ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行又ハ他ノ銀行ニ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運用ヲ許サレタル他ノ銀行ハ州知事ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

第六十四條　會計役ハ州知事官房會計課長及各廳會計主任ヲ以テ之ニ充ツ但シ已ムヲ得サル場合ニ限リ其ノ責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ補助セシムルコトヲ得

前項ノ外州知事必要アリト認ムルトキハ事項ヲ限リ臨時ニ會計役ヲ命スルコトヲ得

第六十五條　會計役ハ命令ヲ受ケタル歲入金、歲出金、歲入歲出外現金、證券又ハ物品ノ出納及保管ヲ掌ル

第六十六條　會計役ハ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

第六十七條　會計役其ノ保管ニ係ル現金、證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四章　州組合

第六十八條　州組合ノ規約ニハ其ノ名稱、組合ヲ組織スル州名、組合ノ共同事務、組合會ヲ置クトキハ其ノ組織、管理方法、費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第六十九條　州組合ノ組合州數又ハ共同事務ヲ增減シ其ノ他規約ヲ變更セムトスルトキ若ハ州組合ヲ解カムトスルトキハ關係アル州ノ協議ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產ノ處分ヲ要スルトキハ其ノ處分ニ付亦同シ

第七十條　州組合ニ組合會ヲ置カサルトキハ組合會ニ諮問スヘキ事項ハ關係州知事ノ協議ニ依ル

第七十一條　公益上必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ハ關係アル州知事ノ意見ヲ徵シ州組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組合規約ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムルコトアルヘシ

第七十二條　州組合ノ設置、解散、規約ノ變更並ニ組合財產ノ處分ヲ要スルトキハ州知事ハ州ノ協議會ニ諮問スルコトヲ要ス

第五章　州ノ事務ノ監督

第七十三條　左ノ事項ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　學藝、美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト

二　使用料及手數料ヲ新設シ又ハ變更スルコト

三　基本財產ヲ處分スルコト

四　積立金穀ヲ其ノ目的外ニ處分スルコト

五　豫算外ニ州費ノ負擔ト爲ルヘキ契約ヲ爲スコト

六　權利ノ拋棄ヲ爲スコト

七　不動產ヲ處分スルコト但シ建坪五十坪未滿ノ建物及一箇所ニ付五百坪以下ノ土地ニシテ評定額格五千圓未滿ノモノヲ處分スル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

八　第三十三條ノ負擔ヲ命スルコト

九　第三十四條ノ賦課ヲ爲スコト

十　第六十三條ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ運用ヲ許スコト

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令第三十七條ノ適用ニ付テハ大正十年度及大正十一年度ニ限リ直接國稅トアルハ地租及所得稅トシ州稅トアルハ地方稅若ハ州稅トス

州稅ノ徵收又ハ納付ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依リ本令第四十條第一項ノ規程ハ戶稅及家稅ヲ除クノ外當分ノ內之ヲ適用セス

州知事ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內州本金庫ヲ置カス必要アリト認ムル地ニ州金庫ニ置クコトヲ得

●臺灣市制（大正九年七月三十日律令第五號）

臺灣市制明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣市制

第一條　市ノ名稱及區域ハ國ノ行政區劃ニ依ル

第二條　市ハ法律、勅令又ハ律令ニ依リ市ニ屬セシメタル事務ヲ處理ス

第三條　市尹ハ市ノ事務ヲ擔任シ市ヲ代表ス

第四條　市役所ノ位置ハ州知事ノ認可ヲ受ケ市尹之ヲ定ム

第五條　市ニ有給ノ吏員ヲ置ク吏員ハ市尹ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス

吏員ノ定員ハ州知事之ヲ定メ其ノ任免ハ市尹之ヲ行フ

第六條　官吏ノ市ノ事務ニ關スル職務關係ハ國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第七條　市ニ會計役ヲ置キ官吏又ハ吏員ニ就キ市尹之ヲ命ス

會計役ハ市ノ會計事務ヲ掌ル

第八條　市尹ハ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

市尹ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命スルコトヲ得其ノ停職期間給料ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市街庄ノ公職ニ任命セラルルコトヲ得ス

第九條　市ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ吏員ニ付退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十條　市尹ハ州知事ノ許可ヲ受ケ市ニ常設又ハ臨時ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トシ市ニ住所ヲ有スル者ニ就キ市尹之ヲ命ス

委員ハ市尹ノ指揮監督ヲ承ケ委託ヲ受ケタル事務ニ從事ス

第十一條　市ノ事務ニ關シ市尹ノ諮問ニ應セシムル爲市ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ市尹及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會員ノ定員ハ十五人以上三十人以下ノ範圍內ニ於テ臺灣總督之ヲ定ム

協議會ハ市尹ヲ以テ議長トス

第十二條　市尹ハ市ニ關スル左ノ事件ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歲入出豫算ヲ定ムルコト但シ豫算ノ追加更正ニシテ市稅、使用料又ハ手數料ニ增減變更ナキモノヲ除ク

二　市條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

三　市稅、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト

四　第二十七條第一項ノ借入金ニ關スルコト

五　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト

六　繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

七　基本財產及積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト

八　第三十九條ノ財產ノ處分ニ關スルコト

第十三條　協議會員ハ市ニ住所ヲ有シ學識名望アル者ニ就キ州知事之ヲ命ス

協議會員ハ名譽職トス

第十四條　協議會員ノ任期ハ二年トス但シ補闕ノ協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

協議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ州知事ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十五條　名譽職員ハ職務ノ爲ニ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十六條　市ハ基本財產又ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財產トシテ之ヲ維持スヘシ

第十七條　市ハ公益上必要アル場合ニ於テハ州知事ノ許可ヲ受ケ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第十八條　市ハ其ノ必要ナル費用及法律、勅令又ハ律令ヲ以テ市ノ負擔ニ屬セシメタル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第十九條　市ノ費用ハ市稅、市ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二十條　法律、勅令又ハ律令ニ規定アルモノノ外市ノ費用ヲ以テ支辨シ得ル費目左ノ如シ

一　吏員ノ給料其ノ他ノ市役所費

二　土木費

三　教育費
四　衞生費
五　勸業費
六　社會事業費
七　營繕費
八　協議會費
九　市費用取扱費

第二十一條　市税トシテ賦課シ得ルモノ左ノ如シ
一　國税又ハ州税ノ附加税
二　特別税

第二十二條　市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徴收スルコトヲ得

市ハ特定人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十三條　市ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ノ爲特別ノ必要アルトキハ夫役又ハ現品ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條　市ニ屬スル徴收金ハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ徴收金ニ付テハ州又ハ廳地方費ニ屬スル徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴及還付ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

第二十五條　市税、使用料、手數料及夫役現品竝其ノ賦課徴收ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十六條　市ハ特別税、使用料及手數料ニ關スル事項ニ付テハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

市ハ營造物ノ使用ニ付臺灣總督ノ認可ヲ受ケ市條例ヲ設クルコトヲ得

市條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

市條例ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二十七條　市ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

市ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ州知事ノ許可ヲ受ケ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　市ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始二月前迄ニ州知事ニ提出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第二十九條　市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後二月以内ニ州知事ニ之ヲ報告スヘシ

第三十條　市ノ費用ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十一條　市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三十二條　市ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第三十三條　協議會及協議會員ニ關スル事項費用辨償、給料、旅費其ノ他給與ニ關スル事項、賠償責任、身元保證其ノ他吏員ニ關スル事項竝財務ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十四條　州知事ハ市街庄ノ事務ノ一部ヲ共同處理セシムル爲市街庄組合設置ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ管理方法及費用負擔方法ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ市街庄組合ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　市街庄組合ニハ市ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及必要ナル事項ニ付テハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十六條　市ノ事務ハ第一次ニ於テ州知事、第二次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督ス

第三十七條　監督官廳ハ市ノ事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ事務ノ監督ニ關シテ發シタル命令又ハ爲シタル處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第三十八條　州知事ハ市ニ於テ法律、勅令又ハ律令ヲ以テ其ノ負擔ニ屬セシメタル費用又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキ又ハ豫算中不適當ト認ムル費用アルトキハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加ヘ又ハ削減スルコトヲ得

第三十九條　市ノ廢置分合又ハ區域變更ニ依リ必要アルトキハ州知事ハ關係市尹街庄長ノ意見ヲ徴シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ市街庄ノ財産ノ處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣市制施行令

（大正九年臺灣總督府令第四十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

（大正九年九月三十日臺灣總督府令第百十一號　改正　大正一〇年第一七號、一一年第五五號、第一三五號、一三年第七五號、第八九號、第九六號）

臺灣市制施行令左ノ通相定ム

臺灣市制施行令

第一章　市ノ事務

第一條　市尹ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
一　市費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
二　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
四　證書及公文書類ヲ保管スル事
五　市税、使用料、手數料及夫役現品ヲ賦課徴收スル事
六　其ノ他法令ニ依リ市尹ノ職權ニ屬スル事項

第二條　市尹ハ協議會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得第十五條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

前項及市制第十二條但書ノ處分ハ次ノ協議會ニ報告スヘシ

第三條　市ノ事務ニ關スル處務規程ハ市尹之ヲ定ム

第四條　市尹ハ州知事ノ認可ヲ受ケ處務便宜ノ爲町委員ヲ置クコトヲ得

町委員ノ定員ハ州知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ定メ其ノ任期ハ一年トス

第五條　前條ノ外市制第十條ノ委員ノ組織及任期ニ關スル事項ハ州知事ノ認可ヲ受ケ市尹之ヲ定ム

第六條　吏員及名譽職員ニ對スル給料及給與ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　協議會

第七條　協議會員ノ定員左ノ如シ

臺北市	三十人
基隆市	二十二人
臺中市	二十人
臺南市	二十五人
高雄市	二十人

第八條　市助役ハ其ノ職務ニ在ル間協議會員タルモノトス

第九條　協議會ニ副議長一名ヲ置ク

副議長ハ協議會員タル市助役ヲ以テ之ニ充ツ

議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ協議會員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ協議會員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

假議長ノ選擧ハ一名毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トシ若シ同數ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第十條　市尹及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第十一條　協議會ハ市尹之ヲ招集ス

市尹必要アリト認ムルトキハ會期ヲ定メテ協議會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ三日前迄ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

協議會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市尹ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ通知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

第十二條　協議會ハ市尹之ヲ開閉ス

協議會ハ閉會中ニ於ケル其ノ權限ニ屬スル事件ノ議決ヲ委任スル爲常置員會ヲ置クコトヲ得

常置員會ハ市尹、協議會員タル市助役及互選ニ依ル協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

互選ニ依ル協議會員ハ臺北市及臺南市ニ在リテハ各五名トシ臺中市、基隆市及高雄市ニ在リテハ各三名トス

常置員會ハ市尹ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ常置員タル市助役議長ノ職務ヲ代理ス

常置員會及常置員ニ關スル規定ハ協議會ノ議決ヲ經州知事ノ許可ヲ受ケ市尹之ヲ定ム

第十三條　協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十四條　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十五條　議長及協議會員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ協議會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第十六條　協議會ノ會議ハ議長其ノ傍聽ヲ許可スルコトヲ得

第十七條　協議會ノ會議ハ國語ヲ以テ用語トス但シ議長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第十九條　協議會員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第二十條　議長必要アリト認ムルトキハ協議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　議長必要アリト認ムルトキハ傍聽人ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　協議會ニ書記ヲ置キ市尹之ヲ命ス

書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務又ハ通譯ニ從事ス

第二十三條　議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議長ノ指名シタル出席協議會員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第二十四條　本令ニ定ムルモノノ外市尹ハ州知事ノ許可ヲ受ケ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　協議會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ解任シタルモノト看做ス
一　市外ニ轉住シタルトキ
二　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　禁治産準禁治産若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第三章　市ノ財務

第一款　市税及夫役現品

第二十六條　市内ニ住所ヲ有スル者ハ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十七條　三箇月以上市内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十八條　市内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖市内ニ土地、家屋、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ市内ニ於テ特定ノ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

第二十九條　納税者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地、家屋、物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於ケル特定ノ行爲ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第三十條　住所滯在市ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市税ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納税義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納税義務者ノ住所滯在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

第三十一條　市ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メテ爲ス營業ヨリ生スル收入ニ付本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加税ヲ賦課セムトスルトキハ關係アル廳長、市尹又ハ街庄長協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム

前項ノ協議調ハサルトキハ州内ニ止マルモノハ州知事、州廳又ハ二州以上ニ亘ルモノハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十二條　別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ニ掲クルモノニ對シテハ市税ヲ賦課セス
一　國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地、家屋、物件
二　國、州、市、街庄其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地、家屋、物件及營造物但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
三　祭祀、宗教、慈善、教育其ノ他公共事業ニ直接使用ノ土地、家屋、物件、但シ有料ニテ使用セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第三十四條　數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　夫役又ハ現品ハ直接市税ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第六十四條第九號ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞役ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第三十六條　市尹ハ特別ノ事情アル者ニ對シ市税ヲ減免シ又ハ其ノ納税ノ延期ヲ許スコトヲ得

第三十七條　市税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒迄ノ間、營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿、物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二款　市ノ歳入出豫算及決算

第三十八條　市税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出豫算ヲ調製スヘシ

豫算ニハ豫算説明及財産明細表ヲ添付スヘシ

第三十九條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第四十條　豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル必要ナル支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ豫備費ハ豫算ニ付州知事ノ認可ヲ與ヘサリシ費用ニ充ツルコトヲ得ス

第四十一條　歳入出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第四十二條　市尹ハ豫算ノ認可ヲ受ケタル後直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十三條　各會計年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ州知事ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ

得

第四十四條　市尹ハ州知事ノ認可ヲ受ケ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得但シ會計年度經過後ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ協議會ノ議決ヲ經州知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得但シ公費ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第四十七條　決算ハ之ヲ協議會ニ提示シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十八條　繼續費ハ每年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第四十九條　一年度內ニ終ルヘキ工事、製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサルモノニ限リ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第五十條　工事又ハ物件ノ賣買貸借及財產ノ管理、處分ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外臺灣總督府特別會計ノ例ニ依ル

第五十一條　市ハ市ニ屬スル現金ノ出納及保管ヲ爲サシムル爲市金庫ヲ置ク

第五十二條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ州知事ノ認可ヲ受ケ市尹之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市尹ノ許可ヲ受ケ其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第五十三條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付市ニ對シテ責任ヲ有ス

第五十四條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市尹ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

第五十五條　市尹ハ州知事ノ認可ヲ受ケ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ナキ限度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ニ限リ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ市尹ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ納付スヘシ

第五十六條　會計役ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ但シ已ムヲ得サル場合ニ限リ其ノ責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ補助セシムルコトヲ得

第五十七條　會計役ハ命令ヲ受ケタル歲入金、歲出金、歲入歲出外現金、證券又ハ物品ノ出納及保管ヲ掌ル

第五十八條　會計役ハ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

第五十九條　會計役其ノ保管ニ係ル現金、證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四章　市街庄組合

第六十條　州知事市制第三十四條ノ規定ニ依リ市街庄組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ名稱、組合ヲ組織スル市街庄、組合ノ共同事務、組合ノ管理者、組合役場ノ位置、組合會ヲ置クトキハ其ノ組織其ノ他必要ナル事項ニ付規定ヲ設クヘシ

第六十一條　州知事市街庄組合ノ規定ヲ變更セムトスルトキ若ハ市街庄組合ヲ解カムトスルトキハ組合會ノ意見ヲ徵シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產ノ處分ヲ要スルトキハ其ノ處分ニ付キ亦同シ

第六十二條　市街庄組合ニ組合會ヲ置カサルトキハ組合會ニ諮問スヘキ事項ハ關係市尹街庄長ノ協議ニ依ル

第五章　市ノ事務ノ監督

第六十三條　左ノ事項ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　學藝、美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト

二　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

第六十四條　左ノ事項ハ州知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　基本財產ノ處分ニ關スルコト

二　積立金穀ヲ其ノ目的外ニ處分スルコト

三　不動產ノ處分ニ關スルコト

四　削除

五　豫算外ニ市費ノ負擔ト爲ルヘキ契約ヲ爲スコト

六　權利ノ拋棄ヲ爲スコト

七　第三十三條ノ費用ヲ負擔セシムルコト

八　第三十四條ノ賦課ヲ爲スコト

九　第三十五條ノ準率ニ依ラスシテ賦課ヲ爲スコト

第六十五條　監督官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可又ハ認可ヲ與フルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣街庄制（大正九年七月三十日律令第六號）（改正　大正一四年第二號）

臺灣街庄制明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣街庄制

第一條　街又ハ庄ノ名稱及區域ハ國ノ行政區劃ニ依ル

第二條　街庄ハ法律、勅令又ハ律令ニ依リ街庄ニ屬セシメタル事務ヲ處理ス

第三條　街庄長ハ街庄ノ事務ヲ擔任シ街庄ヲ代表ス

第四條　街庄役場ノ位置ハ州知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ街庄長之ヲ定ム

第五條　街庄ニ助役及會計役各一人ヲ置ク但シ街庄長ハ廳長又ハ郡守ノ許可ヲ受ケ助役ヲ置カス又ハ其ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

特別ノ事情アル街庄ニ於テハ州知事又ハ廳長ハ專任ノ會計役ヲ置カス街庄長又ハ街庄吏員ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

街庄長及助役ハ名譽職トス但シ街庄ハ州知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

助役ハ州知事又ハ廳長之ヲ任免ス

街庄長及助役ノ任期ハ四年トス

會計役ハ有給トス州知事又ハ廳長之ヲ任免シ其ノ任期ハ四年トス

第六條　前條ニ定ムル者ノ外街庄ニ有給ノ吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ吏員ハ街庄長ノ具狀ニ依リ廳長又ハ郡守之ヲ任免ス

第七條　助役ハ街庄長ノ事務ヲ補助ス

街庄長事故アルトキハ助役其ノ職務ヲ代理ス助役數人アルトキハ街庄長ノ豫メ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス但シ助役ヲ置カサル街庄ニ在リテハ上席ノ吏員之ヲ代理ス

第八條　會計役ハ街庄ノ會計事務ヲ掌ル

街庄長ハ會計役事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理セシムヘキ吏員ヲ定メ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　第六條ノ吏員ハ街庄長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十條　街庄長又ハ吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國、州其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ノ執行ニ要スル費用ハ街庄ノ負擔トス但シ法令中別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　州知事又ハ廳長ハ助役及會計役ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得

廳長又ハ郡守ハ第六條ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得

前二項ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

州知事、廳長又ハ郡守ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命スルコトヲ得其ノ停職期間手當又ハ給料ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市街庄ノ公職ニ任命セラルルコトヲ得ス

第十二條　街庄ノ吏員ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ有給ノ吏員ニ付退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十二條ノ二　街庄長ハ廳長又ハ郡守ノ許可ヲ受ケ街庄ニ常設又ハ臨時ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トシ街庄ニ住所ヲ有スル者ニ就キ街庄長之ヲ命ス

委員ハ街庄長ノ指揮監督ヲ承ケ委託ヲ承ケタル事務ニ從事ス

第十三條　街庄ノ事務ニ關シ街庄長ノ諮問ニ應セシムル爲街庄ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ街庄長及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會員ノ定員ハ七人以上二十人以下ノ範

圍內ニ於テ臺灣總督之ヲ定ム

協議會ハ街庄長ヲ以テ議長トス

第十四條　街庄長ハ街庄ニ關スル左ノ事件ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歲入出豫算ヲ定ムルコト但シ豫算ノ追加更正ニシテ街庄稅、使用料又ハ手數料ニ增減變更ナキモノヲ除ク

二　街庄條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

三　街庄稅、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト

四　第三十條第一項ノ借入金ニ關スルコト

五　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト

六　繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

七　基本財產及積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト

八　第四十二條ノ財產ノ處分ニ關スルコト

第十五條　協議會員ハ街庄ニ住所ヲ有シ學識名望アル者ニ就キ州知事又ハ廳長之ヲ命ス

協議會員ハ名譽職トス

協議會員ノ任期ハ二年トス但シ補闕協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第十六條　協議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ州知事又ハ廳長ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十七條　名譽職員ハ職務ノ爲ニ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職ノ街庄長及助役ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條　街庄ハ基本財產又ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

州知事又ハ廳長ハ必要ト認ムルトキハ基本財產又ハ積立金穀等ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十九條　街庄ハ舊來ノ慣行アル場合ニ限リ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ營造物ノ特殊ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得

前項ノ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ街庄ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十條　街庄ハ公益上必要アル場合ニ於テハ廳長又ハ郡守ノ許可ヲ受ケ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　街庄ハ其ノ必要ナル費用及法律、勅令又ハ律令ヲ以テ街庄ノ負擔ニ屬セシメタル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第二十二條　街庄ノ費用ハ街庄稅、街庄ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二十三條　法律、勅令又ハ律令ニ規定アルモノノ外街庄ノ費用ヲ以テ支辨シ得ル費目左ノ如シ

一　有給ノ街庄長及吏員ノ給料其ノ他ノ街庄役場費

二　土木費

三　教育費

四　衞生費

五　勸業費

六　社會事業費

七　警備費

八　協議會費

九　街庄費用取扱費

第二十四條　街庄稅トシテ賦課シ得ルモノ左ノ如シ

一　國稅、州稅又ハ廳地方費稅ノ附加稅

二　特別稅

第二十五條　街庄ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

街庄ハ特定人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十六條　街庄ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ノ爲特別ノ必要アルトキハ夫役又ハ現品ヲ賦課スルコトヲ得

第二十七條　街庄ニ屬スル徵收金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ニ付テハ州又ハ廳地方費ニ屬スル徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵及還付ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十八條　街庄稅、使用料、手數料及夫役現品並其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十九條　街庄ハ特別稅、使用料及手數料ニ關スル事項ニ付テハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ街庄條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

街庄ハ營造物ノ使用ニ付臺灣總督ノ認可ヲ受ケ街庄條例ヲ設クルコトヲ得

街庄條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

街庄條例ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三十條　街庄ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

街庄ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ州知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　街庄長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始二月前迄ニ廳長又ハ郡守ニ提出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條　街庄ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

街庄ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ廳長又ハ郡守ニ之ヲ報告スヘシ

第三十三條　街庄ノ費用ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十四條　街庄ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　街庄ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第三十六條　協議會及協議會員ニ關スル事項、費用辨償、手當、給料、旅費其ノ他給與ニ關スル事項、賠償責任、身元保證其ノ他吏員ニ關スル事項並財務ニ關スル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十七條　州知事又ハ廳長ハ街庄ノ事務ノ一部ヲ共同處理セシムル爲街庄組合設置ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ管理方法及費用負擔方法ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ街庄組合ヲ設クルコトヲ得

第三十八條　街庄組合ニハ街庄ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及必要ナル事項ニ付テハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十九條　街庄ノ事務ハ州ニ在リテハ第一次ニ於テ郡守、第二次ニ於テ州知事、第三次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督シ廳ニ在リテハ第一次ニ於テ廳長、第二次ニ於テ臺灣總督之ヲ監督ス

第四十條　監督官廳ハ街庄ノ事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ街庄事務ノ監督ニ關シテ發シタル命令又ハ爲シタル處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第四十一條　廳長又ハ郡守ハ街庄ニ於テ法律、勅令又ハ律令ヲ以テ其ノ負擔ニ屬セシメタル費用又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキ又ハ豫算中不適當ト認ムル費用アルトキハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加ヘ又ハ削減スルコトヲ得

第四十二條　街庄ノ廢置分合又ハ區域變更ニ依リ必要アルトキハ州知事又ハ廳長ハ關係街庄長ノ意見ヲ徵シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ街庄ノ財產ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　本令ハ臺灣總督ノ指定スル地域ニハ之ヲ施行セス

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

（大正九年臺灣總督府令第四十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●臺灣街庄制施行令（大正九年九月三十日臺灣總督府令第百十二號）（改正　大正一一年第六一號、一五年第六六號）

臺灣街庄制施行令左ノ通相定ム

臺灣街庄制施行令

第一章　街庄ノ事務

第一條　街庄長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　街庄費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行ス

二　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　街庄税、使用料、手數料及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六　其ノ他法令ニ依リ街庄長ノ職權ニ屬スル事項

第二條　街庄長ハ協議會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得第十三條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

前項及街庄制第十四條但書ノ處分ハ次ノ協議會ニ報告スヘシ

第三條　街庄ノ事務ニ關スル處務規程ハ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ街庄長之ヲ定ム

第四條　街庄ハ處務便宜ノ爲部內ヲ數區ニ劃シ總代ヲ置クコトヲ得其ノ任期ハ之ヲ一年トス

第四條ノ二　街庄制第十二條ノ二ノ委員ノ組織及任期ニ關スル事項ハ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ街庄長之ヲ定ム

第五條　吏員及名譽職員ニ對スル給料及給與ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　協議會

第六條　協議會員ノ定員左ノ如シ

一　人口五千未滿ノ街庄　七人
二　人口五千以上一萬未滿ノ街庄　十人
三　人口一萬以上一萬五千未滿ノ街庄　十二人
四　人口一萬五千以上二萬未滿ノ街庄　十五人
五　人口二萬以上二萬五千未滿ノ街庄　十七人
六　人口二萬五千以上ノ街庄　二十人

協議會員ノ定員ハ四年間之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ臺灣總督ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ人口ハ臺灣總督府ノ公示シタル最近ノ人口ニ依ル

第七條　助役ハ之ヲ協議會員トス

第八條　協議會ニ副議長一名ヲ置ク

副議長ハ協議會員中ヨリ廳長又ハ郡守之ヲ選任ス

議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ廳長又ハ郡守ハ臨時ニ協議會員中ヨリ假議長ヲ選任スルコトヲ得

第九條　街庄長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第十條　協議會ハ街庄長之ヲ招集ス

街庄長必要アリト認ムルトキハ會期ヲ定メテ協議會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ三日前迄ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

協議會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ街庄長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ通知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

第十一條　協議會ハ街庄長之ヲ開閉ス

協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十二條　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長及協議會員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ協議會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第十四條　協議會ノ會議ハ議長其ノ傍聽ヲ許可スルコトヲ得

第十五條　協議會ノ會議ハ國語ヲ以テ用語トス但シ議長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

議長必要アリト認ムルトキハ書記ヲシテ通譯セシムルコトヲ得

第十六條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第十七條　協議會員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第十八條　議長必要アリト認ムルトキハ協議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第十九條　議長必要アリト認ムルトキハ傍聽人ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第二十條　協議會ニ書記ヲ置キ吏員ニ就キ街庄長之ヲ命ス

書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務又ハ通譯ニ從事ス

第二十一條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ國文ヲ以テ記載シ議長及議長ノ指名シタル出席協議會員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第二十二條　本令ニ定ムルモノノ外廳長又ハ郡守ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クルコトヲ得

第二十三條　協議會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ解任シタルモノト看做ス

一　街庄外ニ轉住シタルトキ
二　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　禁治産、準禁治産若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第三章　街庄ノ財務

第一款　街庄税及夫役現品

第二十四條　街庄內ニ住所ヲ有スルモノハ街庄税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十五條　三箇月以上街庄內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ街庄税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十六條　街庄內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖街庄內ニ土地、家屋、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ街庄內ニ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ街庄內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ街庄税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

第二十七條　納税者ノ街庄外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地、家屋、物件若ハ其ノ收入又ハ街庄外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入又ハ街庄外ニ於ケル特定ノ行爲ニ對シテハ街庄税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第二十八條　住所滯在街庄ノ內外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ街庄税ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納税義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納税義務者ノ住所滯在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル街庄ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

第二十九條　街庄ノ內外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地、家屋、物件又ハ營業所ヲ定メテ爲ス營業ヨリ生スル收入ニ付本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加税ヲ賦課セムトスルトキハ關係アル廳長、市尹又ハ街庄長協議ノ上其ノ步合ヲ定ム

前項ノ協議調ハサルトキハ廳又ハ郡內ニ止マルモノハ廳長又ハ郡守、二郡以上ニ亙ルモノハ州知事、州、廳又ハ二州以上ニ亙ルモノハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十條　別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ニ揭クルモノニ對シテハ街庄税ヲ賦課セス

一　國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地、家屋、物件
二　國、州、市街庄其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地、家屋、物件及營造物但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
三　祭祀、宗教、慈善、教育其ノ他公共事業ニ直接使用ノ土地、家屋、物件但シ有料ニテ使用セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　街庄ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於

テ街庄税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第三十二條　數人又ハ街庄ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ街庄ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ街庄ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　夫役又ハ現品ハ直接街庄税ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第五十八條第六號ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞役ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第三十四條　街庄長ハ特別ノ事情アル者ニ對シテハ街庄税ヲ減免シ又ハ其ノ納税ノ延期ヲ許スコトヲ得

第三十五條　街庄税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒迄ノ間、營業ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿、物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二款　街庄ノ歳入出豫算及決算

第三十六條　街庄税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出豫算ヲ調製スヘシ

豫算ニハ豫算證明及財產明細表ヲ添付スヘシ

第三十七條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第三十八條　豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル必要ナル支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ豫備費ハ豫算ニ付廳長又ハ郡守ノ認可ヲ與ヘサリシ費用ニ充ツルコトヲ得ス

第三十九條　歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第四十條　街庄長ハ豫算ノ認可ヲ受ケタル後直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十一條　各會計年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第四十二條　街庄長ハ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得但シ會計年度經過後ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ協議會ノ議決ヲ經廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十四條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第四十五條　決算ハ之ヲ協議會ニ提示シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四十六條　繼續費ハ每年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第四十七條　一年度內ニ終ルヘキ工事、製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサルモノニ限リ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第四十八條　工事又ハ物件ノ賣買、貸借及財產ノ管理、處分ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外臺灣總督府特別會計ノ例ニ依ル

第四十九條　會計役ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ其ノ責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ補助セシムルコトヲ得

第五十條　會計役ハ命令ヲ受ケタル歳入金、歳出金、歳入歳出外現金、證券又ハ物品ノ出納及保管ヲ掌ル

第五十一條　會計役ハ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

第五十二條　會計役其ノ保管ニ係ル現金、證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四章　街庄組合

第五十三條　州知事又ハ廳長街庄制第三十七條ノ規定ニ依リ街庄組合ヲ設置セントスルトキハ其ノ名稱、組合ヲ組織スル街庄、組合ノ共同事務、組合ノ管理者、組合役場ノ位置、組合會ヲ置クトキハ其ノ組織其ノ他必要ナル事項ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十四條　州知事又ハ廳長街庄組合ノ規定ヲ變更セムトスルトキ若ハ街庄組合ヲ解カムトスルトキハ組合會ノ意見ヲ徵シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產ノ處分ヲ要スルトキハ其ノ處分ニ付亦同シ

第五十五條　街庄組合ニ組合會ヲ設カサルトキハ組合會ニ諮問スヘキ事項ハ關係街庄長ノ協議ニ依ル

第五章　街庄ノ事務ノ監督

第五十六條　左ノ事項ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　學藝、美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト
二　間接國税ノ附加税ヲ賦課スルコト

第五十七條　左ノ事項ハ州知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

一　基本財產及不動產ノ處分ニ關スルコト
二　積立金穀ヲ其ノ目的外ニ處分スルコト

第五十八條　左ノ事項ハ廳長又ハ郡守ノ認可ヲ受クヘシ

一　基本財產及不動產ノ管理ニ關スルコト
二　削除
三　豫算外ニ街庄費ノ負擔ト爲ルヘキ契約ヲ爲スコト
四　第三十一條ノ費用ヲ負擔セシムルコト
五　第三十二條ノ賦課ヲ爲スコト
六　第三十三條ノ準率ニ依ラスシテ賦課ヲ爲スコト
七　權利ノ拋棄ヲ爲スコト

第五十九條　監督官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可又ハ認可ヲ與フルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令第六條第三項ノ人口ハ本令施行ノ際ニ限リ大正八年末現在ノ人口ニ依ル

●臺灣州制施行令、臺灣市制施行令及臺灣街庄制施行令中直接税及間接税ノ種類

（大正九年十二月十日臺灣總督府令第百八十號）

臺灣州制施行令、臺灣市制施行令及臺灣街庄制施行令中直接税及間接税ノ種類ハ左ニ揭クル諸税ヲ以テ直接税トシ其ノ他ハ間接税トス

國税
地租　所得税　鑛區税

州税
戸税　營業税　雜種税（遊興及屠畜税ヲ除ク）
直接國税附加税

市街庄税
直接國税及直接州税附加税

●街庄、街庄社、街庄社長及區、區長等ニ關スル律令

（大正九年八月三十一日律令第十號）

街庄、街庄社、街庄社長及區、區長等ニ關スル律令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ律令中臺灣總督府ノ街庄、街庄社又ハ區ニ關スル規定ハ市、街庄又ハ區ニ關スル規定トシ街庄社長又ハ區長ニ關スル規定ハ市尹、街庄長又ハ區長ニ關スル規定トス

附　則

大正八年律令第三號附則第二項及第三項ノ街庄ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正九年九月三十日臺灣總督府令第百十六號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ臺灣總督府令、告示中臺灣總督府ノ街庄、街庄社又ハ區ニ關スル規定ハ市、街庄又ハ區ニ關スル規定トシ街庄長又ハ區長ニ關スル規定ハ市尹、街庄長又ハ區長ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●保甲條例

（明治三十一年八月三十一日律令第二十一號）改正　明治四二年第五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル保甲條例勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

保甲條例

第一條　舊慣ヲ參酌シ保甲ノ制ヲ設ケ地方ノ安寧ヲ保持セシム

第二條　保及甲ノ人民ヲシテ各連坐ノ責任ヲ有セシメ其連坐者ヲ罰金若ハ科料ニ處スルコトヲ得

第三條　保及甲ニ於テハ各其規約ヲ定ムヘシ其規約中ニハ褒賞及過怠金ノ法ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ請フヘシ

第三條ノ二　臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ保及甲ノ役員ヲシテ區長ノ職務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第四條　保及甲ノ役員其職務ニ違背シタルトキハ地方長官之ヲ懲戒ス

懲罰ハ百圓以下ノ罰金剝職及譴責ノ三種トス

第五條　保及甲ニハ匪賊竝水火災ノ警戒防禦ノ爲壯丁團ヲ置クコトヲ得

第六條　保甲及壯丁團ノ編制指揮監督解散經費役員ノ選任權限等ニ關スル規定ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　此條例ハ地方長官ノ必要ト認ムル地ニ限リ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス

●保甲條例施行規則

（明治三十一年八月三十一日臺灣總督府令第八十七號）改正　明治四二年第六六號

保甲條例施行規則左ノ通相定ム（大正九年第一三六號）

保甲條例施行規則

第一條　甲ハ大凡十戶、保ハ大凡十甲ヲ以テ編成スルヲ例トス

第二條　保ニ保正、甲ニ甲長ヲ置ク

甲長ハ甲ニ於テ之ヲ選擧シ保正ヲ經テ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受クヘシ

保正ハ保ニ於テ之ヲ選擧シ所轄郡役所、支廳又ハ警察官署ヲ經テ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　保正ハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ指揮監督ヲ承ケ保內ノ安寧保持ニ任ス

甲長ハ保正ノ指揮監督ヲ承ケ甲內ノ安寧保持ニ任ス

保正及甲長ハ市尹、街庄長又ハ區長ノ指揮ヲ承ケ保內又ハ甲內ニ於テ市尹、街庄長又ハ區長ノ職務ヲ補助執行ス

第四條　保及甲ニ壯丁團ヲ設置セントスルトキハ保正甲長ヨリ所轄郡役所、支廳又ハ警察官署ヲ經由シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　甲ノ壯丁團ハ甲ノ壯丁ヲ以テ編成シ保ノ壯丁團ハ保內各甲ノ壯丁團ヲ以テ合成ス但土地ノ狀況ニ依リ保正協議ノ上數保ヲ合シテ一壯丁團ヲ編成スルコトヲ得

第六條　團員ハ團長一名副團長若干名ヲ互選シ保正ヲ經由シ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受クヘシ

團長ハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長又ハ上級團長ノ監督ヲ承ケ部下ヲ指揮ス

副團長ハ團長ノ職務ヲ助ク

第七條　壯丁團ハ相互ニ應援スルコトヲ得

第八條　壯丁團ニシテ公益ニ害アリト認ムルトキハ知事又ハ廳長ハ解散ヲ命スルコトヲ得

第九條　保甲及壯丁團ニ要スル費用ハ部內人民ノ負擔トス

役員ノ報酬金額ハ地方長官之ヲ定ム

第十條　經費ノ收支豫算ハ前年十二月中ニ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受ケ決算ハ翌年一月末日迄ニ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ報告スヘシ

附　則

第十一條　削除

第十二條　此規則ヲ施行スルニ必要ナル規程竝此規則ニ定ムルモノノ外保甲條例ノ施行ニ關スル規程ハ舊慣ヲ參酌シテ知事又ハ廳長之ヲ定ム

●團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル規則

（大正十一年四月一日臺灣總督府令第四十九號）改正　大正一一年第一五〇號、一四年第二九號、一五年第七號

明治三十八年府令第八十六號團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル規則左ノ通改正ス

第一條　水利、土功、衞生、教育、恤救、慈善、勸業其ノ他公共ノ利益ヲ目的トスル團體ニ於テ費用ノ負擔ヲ定メ之ヲ徵收セムトスルトキハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス左ノ事項ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可又ハ認可ヲ得テ徵收スル費用ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

一　費用徵收ノ目的
二　費用徵收ノ方法
三　徵收スヘキ金品ノ種類、數量
四　費用負擔者ノ範圍及負擔ノ割合
五　徵收ノ時期
六　團體ノ存續期間ヲ定メタルモノハ其ノ期間
七　收支豫算
八　團體ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ身分、職業、氏名

前項第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　神社、寺廟、祭祀、宗教其ノ他公共ノ利益ノ爲又ハ新聞紙、雜誌其ノ他出版物ノ發行若ハ其ノ經營ノ目的ヲ以テ寄附金品ヲ募集セムトスル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス左ノ事項ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ寄附ノ目的ヲ以テ金品又ハ會員、講員、贊助員等ヲ勸誘募集セムトスル者亦同シ

一　募集ノ目的
二　募集ノ方法
三　募集スヘキ金品ノ種類、數量（二年以上ニ亘リ募集スルモノハ年割豫定額、二以上ノ州又ハ廳ニ渉リ募集スルモノハ州又ハ廳別豫定額）
四　募集ノ區域
五　募集ノ期間
六　募集金品處分ノ方法竝其ノ期間
七　收支豫算
八　本島內ニ於ケル募集ノ主タル事務所
九　募集者ノ本籍（本島人ニ在リテハ本居地）、住所、身分、職業、氏名
十　募集者團體ナル場合ニ於テハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ身分、職業、氏名

前項第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

神社、寺廟、教務所、說教所ノ神職、住職、布教從事者又ハ管理人ニシテ第一項ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ氏子、檀家又ハ信徒總代三名以上連署ノ上出願スヘシ

第三條　他人ニ委任シテ寄附ノ募集ニ從事セシメムトスルトキハ其ノ事由及從事者ノ本籍、住所、身分、職業、氏名ヲ具シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

團體ニ於テ團體員ヲシテ募集ニ從事セシムル場合ニ於テモ代表者以外ノ者ナルトキハ前項ヲ適用ス

第四條　募集金品處分ノ後剩餘ヲ生シタルトキハ處分ノ方法及其ノ事由ヲ具シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　削除

第六條　左ノ各號ノ場合ニ於テハ七日以內ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

一　第一條第一項第六號乃至第八號及第二條第一項第六號乃至第十號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二　團體ヲ解散シ若ハ募集金品處分ノ結了シタルトキ又ハ費用ノ徵收若ハ金品ノ募集ヲ中止シ、廢止シ若ハ募集ヲ了リタルトキ

三　第三條ノ募集從事者ノ本籍、住所、身分、職業、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ募集從事者ヲ解任シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ收支計算書ヲ添附スヘシ

第七條　費用ヲ徵收スル團體ハ當該年分收支計算ヲ翌年一月三十一日限知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ費用徵收ノ中止又ハ廢止後收支ノ結了セサルモノ亦同シ

寄附金品ノ募集ニシテ募集金品處分ノ結了期限翌年以降ニ亙ルモノハ當該年分收支計算ヲ翌年一月三十一日限知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

別ニ收支年度ヲ定メタルモノハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ年度經過後三十日以內ニ前年度ニ於ケル收支計算ノ屆出ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ年度ヲ屆出ツヘシ

第八條　知事又ハ廳長ニ於テ公安上必要ト認ムルトキハ此ノ規則ニ依リ許可又ハ認可シタル事項ノ全部若ハ一部ヲ取消シ若ハ制限シ又ハ寄附募集ニ從事スル者ノ行爲ニ對シ停止若ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　費用徵收及寄附金品募集ニ關シテハ當該官吏ヲシテ之カ帳簿書類ノ檢査ヲ爲サシメ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ハ第一條但書行政官廳ノ許可又ハ認可ヲ得テ徵收スル費用ニ就テモ之ヲ適用ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條ノ許可ヲ受ケスシテ費用ヲ徵收シ若ハ徵收セシメ又ハ徵收事項ヲ變更シタル者
二　第二條、第三條ノ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ寄附金品ヲ募集シ若ハ募集セシメ又ハ募集事項ヲ變更シタル者
三　第四條若ハ第十四條第四項ノ規定又ハ第八條ノ命令ニ違反シテ費用ヲ徵收シ又ハ寄附金品ヲ募集シタル者
四　當該官吏ノ檢査ニ際シ其ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第十一條　第六條、第七條及第十三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十二條　團體ハ其ノ代表者、代理人、團體員、雇人又ハ其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

法人ノ代表者、代理人、團體員、雇人又ハ其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタル場合ニ於テハ本令ニ定メタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第十三條　天災事變ニ際シ一時ノ救助ヲ目的トシテ金品ヲ募集スル者ニ對シテハ第二條、第三條及第六條ヲ適用セス

前項ニ該當スル者其ノ金品ノ募集ニ著手シタルトキハ第二條第一項各號ノ事項ヲ、第三條ニ該當スル場合ハ募集從事者ノ本籍、住所、身分、職業、氏名ヲ七日以內ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ其ノ事項ニ異動アリタルトキ及第六條第二號ノ場合亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ許可又ハ認可ヲ受ケ費用ノ徵收又ハ寄附金品ノ募集中ニ係ルモノハ本令ニヨリ許可又ハ認可セラレタルモノト見做ス

●臺灣地方稅支辨事業ニ寄附スル金穀物件取扱方

（明治三十八年十一月二十五日臺灣總督府令第八十七號）

【臺灣地方稅規則第九條】ニ依リ寄附スル金穀物件ノ受納ニ關シテハ廳長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

明治三十六年四月府令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

第六章　樺太

●樺太ノ郡町村編制ニ關スル件

（大正四年六月二十八日勅令第百一號）

朕樺太ノ郡町村編制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　樺太ヲ分チテ郡トス

郡ヲ分チテ町又ハ村トス

第二條　郡町村ノ名稱及區域ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大字及字ノ編成ニ關スル件

（大正四年七月樺太廳令第二十號）

大字及字ノ編成ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　町村ヲ大字ニ分ツ

大字ノ名稱及區域ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ所轄支廳長之ヲ定ム

第二條　地方ノ狀況ニ依リ必要ナルトキハ大字ヲ字ニ分ツコトヲ得

字ノ名稱及區域ハ所轄支廳長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ノ地方制度ニ關スル法律

（大正十年四月八日法律第四十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ノ地方制度ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　樺太ニ地方ノ事務ヲ處理セシムル爲町又ハ村ヲ置ク

町又ハ村ノ名稱及區域ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條　町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　町村ニ町村長ヲ置ク樺太廳長官之ヲ任免ス

町村長ハ町村ノ事務ヲ擔任シ町村ヲ代表ス

第四條　町村ニ町村評議會ヲ置ク

評議會ハ町村評議員ヲ以テ組織シ町村長ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

町村評議員ハ名譽職トス町村ニ住所ヲ有スル者ニ就キ樺太廳支廳長之ヲ命ス

第五條　町村ハ法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第六條　町村ハ前條ノ費用ニ充ツル爲町村稅、使用料、手數料及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第七條　町村ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ借入金ヲ爲スコトヲ得

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第八條　本法ニ定ムルモノノ外町村吏員、町村評議會、町村評議員、町村ノ財務、町村ノ監督其ノ他ノ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ハ樺太廳長官ノ指定スル地域ニ付之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十年法律第四十七號ハ大正十一年四月一日ヨリ施行（大正十一年勅令第七號）

●樺太町村制

（大正十一年一月二十三日勅令第八號）

朕樺太町村制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太町村制

第一章　總則

第一條　本令ハ大正十年法律第四十七號ニ依ル町村ニ之ヲ適用ス

第二條　町村ハ法令ノ範圍內ニ於テ左ノ事務ヲ處理ス

一　教育ニ關スル事項
二　衞生ニ關スル事項
三　土木交通ニ關スル事項
四　產業ニ關スル事項
五　警防ニ關スル事項
六　戶口民籍ニ關スル事項
七　賑恤救濟ニ關スル事項
八　前各號ノ外町村ノ公共ニ關スル事項

第三條　町村ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住

民トス。

町村住民ハ本令ニ從ヒ町村ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第四條　町村ハ町村住民ノ權利義務、町村ノ事務、町村ノ財産及營造物ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第五條　町村ハ役場ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章　町村吏員

第六條　町村ニ町村長ノ外收入役一人ヲ置ク

樺太廳支廳長之ヲ任免ス

樺太廳長官ハ特別ノ事情アル町村ニハ助役一人ヲ置クコトヲ得助役ハ樺太廳支廳長之ヲ任免ス

町村長、助役及收入役ハ有給吏員トス但シ町村長及助役ハ名譽職ト爲スコトヲ得

樺太廳長官ハ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村長ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第七條　町村長、助役及收入役ノ任期ハ四年トス

第八條　町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ區ヲ劃シ區長ヲ置クコトヲ得

區長ハ名譽職トス町村住民中ヨリ樺太廳支廳長之ヲ命ス

第九條　町村ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村住民中ヨリ町村長之ヲ選任ス委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役若ハ委員ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　前數條ニ定ムルモノノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置ク町村長之ヲ任免ス

前項ノ吏員ノ職名及定員ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ町村長之ヲ定ム

第十一條　町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免スル町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第十二條　町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及公共團體ノ事務ヲ掌ル

第十三條　町村長ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條　町村長故障アルトキハ助役ヲ置ク場合ニ於テハ助役、助役ヲ置カサル場合又ハ助役亦故障アル場合ニ於テハ第十條ノ吏員中上席ノ者之ヲ代理ス

第十五條　助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

第十六條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務竝第十二條ノ事務ニ依ル國及公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村長ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第十七條　父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村長、助役及收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十八條　有給町村長、有給助役及收入役ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ營業其ノ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十九條　區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

第二十條　委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ委託ニ依リ財産若ハ營造物ヲ管理シ又ハ町村ノ事務ヲ調査シ若ハ處辨ス

第二十一條　第十條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第三章　町村評議會

第二十二條　町村評議員ノ定數左ノ如シ

一　人口千五百未滿ノ町村　八人
二　人口千五百以上五千未滿ノ町村　十二人
三　人口五千以上一萬未滿ノ町村　十八人
四　人口一萬以上ノ町村　二十四人

樺太廳長官ハ特別ノ事情アル町村ニ對シテハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ定數ヲ增減スルコトヲ得

町村評議員ノ定數ハ其ノ町村ノ評議員全員ヲ命スルトキニ非サレハ之ヲ增減セス但シ前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　町村評議員ノ任期ハ三年トス但シ補闕評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

町村評議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ命セラレタル評議員ハ他ノ評議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第二十四條　町村評議會ノ諮問ニ付スヘキ事件左ノ如シ

一　町村規則ノ制定又ハ改廢ニ關スルコト
二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スルコト但シ第十二條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
三　歲入出豫算ノ決定ニ關スルコト
四　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外町村稅、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト
五　不動産ノ管理、處分及取得ニ關スルコト
六　基本財産及積立金穀等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
七　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄ニ關スルコト
八　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
九　町村吏員ノ身元保證ニ關スルコト
十　役場ノ位置ノ決定又ハ變更ニ關スルコト
十一　町村ニ係ル訴願、訴訟及和解ニ關スルコト
十二　前各號ノ外町村長ノ必要ト認ムル事件

第二十五條　町村評議會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長ニ又ハ町村長ヲ經テ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第二十六條　町村評議會ハ監督官廳ノ諮問アルトキハ町村長ヲ經テ意見ヲ答申スヘシ

第二十七條　町村評議會ノ議長ハ町村評議員中ヨリ樺太廳支廳長之ヲ命ス

議長故障アルトキハ出席評議員中ニ於テ互選シタル者其ノ職務ヲ代理ス

第二十八條　町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルコトヲ得但シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第二十九條　町村評議會ハ町村長之ヲ招集ス

町村長必要ト認ムルトキハ會期ヲ定メテ町村評議會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村評議會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

第三十條　町村評議會ハ町村長之ヲ開閉ス

町村評議會ハ評議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席評議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　町村評議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十二條　評議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村評議會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條　町村評議會ノ會議ハ之ヲ公開ス但シ議長其ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止スルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長ハ前項ノ規定ニ拘ラス町村長ノ要求アルトキハ傍聽ヲ禁止スヘシ

第三十四條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十五條　町村評議會ニ書記ヲ置ク町村吏員中ヨリ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十六條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席評議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ニハ議長及出席評議員二人以上之ニ署名スヘシ其ノ評議員ハ町村評議會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十七條　町村評議會ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三十八條　町村評議會ノ諮問ニ付スヘキ事件ニシテ輕易ナルモノハ町村評議會ヲ開カス町村長ニ於テ書面ヲ以テ町村評議員ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條　町村長ハ町村評議會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ開申セサルトキ又ハ町村評議會ヲ招集スルコト能ハサルトキ若ハ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ書面ヲ以テ町村評議員ノ意見ヲ徵スル場合ニ於テ評議員定數ノ半數以上ノ意見答申ナキトキ亦同シ

町村長ハ前項ノ規定ニ依リテ處分シタル事件ヲ次回ノ會議ニ於テ町村評議會ニ報告スヘシ

第一項ノ規定ハ監督官廳カ町村評議會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　給料及給與

第四十條　有給町村長ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ樺太廳長官、有給助役及收入役ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ樺太廳支廳長、第十條ノ吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ町村評議會ノ諮問ヲ經樺太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ町村長之ヲ定ム

第四十一條　有給町村長其ノ他ノ有給吏員ニハ町村規則ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、遺族扶助料又ハ死亡給與金ヲ給スルコトヲ得

退隱料、退職給與金、遺族扶助料又ハ死亡給與金ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條　名譽職町村長其ノ他ノ名譽職吏員及町村評議員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長其ノ他ノ名譽職吏員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村評議會ノ諮問ヲ經樺太廳支廳長ノ認可ヲ得テ町村長之ヲ定ム

第四十三條　給料、旅費、退隱料、退職給與金、遺族扶助料、死亡給與金、費用辨償、報酬其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス但シ町村長ノ給料ハ國庫ノ支辨トス

第五章　町村ノ財務

第四十四條　收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ノ蓄積ヲ命スルコトヲ得

第四十五條　町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　第二條ノ事務ニ關スル費用及第十二條ノ事務ヲ執行スル爲必要ナル費用ハ之ヲ町村ノ負擔トス但シ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國稅ノ附加稅
二　特別稅

國稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第七十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

特別稅ノ種類ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第四十八條　三月以上町村內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第四十九條　納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十條　國又ハ公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝布敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ布敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

土人ノ營業又ハ行爲及土人所有ノ土地家屋物件ニ對シテハ土人ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

一　軍人從軍中ノ俸給及手當
二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三　旅費、學資金及法定扶養料
四　郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
六　乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料

第五十二條　前三條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　住所滯在數町村ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各町村ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

數町村ニ涉リ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スルトキハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ本稅額ヲ各町村ニ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第五十四條　數人ヲ利スル營造物ノ設置、維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置、維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第五十五條　數人又ハ町村ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　町村稅ノ賦課ニ關シ調査上必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ就キ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ付テハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第五十七條　町村稅ノ賦課徵收ニ關シテハ本

合ニ規定アルモノノ外必要ナル事項ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第五十八條　夫役又ハ現品ハ直接町村税ヲ準率ト爲シ直接町村税ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第七十四條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝、美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第五十九條　非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長、警察官吏又ハ監督官廳ハ町村内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ樺太廳支廳長之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第六十條　町村長ハ特別ノ事情アル者ニ對シ町村評議會ノ諮問ヲ經テ町村税ヲ減免シ又ハ納税ノ延期ヲ許スコトヲ得但シ當該年度内ノ納税延期ニ付テハ町村評議會ノ諮問ヲ經ルコトヲ要セス

第六十一條　町村税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴税令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料及手數料ノ徴收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第六十二條　使用料、手數料及特別税ニ關スル事項ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ規則中ニハ十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ町村規則ヲ以テ十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條　町村税、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村規則ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國税徴收ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徴收金ハ國税ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴、還付及時效ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第六十四條　町村長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始ノ一月前迄ニ町村評議會ノ諮問ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

町村長ハ町村評議會ノ諮問ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ特別會計ニハ之ヲ設ケサルコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算ハ樺太廳支廳長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十五條　町村長ハ豫算ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令アルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長ニ之ヲ準用ス

第六十六條　町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第六十七條　町村ノ出納ハ隔月之ヲ檢査シ且毎會計年度一回以上臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ町村長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ町村評議會ニ於テ互選シタル評議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第六十八條　町村ノ出納ハ翌年度七月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ト共ニ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ樺太廳支廳長及次ノ通常豫算ヲ諮問スル會議迄ニ町村評議會ニ報告スヘシ但シ町村長ニ於テ收入役ノ事務ヲ兼掌シタルトキハ意見ヲ附スルコトヲ要セス

町村長ハ前項ノ報告ヲ爲シタル後直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十九條　豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第六章　町村ノ監督

第七十條　町村ハ第一次ニ於テ樺太廳支廳長、第二次ニ於テ樺太廳長官、第三次ニ於テ主務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

第七十一條　異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本令中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十二條　町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ監督官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ樺太廳支廳長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

樺太廳支廳長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ理由ヲ示シテ之ヲ削減スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

第七十三條　左ニ掲クル事件ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二　基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スルコト

三　借入金ヲ爲シ竝借入ノ方法、利息ノ定率及償還方法ヲ定メ又ハ變更スルコト但シ年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

四　特別税ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト

五　直接國税二分ノ一ヲ超過スル附加税ヲ賦課スルコト

六　間接國税ノ附加税ヲ賦課スルコト

七　均一ノ税率ニ依ラスシテ國税ノ附加税ヲ賦課スルコト

八　使用料及手數料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト

九　學藝、美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト

第七十四條　左ニ掲クル事件ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ受クヘシ

一　寄附又ハ補助ヲ爲スコト

二　不動産ノ管理及處分ニ關スルコト

三　第五十四條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト

四　第五十五條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

五　第五十八條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

六　繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

七　豫備費ノ支出ニ關スルコト

第七十五條　監督官廳ノ認可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ認可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第七十六條　監督官廳ハ其ノ認可ヲ要スル事件中輕易ナルモノハ其ノ認可ノ權限ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第七十七條　樺太廳長官又ハ樺太廳支廳長ハ町村長、助役、收入役、區長、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、三十圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長、助役及收入役ニ對スル解職ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ樺太廳長官之ヲ行フ

樺太廳長官ハ町村長、助役及收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間給料ヲ支給セス

第七十八條　町村吏員ノ服務規律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

前項ノ規定ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ三十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七章　雜則

第七十九條　第二十二條ノ人口ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第八十條　本令ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第八十一條　町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於ケル町村ノ財産處分其ノ他ノ事務ニ付必要ナル事項ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十年法律第四十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

●樺太町村制ノ施行ニ關スル件

（大正十一年二月一日樺太廳令第一號）

樺太町村制ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太町村制（以下單ニ町村制ト謂フ）施行ニ際シ其ノ地域ニ屬スル部落ノ部落總代ハ廢セラレタルモノトス

第二條　樺太廳長官ハ町村制施行ニ際シ町村長就職スルニ至ル迄所部ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前項官吏ノ町村ノ事務ニ付要スル旅費ハ其ノ町村ノ負擔トス

第三條　町村制施行ニ際シ其ノ地域ニ屬スル部落ニ於テ從來部落共同ノ費用ヲ以テ經營セル公共事業、共有財産及部落公共事業ノ爲共同負擔ニ係ル借入金竝部落費ハ部落總代タリシ者ニ於テ町村制施行ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ町村ニ引繼クヘシ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル事業、財産及借入金ハ之ヲ其ノ町村ノ事業、財産及借入金トシ部落費ハ之ヲ其ノ町村費ニ繰入ルヘシ

第四條　前條ニ依リ引繼ヲ受ケタル事業、財産及借入金ハ町村長ニ於テ之ヲ町村評議會ニ報告シ且樺太廳支廳長ニ報告スヘシ

第五條　町村制施行ノ日ヨリ町村税ノ徴收ニ至ル迄ノ間ニ於テ町村費ノ支出ヲ要スルトキハ他ニ町村ニ屬スル收入ナキ場合又ハ一時ノ借入金ヲ以テ之ヲ支辨シ難キ場合ニ限リ町村長ニ於テ樺太廳支廳長ノ許可ヲ得テ假ニ町村税ヲ徴收シ之ニ充ツヘシ

前項ニ依リ假徴收ヲ爲シタル町村税ハ追テ其ノ年度ノ町村税ヲ正規ニ徴收スルニ當リ之ヲ差引クヘシ

第六條　町村制施行ノ際ニ於ケル町村役場ノ位置ハ樺太廳長官之ヲ指定ス

第七條　町村制施行ノ際ニ於ケル町村ノ公告式ニ關スル町村規則ハ其ノ町村役場前ニ掲示シテ之ヲ公告スヘシ

第八條　本令ノ規定ハ大正十年法律第四十七號ヲ適用スル地域ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ樺太町村制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●町村財務規程

（大正十一年二月十日樺太廳令第七號）

（改正　大正一二年第四〇號、一三年第二〇號）

町村財務規程左ノ通定ム

町村財務規程

第一條　町村税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ豫算ニ編入スヘシ

第二條　各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一、納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　定期ニ賦課スルコトヲ得サルカ爲納期ヲ定メタル收入又ハ臨時ノ收入ニシテ徴税令書、賦課令書又ハ納入告知書ヲ發スルモノハ令書又ハ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ徴税令書、賦課令書又ハ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ借入金、交付金、補助金、寄附金、請負金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ヲ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第四條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　給料、報酬、費用辨償、旅費、退隱料、退

職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支出スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第五條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第六條　町村稅ハ徵稅令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令書ニ依リ負擔金、使用料、手數料、加入金、過料過怠金及物件ノ貸貸料ハ納入告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スヘシ但シ町村稅ノ賦課及徵收ニ關スル規程第四條ノ規定ニ依リ徵收スル町村稅及急迫ノ場合ニ賦課スル夫役竝納入告知書又ハ納付書ニ依リ難キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　支出ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　左ノ經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

一　町村借入金ノ元利支拂

二　外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費

三　町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費

前項ノ現金前渡ハ町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第九條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

第十條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十一條　前三條ニ掲クルモノノ外必要アルトキハ町村ハ樺太廳支廳長ノ許可ヲ得テ現金前渡、概算拂又ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十二條　歳入ノ誤納、過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂、過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第十三條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ前條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第十四條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第十五條　町村ノ收入ヲ銀行ニ預ケ入レタル場合ニ於テハ町村ノ支出ハ其ノ銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ債主ノ爲ニ振出シテ現金ノ交付ニ代フルコトヲ得

第十六條　歳入歳出豫算ハ必要アルトキハ經常、臨時ノ二部ニ別ツヘシ

歳入歳出豫算ハ之ヲ款項ニ區分シ其ノ說明ヲ付スヘシ

第十七條　歳入歳出豫算ハ別記ノ式ニ依リ調製スヘシ

第十八條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十九條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加スルコトヲ得ス

第二十條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ町村評議會ノ諮問ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第二十一條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第二十二條　會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ樺太廳支廳長ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第二十三條　收入役町村稅其ノ他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ銀行又ハ郵便局ニ預入ルヘシ但シ町村役場所在地ニ銀行又ハ郵便局ノ設置ナキトキハ第一號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　收入金額	三十圓以上五十圓未滿	每一月
二　收入金額	百圓未滿	每二十日
三　收入金額	三百圓未滿	每十日
四　收入金額	五百圓未滿	每五日
五　收入金額	五百圓以上	翌日限

第二十四條　財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競爭入札ニ付スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　町村長ニ於テ競爭入札ニ付スルヲ不利ト認ムルトキ

二　臨時急施ヲ要シ競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　物件ノ製造者特定セル等ノ爲競爭入札ニ付シ難キトキ

四　樺太廳支廳長ノ許可ヲ得タルトキ

不動產ノ賣却ニ付テハ前項第一號乃至第三號ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記省略）

●町村ノ廢置分合等ノ場合ニオケル財産處分其ノ他ノ事務ニ關スル件

（大正十一年四月五日　樺太廳令第三十號）

町村ノ廢置分合等ノ場合ニオケル財産處分其ノ他ノ事務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太廳長官ハ町村ノ廢置分合ヲ爲ス場合ニ於テ町村ニ財産アルトキハ關係アル町村評議員會ノ意見ヲ徵シテ其ノ處分ヲ定ム

町村ノ境界ヲ變更スル場合ニ於テ其ノ地域ニ財産アルトキ亦同シ

第二條　町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル町村其ノ事務ヲ承繼ス其ノ地域ニ依リ難キトキハ樺太廳支廳長ハ事務ノ分界ヲ定メ又ハ承繼スヘキ町村ヲ指定ス

前項ノ場合ニ於テ消滅シタル町村ノ收支ハ消滅ノ日ヲ以テ打切リ其ノ町村長タリシモノ之ヲ決算ス

前項ノ決算ハ事務ヲ承繼シタル町村ノ町村長ニ於テ之ヲ其ノ町村評議員會ニ報告シタル後樺太廳支廳長ニ報告シ且其ノ要項ヲ告示スヘシ

第三條　町村ノ境界變更アリタル爲事務ノ分割ヲ要スルトキハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ樺太廳支廳長之ヲ定ム

第四條　前二條ノ廢置分合又ハ境界變更二以上ノ支廳管轄區域ニ渉ルトキハ樺太廳長官ハ其ノ事件ヲ處理スヘキ樺太廳支廳長ヲ指定ス

第五條　町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ハ大正十一年二月樺太廳令第一號第二條第五條乃至第七條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●町村行政ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル事項ニ關スル件

（大正十一年二月十七日　樺太廳令第十號）

町村行政ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル事項ニ關スル件左ノ通定ム

樺太町村制ノ規定ニ依ル監督官廳ノ認可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ其ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一　借入金ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減シ又ハ之カ爲償還年限ヲ短縮スルコト

二　借入金ノ借入先ヲ變更スルコト

三　借入金ノ既定ノ償還年限ヲ延長セスシテ低利借替ヲ爲シ又ハ繰上償還ヲ爲スコト

四　基本財産若ハ積立金ノ現金ヲ郵便貯金、大藏省預金ト爲シ若ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行ニ預ケ入レ又ハ現金若ハ郵便貯金ヲ國債證券、地方債證券、勸業債券、貯蓄債券、興業債券、拓殖債券若ハ農工債券ニ代フルコト

五　特定ノ目的ノ爲ニスル積立金額等ヲ其ノ目的ノ爲ニ處分スルコト

六　二年度ヲ超エサル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期內ニ於テ之ヲ變更スルコト

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七章　關東州

●關東州會制

（大正十四年六月二十二日　勅令第二百三十八號）

朕關東州會制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

關東州會制

第一條　會ハ法令ニ依リ會ニ屬セシメタル事務ヲ處理ス

第二條　會ハ從來ノ名稱及區域ニ依ル

會ノ廢置分合竝名稱及境界ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市又ハ會ノ意見ヲ徵シ關東長官之ヲ定ム

第三條　會ニ會長ヲ置ク關東長官之ヲ任免ス

會長ハ會ノ事務ヲ擔任シ會ヲ代表ス

會ニハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ會吏員ヲ置クコトヲ得

第四條　會長ノ諮問ニ應セシムル爲會ニ協議會ヲ置ク

協議會ハ會長及協議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

協議會ハ會長ヲ以テ議長トス

協議會員ノ定員ハ八人以上二十人以下ノ範圍內ニ於テ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

第五條　會長ハ會ニ關スル左ノ事項ヲ協議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ協議會ニ諮問スルノ暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歳入歳出豫算ヲ定ムルコト

二　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、會稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト

三　第十四條第一項ノ借入金ニ關スルコト

四　不動產ノ取得及處分ニ關スルコト

五　基本財產及積立金等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト

六　歳入歳出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト

七　會規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

八　會ニ係ル訴訟及和解ニ關スルコト

會長ハ必要ト認ムルトキハ前項各號ニ掲クル事項ノ外會ニ關スル事項ヲ協議會ニ諮問スルコトヲ得

第六條　協議會員ハ會ニ住所ヲ有スル者ノ中ヨリ民政署長又ハ民政支署長之ヲ選任ス

協議會員ハ名譽職トス

協議會員ノ任期ハ三年トス但シ補闕協議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第七條　協議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ民政署長又ハ民政支署長ハ關東長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ解任スルコトヲ得

第八條　會長其ノ他ノ會吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ會ノ負擔トス但シ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　會ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

會ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十條　會ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ會ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

會ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料其ノ他會ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ會稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第十一條　會稅其ノ他會ニ屬スル徵收金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ關東廳ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第十二條　會稅、使用料、手數料及夫役現品竝其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ關東長官之ヲ定ム

第十三條　會ハ法令ニ定ムルモノヲ除クノ外會稅、使用料及手數料ニ關スル事項ニ付テハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ會規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

會規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十四條　會ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ關東長官ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

會長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲必要アルトキハ關東長官ノ認可ヲ受ケ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十五條　會ハ毎會計年度歳入歳出豫算ヲ調製シ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受クヘシ

會ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第十六條　會ノ支拂金ノ時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第十七條　民政署長又ハ民政支署長ハ會ノ事務ノ一部ヲ共同處理セシムル爲必要アリト認ムルトキハ關東長官ノ認可ヲ受ケ會組合ヲ設クルコトヲ得

會組合ニハ會ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

本令施行ノ際必要ナル事項ハ關東長官之ヲ定ムルコトヲ得

（大正十四年關東廳令第四十二號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●關東州會制施行規則

（大正十四年七月三十日　關東廳令第四十三號）

關東州會制施行規則左ノ通定ム

關東州會制施行規則

第一章　總則

第一條　會ハ別段ノ定メアルモノノ外左ノ事務ヲ處理ス

一　教育ニ關スル事項

二　衞生ニ關スル事項

三　土木交通ニ關スル事項

四　產業ニ關スル事項

五　警防ニ關スル事項

六　賑恤救濟ニ關スル事項

七　戶口ニ關スル事項

八　前各號ノ外會ノ公共ニ關スル事項

第二條　會ノ廢置分合又ハ境界變更ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ關係アル市、會ノ意見ヲ徵シ關東長官ノ認可ヲ受ケ民政署長又ハ民政支署長之ヲ定ム

會內ノ街屯ハ從來ノ名稱及區域ニ依ル

街屯ノ廢置分合竝名稱及境界ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ會長ハ民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受クヘシ

會事務所ノ位置ハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ會長之ヲ定ム其ノ變更ニ付亦同シ

第二章　會吏員

第三條　會長ハ左ノ事務ヲ擔任ス

一　會費ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ執行スルコト

二　財產及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ其ノ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スルコト

三　收入支出ニ關スル命令及會計事務ヲ監督スルコト

四　證書及公文書類ヲ保管スルコト

五　使用料、手數料、會稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコト

六　其ノ他法令ノ規定ニ依リ會長ノ職權ニ屬スル事項

第四條　會ニ會計員一人ヲ置ク

會計員ハ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

特別ノ事情アル會ニハ副會長一人ヲ置クコトヲ得

副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長故障アルトキ之ヲ代理ス

特別ノ事情アル會ニ於テハ民政署長又ハ民政支署長ハ會計員ヲ置カス會長又ハ副會長ヲシテ會計員ノ事務ヲ兼掌セシム

コトヲ得

會長ハ會計員故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受クヘシ

會ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ定ム

前項ノ吏員ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

會長故障アルトキハ上席書記之ヲ代理ス副會長ヲ置キタル會ニ於テ會長及副會長共ニ故障アルトキ亦同シ

會吏員ハ有給トス但シ會長及副會長ハ名譽職ト爲スコトヲ得

會長、副會長及會計員ノ任期ハ三年トス

副會長、會計員及書記其ノ他ノ吏員ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ任免ス

第五條　街又ハ屯ニ街屯長及副街屯長一人ヲ置ク

特別ノ事情アル街屯ニ於テハ副街屯長數人ヲ置クコトヲ得

街屯長及副街屯長ハ名譽職トス

街屯長及副街屯長ハ會ニ住所ヲ有スル者ノ中ヨリ民政署長又ハ民政支署長之ヲ選任ス

街屯長及副街屯長ノ任期ハ三年トス

街屯長ハ會長ノ命ヲ承ケ其ノ街屯内ニ於ケル會長ノ事務ヲ補助ス

副街屯長ハ街屯長ノ事務ヲ補助シ街屯長故障アルトキ之ヲ代理ス副街屯長數人ヲ置キタルトキハ豫メ會長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第六條　會長、副會長、會計員、街屯長及副街屯長其ノ任期中退職セムトスルトキハ退職ノ理由ヲ具シ會長ニ在リテハ關東長官ニ其ノ他ノ會吏員ニ在リテハ民政署長又ハ民政支署長ニ願出ツヘシ

第七條　會長ハ會吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三章　協議會

第八條　協議會員ノ定員左ノ如シ

一　人口五千未滿ノ會　八人
二　人口五千以上一萬未滿ノ會　十二人
三　人口一萬以上二萬未滿ノ會　十六人
四　人口二萬以上ノ會　二十人

協議會員ノ定員ハ總選任ヲ爲ス場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

特別ノ事情アル會ニ於テハ民政署長又ハ民政支署長ハ關東長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ增減スルコトヲ得

第九條　協議會員中闕員ヲ生シ其ノ闕員會員定員ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ民政署長、民政支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選任ヲ爲スヘシ

第十條　協議會ノ議長故障アルトキハ會長ノ職務ヲ代理スル者之ヲ代理ス

第十一條　協議會ハ會長之ヲ招集、開會及閉會ス

協議會ノ招集及諮問スヘキ事項ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ協議會員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　協議會ハ協議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一事項ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　協議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十四條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第十五條　議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席會員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議錄ハ議長及出席會員二人以上之ニ署名スヘシ

第四章　給料及給與

第十六條　名譽職會長、名譽職副會長、協議會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職會長、名譽職副會長、街屯長及副街屯長ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

名譽職員ノ費用辨償額、報酬額、有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ定ム

有給吏員ニハ會規則ノ定ムル所ニ依リ退職給與金及死亡給與金ヲ給スルコトヲ得

第五章　會ノ財務

第一款　財産營造物及會稅

第十七條　收益ノ爲ニスル會ノ財産ハ基本財産トシテ之ヲ維持スヘシ

會ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ積立金ヲ爲スコトヲ得

第十八條　會稅及夫役現品ハ會内ニ住所ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

第十九條　三月以上引續キ會内ニ滯在スル者ニ對シテハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ會稅ヲ賦課スルコトヲ得

會内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖會内ニ於テ土地、家屋、物件ヲ所有、使用若ハ占有シ、會内ニ於テ營業ヲ爲シ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入又ハ其ノ行爲ニ付會稅ヲ賦課スルコトヲ得

納稅者ノ會外ニ於テ所有、使用、占有スル土地、家屋、物件若ハ其ノ收入又ハ會外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ會稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第二十條　神社、寺院、廟宇ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所、說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ會稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所、說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國又ハ市、會其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋、物件及營造物ニ對シテハ會稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地、家屋、物件ニ對シテハ國ニ會稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第二十一條　會稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　段別割
二　戶別割
三　特別稅

段別割ハ耕地、山林、荒地ニ對シ民有地ニ在リテハ其ノ所有者又ハ質權者ニ、官有貸下地ニ在リテハ其ノ借地人ニ之ヲ賦課スヘシ

特別ノ事情アル會ニ於テハ宅地ニ對シ段別割ヲ賦課スルコトヲ得

段別割ハ各地目毎ニ均一ノ課率ヲ以テ之ヲ賦課徵收スヘシ但シ第五十七條ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

戶別割ハ一戶ヲ構フル者營業所又ハ事務所ヲ有スル法人又ハ組合ニ之ヲ賦課スヘシ但シ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

戶別割ハ納稅義務者ノ所得、資産及生計ノ狀況等ヲ斟酌シ等差ヲ設ケテ之ヲ賦課徵收スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ等差ヲ設ケスシテ賦課徵收スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アル場合ニ於テ之ヲ賦課徵收スルモノトス

第二十二條　段別割ノ課率ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

段別割　一畝ニ付四十錢

特別ノ必要アル場合ニ於テハ關東長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ賦課スルコトヲ得

第二十三條　夫役又ハ現品ハ之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出シテ之ニ當ラシムルコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役現品ニ付テハ之ヲ適用セス

第二十四條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

會ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ會稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

數人又ハ會ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前二項ノ例ニ依ル

數人又ハ會ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事項ニ關シテハ會ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ會ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　會長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得但シ其ノ年度ヲ越ユル場合ハ協議會ニ諮問スヘシ

會ハ特別ノ事情アル者ニ限リ會稅ヲ減免スルコトヲ得

第二十六條　會稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納額告知書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ會長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

會長ハ前項ノ申立アリタルトキハ之ヲ協議會ニ諮問ノ上決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル會長ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ十日以内ニ民政署長又ハ民政支署長ニ不服ノ申立ヲ爲シ裁定ヲ請フコトヲ得

前各項ノ規定ニ依ル申立、決定又ハ裁定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　會稅、使用料、手數料、過怠金其ノ他會ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ會長ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲ササルトキ又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ會長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ但シ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役現品ニ付テハ之ヲ金額ニ算出シ更ニ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ會規則ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期間内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第二十八條　會稅ノ徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外大正十四年關東廳令第十三號第二條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　會ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第三十條　會長ハ關東州會制第十四條第一項ノ規定ニ依リ借入金ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ金額、借入ノ方法、利率及償還方法ヲ定メ之ヲ協議會ニ諮問スヘシ

第二款　會ノ豫算及決算

第三十一條　會長ハ會稅其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ每會計年度歳入歳出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ民政署長又ハ民政支署長ニ認可ヲ申請スヘシ

豫算ハ認可アリタル後直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

豫算ハ別表第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

豫算ニハ財産表ヲ添附スヘシ

第三十二條　會ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別表第二號ノ式ニ依リ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

前條第一項第二項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　會長ハ其ノ會計年度内ニ限リ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

追加又ハ更正豫算ハ別表第三號ノ一、二ノ式ニ依リ調製スヘシ

第三十四條　會費ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノニ付テハ協議會ニ諮問ノ上其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

繼續費ノ年期及支出方法ハ別表第四號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十五條　會ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第三十六條　會長ハ豫算ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ謄本ヲ會計員ニ交付スヘシ

會計員ハ會長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他適法ニ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ會計員ノ事務ヲ兼掌シタル會長又ハ副會長ニ之ヲ準用ス

第三十七條　歳入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ借入金、補助金、寄附金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第三十八條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料、旅費、退職給與金、死亡給與金其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定メアルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
二　通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
三　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
四　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三十九條　各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス但シ年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第四十條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算各項ノ金額ハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ流用スルコトヲ得ス

第四十一條　遼陽ノ地ニ於テ支辨ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ現金前渡ハ會吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費
二　訴訟費用

第四十三條　前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　歳入ノ誤納又ハ過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂又ハ過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂及概算拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戾入スヘシ

第四十五條　會ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ之ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ會計員ヨリ之ヲ會長ニ提出スヘシ會長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ民政署長又ハ民政支署長ニ申請シ其ノ承認ヲ受ケ且決算ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第四十六條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ民政署長又ハ民政支署長ノ承認ヲ受ケ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産又ハ積立金ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　繼續費ハ每年度ノ支出殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第四十八條　會稅、使用料、手數料、過怠金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ之ヲ收入スヘシ

第四十九條　財産ノ賣却、貸與、工事ノ請負、物件ノ賣買貸與及勞力ノ供給ハ臨時急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外之ヲ競爭入札ニ付スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ指名競爭入札ニ

付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第五十條　會ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ檢査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ會長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ協議會ニ於テ互選シタル協議會員二名以上ノ立會ヲ要ス

第六章　會組合

第五十一條　民政署長又ハ民政支署長ハ關東州會制第十七條ノ規定ニ依リ會組合ヲ設置セムトスルトキハ關係會ノ意見ヲ徵シ關東長官ノ認可ヲ受ケ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル會、組合ノ共同事務、組合事務所ノ位置、組合協議會ヲ置クトキハ其ノ組織及組合協議會員ノ選任、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ニ付會組合規約ヲ設クヘシ

第五十二條　民政署長又ハ民政支署長ハ會組合規約ヲ變更セムトスルトキ又ハ會組合ヲ解カムトスルトキハ關係會ノ意見ヲ徵シ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財産ノ處分ヲ要スルトキハ其ノ處分ニ付亦同シ

第五十三條　會組合ニ組合協議會ヲ置カサルトキハ組合協議會ニ諮問スヘキ事項ハ關係會長ノ協議ニ依ル

第七章　會ノ監督

第五十四條　會ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキ又ハ豫算中不適當ト認ムル費用アルトキハ民政署長又ハ民政支署長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加ヘ又ハ削減スルコトヲ得

第五十五條　民政署長又ハ民政支署長ハ會長其ノ他ノ會吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金又ハ解職トス但シ會長ノ解職ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

民政署長又ハ民政支署長ハ會吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間會ノ公職ニ選任セラルルコトヲ得ス

第五十六條　會ハ左ノ各號ノ事項ニ付テハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　會規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
二　特別稅ヲ新設シ增額シ又ハ變更スルコト

第五十七條　會ハ左ノ各號ノ事項ニ付テハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受クヘシ

一　不動産ノ取得、管理及處分ニ關スルコト
二　基本財産及積立金ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
三　寄附又ハ補助ヲ爲スコト
四　夫役又ハ現品ノ賦課徵收ニ關スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
五　第二十四條ノ規定ニ依リ數人又ハ會ノ一部ニ費用ヲ負擔セシメ及不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ會ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト
六　年度ヲ超ユル會稅延納ニ關スルコト
七　會稅ヲ減免スルコト
八　特別會計ヲ設クルコト
九　繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト
十　豫備費支出ニ關スルコト
十一　退職給與金及死亡給與金支給ニ關スルコト

第八章　雜則

第五十八條　會ノ公告ハ會ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ其ノ式トス

附　則

本令ハ關東州會制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表略ス）

●關東州會制ノ施行ニ關スル件

（大正十四年七月三十日　關東廳令第四十四號）

關東州會制ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　關東州會制施行ノ際現ニ會長、副會長、街屯長、書記及技補ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ交付セラレサルトキハ關東州會制施行規則ニ依リ大正十四年九月一日附同額ノ俸給又ハ報酬ヲ以テ其ノ職ニ任命又ハ選任セラレタルモノト看做ス

第二條　關東州會制施行前ニ於テ定メタル會歲入歲出豫算ニ關シテハ之ヲ關東州會制及同施行規則ニ依リ定メタルモノト看做ス

會歲入歲出豫算ニ關シ關東州會制施行前爲シタル手續ハ之ヲ關東州會制施行規則ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三條　關東州會制施行前ニ於テ賦課シタル會賦課金及夫役現品並之カ徵收ニ關シ爲シタル手續處分其ノ他ノ行爲ハ之ヲ關東州會制施行規則ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第四條　關東州會制施行前ニ於ケル會ノ事務、會ノ權利義務、會ノ財産營造物其ノ他會ニ屬スル事項ハ關東州會制ニ依リ設置シタル會ニ於テ會制施行ト同時ニ總テ之ヲ承繼ス

第五條　關東州會制施行前會行政ニ關シ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ關東州會制又ハ同施行規則ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六條　關東州會制施行前設置シタル會組合ハ關東州會制及同施行規則ニ依リ設置シタルモノト看做ス

前各條ノ規定ハ會組合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ關東州會制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州市制

（大正十三年五月二十四日　勅令第百三十號）

朕關東州市制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

關東州市制

第一條　市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務及法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二條　市ノ廢置、名稱及區域ニ關シテハ關東長官之ヲ定ム但シ市ノ廢止又ハ市ノ名稱若ハ境界ノ變更ノ場合ニ於テハ其ノ市ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第三條　市內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本令ニ依リ市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第四條　市住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スルモノハ市ノ選擧ニ參與シ市ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者
二　獨立ノ生計ヲ營ム者
三　二年以來其ノ市住民タル者
四　二年以來其ノ市ノ直接市稅ヲ納ムル者

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

第五條　前條第一項ニ規定スル市住民其ノ要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ同項ノ權利義務ヲ失フ

前條第一項ニ規定スル市住民市稅滯納處分ヲ受ケタルトキハ其ノ處分中同項ノ權利義務ヲ停止ス家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第六條　市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第七條　市會ハ關東長官ノ定ムル所ニ依リ選擧シタル市會議員及選任シタル市會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

選任ニ依ル市會議員ノ定數ハ選擧ニ依ル市會議員ノ定數ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

市會議員ノ定數ハ通シテ十六人以上四十四人以下ノ範圍內ニ於テ選擧ニ依ル者及選任ニ依ル者ニ付關東長官之ヲ定ム

市會議員ハ名譽職トス

市會議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八條　第四條第一項ニ規定スル市住民ハ市會議員ノ選擧權ヲ有ス但シ第五條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　選擧權ヲ有スル者ハ被選擧權ヲ有ス但シ左ノ各號ニ該當スル者及之ニ該當セサルニ至リタル後一月ヲ經過セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　所屬民政署及關東廳ノ官吏及有給職員
二　其ノ市ノ有給吏員
三　檢察官及警察官吏
四　神職、僧侶其ノ他諸宗敎師
五　小學校及公學堂職員

市長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選擧權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝淸算人ヲ謂フ

第十條　市會ハ市ニ關スル事項及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

市會ノ議決スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一　市規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
二　歲入歲出豫算ヲ定ムルコト
三　決算報告ヲ認定スルコト
四　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、市稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スルコト
五　不動産ノ取得、管理及處分ニ關スルコト
六　基本財産及積立金等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
七　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト
八　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
九　吏員ノ身元保證ニ關スルコト
十　市ニ係ル訴訟及和解ニ關スルコト

第十一條　市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ市ノ公益ニ關スル事項ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條　市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選擧スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第十三條　市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本令及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ三日以內出席ヲ停止シ又ハ五圓以下ノ過怠金ヲ課スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長
二　助役
三　名譽職參事會員

名譽職參事會員ハ六人トシ市會ニ於テ市會議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選擧ノ日迄在任ス

市參事會ハ市長ヲ以テ議長トシ市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第十五條　市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　市會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト
二　市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フルコト
三　其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事項

第十一條第三項乃至第五項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第十六條　市ニ市長、助役一人及收入役一人ヲ置ク

市長及助役ハ名譽職トス但シ市ハ市規則ヲ以テ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

收入役ハ有給吏員トス

市長、助役及收入役ノ任期ハ四年トス

第十七條　市長ハ市會ノ選擧推薦シタル市長候補者三人中ニ就キ關東長官之ヲ選任ス

助役及收入役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

助役ハ市長ノ事務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

第十九條　前數條ニ定ムル者ヲ除クノ外市ニ必要ナル吏員ヲ置クコトヲ得

第二十條　市長ハ吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及二十五圓以下ノ過怠金トス

第二十一條　市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ違反スト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキ亦前項ニ同シ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ第一項ノ選擧ヲ取消スコトヲ得

第二十二條　名譽職市長、名譽職助役、市會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市長及名譽職助役ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

有給吏員ニハ市規則ノ定ムル所ニ依リ退職給與金及死亡給與金ヲ給スルコトヲ得

第二十三條　收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ積立金ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條　市ハ其ノ公益上必要アルトキハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　市ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第二十七條　市稅、使用料及手數料ニ關スル事項ニ付テハ法令ニ規定アルモノヲ除クノ外市規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十八條　市稅其ノ他市ノ收入ニ關スル徵收金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ關東廳ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十九條　市ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第三十條　市ハ毎會計年度歲入歲出豫算ヲ調製スヘシ

第三十一條　市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

市ノ支拂金ノ時效ニ付テハ政府

ノ支拂金ノ例ニ依ル

第三十二條　市ハ第一次ニ於テ民政署長、第二次ニ於テ關東長官之ヲ監督ス

監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ監督ニ關シテ發シタル命令又ハ爲シタル處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第三十三條　關東長官ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ三月以內ニ議員ヲ選擧及選任スヘシ

第三十四條　市ニ於テ法律勅令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキ又ハ豫算中不適當ト認ムル費用アルトキハ民政署長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加ヘ又ハ削減スルコトヲ得

市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事項ヲ執行セサルトキハ民政署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

第三十五條　市長、助役又ハ收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ吏員中ヨリ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ之ヲ辨償セシムヘシ

第三十六條　民政署長ハ市長、助役、收入役其ノ他ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、五十圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長ニ對スル懲戒及其ノ他ノ吏員ニ對スル解職ニ付テハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

民政署長ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命スルコトヲ得其ノ停職期間手當又ハ給料ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第三十七條　市ハ左ノ各號ノ事項ニ付テハ關東長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　市規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
二　市稅ノ稅目及課率ヲ定メ又ハ改廢スルコト
三　市債ヲ起シ並起債ノ方法、利率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スルコト

第三十八條　市ハ左ノ各號ノ事項ニ付テハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

一　不動產ノ取得、管理及處分ニ關スルコト
二　基本財產及積立金等ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
三　使用料若ハ手數料ヲ徵シ又ハ其ノ額若ハ率ヲ變更スルコト
四　寄附又ハ補助ヲ爲スコト
五　第二十九條第二項ノ借入金ヲ爲シ並借入ノ方法及利率ヲ定メ又ハ變更スルコト

第三十九條　監督官廳ノ認可ヲ要スル事項ニ付テハ監督官廳ハ認可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第四十條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

本令施行ノ際必要ナル事項ハ關東長官之ヲ定ム

本令ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

關東州市制ハ大正十三年八月一日ヨリ施行

（大正十三年關東廳令第三十四號）

●關東州市制施行規則

大正十三年七月一日
關東廳令第三十五號
改正　大正十三年第五九號
昭和二年第四號

關東州市制施行規則左ノ通定ム

關東州市制施行規則

第一章　總則

第一條　大連及旅順ヲ以テ市トス市ハ從來ノ區域ニ依ル

市ノ廢止又ハ市ノ名稱若ハ境界變更ハ關係アル市又ハ會ノ意見ヲ徵シ關東長官之ヲ定ム

市ノ廢止又ハ境界變更ノ場合ニ於テ處分スヘキ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ關係アル市又ハ會ノ意見ヲ徵シ關東長官ノ認可ヲ得テ民政署長之ヲ定ム

市內ノ町名及其ノ區域ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市會ノ意見ヲ徵シ關東長官ノ認可ヲ得テ民政署長之ヲ定ム

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　市制第四條第一項ニ規定スル市住民ノ權利義務ニ關スル要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市ノ廢置又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第二章　市會

第一款　選擧

第三條　市會議員ノ定數ハ大連市ニ在リテハ四十人、旅順市ニ在リテハ十六人トス

議員ノ定數中大連市ニ在リテハ三十三人、旅順市ニ在リテハ十四人ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧シ其ノ他ハ其ノ市住民中學識名望アル者ニ就キ民政署長之ヲ選任ス

第四條　市會議員ニ闕員ヲ生シタル場合ニ於テ其ノ闕員カ前條第二項ノ區分每ニ其ノ定數ノ三分ノ一以上ト爲リタルトキ又ハ民政署長、市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ補闕選擧又ハ選任ヲ行フヘシ但シ第十二條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ市長ハ直ニ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第二項但書ノ規定ヲ準用ス

補闕選擧又ハ選任セラレタル議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第五條　市長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人ノ資格ヲ記載セル選擧人名簿ヲ調製スヘシ

市長ハ選擧期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間每日午前九時ヨリ午後四時迄市役所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽期間滿了後十日以內ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ其ノ決定ノ日ヨリ三日以內ニ市長ヨリモ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ不服申立アリタルトキハ民政署長ハ遲滯ナク之ヲ裁定スヘシ

第二項ノ決定確定シ又ハ前項ノ裁定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ハ選擧期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後第五項ノ裁定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選擧期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

選擧分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃每ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ裁定書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第二項ノ決定確定シ又ハ第五項ノ裁定アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ民政署長ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失セタルトキ亦同シ

選擧人名簿調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヰ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

第六條　市長ハ選擧期日前少クトモ七日間選擧會場、投票ノ日時及選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選擧分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

選擧分會ノ選擧ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選擧ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選擧ヲ終ラサル選擧會又ハ選擧分會ノミニ關シ更ニ選擧會場及投票ノ日時ヲ告示シ選擧ヲ行フヘシ

第七條　市長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選擧分會ハ市長ノ指名シタル吏員選擧分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長ハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ但シ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選擧立會人ヲ設クヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第八條　選擧人ニ非サル者ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選擧會場ニ於テ演說、討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選擧長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選擧會場外ニ退出セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ分會長ハ會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ最後ニ至ラストモ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第九條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間內ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ市制町村制施行令別表ニ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

點字ニ依リ投票ヲ爲サムトスル選擧人ハ選擧長又ハ選擧分會長ニ對シ其ノ旨ヲ申立テ點字投票用紙ノ交付ヲ受クヘシ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第十條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
二　現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
七　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第十一條　投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

選擧分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第十二條　市會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ選擧スヘキ議員數ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第十二條ノ二　當選者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第十三條　選擧長又ハ分會長ハ選擧錄ヲ調製シテ選擧又ハ投票ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二人以上ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ選擧錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選擧錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第十四條　當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

市制第九條第一項ニ揭ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第十五條　當選者左ノ各號ニ揭クル事由ノ一ニ該當スルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　當選ヲ辭シタルトキ
二　第十二條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
三　死亡者ナルトキ
四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無效ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選擧又ハ補闕選擧ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第十二條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第十二條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ市長ハ直ニ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ但シ第十二條ノ二ノ規定ニ該當スル者ハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

第十六條　選擧ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ民政署長ニ報告スヘシ

第十四條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ又ハ同條第四項ノ申立アリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所、氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ民政署長ニ報告スヘシ

第十七條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

第十八條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ、當選ニ關シテハ第十六條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以內ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ其ノ決定ノ日ヨリ七

日以內ニ市長ヨリモ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

民政署長前二項ノ不服申立ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ裁定スヘシ

市會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ其ノ裁定アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第十九條　當選無效ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第十二條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第二項但書ノ規定ヲ準用ス

選擧無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第十二條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第二十條　第十五條若ハ第十九條ノ選擧、增員又ハ補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十一條　市會議員ニ當選シタル者其ノ當選確定後被選擧權ナキコトヲ發見シタルトキ又ハ被選擧權ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ之ヲ有セサル場合ヲ除クノ外市會之ヲ決定ス

一　禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

二　破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

市長ハ市會議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ付議セラレタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前二項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケル日ヨリ七日以內ニ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項及第二項ノ決定ニ付テハ其ノ決定ノ日ヨリ七日以內ニ市長ヨリモ民政署長ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

民政署長前二項ノ不服申立ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ裁定スヘシ

第十八條第五項ノ規定ハ第一項乃至第四項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　異議及不服ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

不服申立書ハ異議ノ決定ヲ爲シタル市會ヲ經由スヘシ

異議及不服申立書ニハ其ノ異議又ハ不服ノ要點、理由、要求及申立人ノ職業及住所ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

不服申立書ニハ證據書類及市會ノ決定書ヲ添附スヘシ

第二十三條　市會ハ不服申立書ヲ受取リタル日ヨリ十日以內ニ辯明書ヲ添ヘ民政署長ニ提出スヘシ

第二十四條　異議ノ決定及不服ノ裁定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ但シ不服ノ裁定書ハ市會ヲ經由スルコトヲ要ス

第二十五條　市會ノ決定ハ市長、民政署長ノ裁定ハ民政署長直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十六條　市會議員ノ選擧ニ付テハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以內ノ罰金若ハ科料ノ限度ニ於テ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款　職務權限

第二十七條　市會ハ市長之ヲ招集、開會及閉會ス

議員定數ノ三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ市會ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得

市會ノ招集及會議ノ事項ハ其ノ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ市會議員ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前ニ告知ヲ爲シタル事項ニ付亦同シ

第二十八條　市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十一條ノ除斥ノ爲又ハ同一ノ事項ニ付招集再回ニ及ヒ若ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條　市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十一條　議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十二條　市會ノ會議ハ之ヲ公開ス但シ市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ若ハ議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第三十三條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ及議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第三十四條ノ例ニ依ル

第三十四條　議長故障アルトキハ副議長、議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス但シ年齡同シキ年長者二名以上アルトキハ抽籤シテ其ノ代理者ヲ定ム

前項ノ規定ハ議長、副議長共ニ其ノ職ニ在ラサル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ市制第十一條第二項市會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十六條　法令ニ依リ市會ニ於テ行フ選擧ニ在リテハ各選擧每ニ無記名投票ヲ爲シ其ノ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第九條及第十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選擧ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第三十七條　議員ハ選擧人ノ指示又ハ委囑ヲ受クルコトヲ得ス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身

上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十八條　會議中法令又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ其ノ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄其ノ發言ヲ禁止シ又ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ議長ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十九條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサル場合ニ於テハ之ヲ退場セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ議長ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十條　市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第四十一條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

前項ノ會議錄ニハ議長及出席議員ノ中二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第三章　市參事會

第一款　選擧

第四十二條　名譽職參事會員ノ選擧ニ關シテハ第九條、第十條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員ニ闕員ヲ生シタルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

第二款　職務權限

第四十三條　市參事會ハ市長之ヲ招集、開會及閉會ス

名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ市參事會ヲ招集スルコトヲ要ス

第四十四條　市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十五條　市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲又ハ同一ノ事項ニ付招集再回ニ及ヒ若ハ招集ニ應スルモ出席員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告スルモ名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及名譽職參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第四十六條　第二十七條第三項、第二十九條、第三十條、第三十三條、第三十六條乃至第三十八條、第四十條竝第四十一條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章　市吏員

第一款　選擧任免及職務權限

第四十七條　市長ハ其ノ任期中退職セムトスルトキハ退職ノ事由ヲ詳具シ關東長官ニ願出ツヘシ

助役及收入役ハ關東長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第四十八條　市長、助役及收入役ハ市制第九條第一項ニ揭クル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲シ及同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員タルコトヲ得ス

市長、助役及收入役ハ關東長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事シ又ハ會社ノ取締役、監查役若ハ之ニ準スヘキ者、淸算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第四十九條　市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市住民中ヨリ之ヲ選擧ス

區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第五十條　市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員又ハ市住民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ市規則ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第五十一條　前二條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第五十二條　市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五十三條　市制第四條第一項ニ規定スル市住民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員其ノ權利義務ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ同第五條第三項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ失フ市長、助役又ハ收入役ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ市制第五條第二項若ハ第三項ニ該當スルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第五十四條　市ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ關東長官ノ認可ヲ得一年以上四年以下其ノ者ノ選擧權、被選擧權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ增課スルコトヲ得

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二　業務ノ爲常ニ市內ニ居ルコトヲ得サル者

三　年齡六十年以上ノ者

四　官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五　四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六　其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

第五十五條　市長ハ左ノ事務ヲ擔任ス

一　市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニ關スル議案ノ作成及其ノ議決ノ執行

二　財產及營造物ノ管理竝特ニ其ノ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ノ監督

三　收入支出ニ關スル命令及會計事務ノ監督

四　證書及公文書ノ保管

五　使用料、手數料、市稅及夫役、現品ノ賦課徵收

六　其ノ他法令ノ規定ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第五十六條　市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付スヘシ

市長議案ヲ市會ニ提出スルトキハ前項ノ市參事會ノ意見ヲ之ニ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ議案ヲ市參事會ノ審査ニ付シタル場合ニ於テ市參事會意見ヲ述ヘサルトキハ市長ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ議案ヲ市會ニ提出スルコトヲ得

第五十七條　市制第二十一條第一項及第二項ノ場合ニ於テ市長ハ其ノ意見ニ依リ再議ニ付シタルトキ市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決ヲ改メサルトキハ民政署長ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第五十八條　市會成立セサルトキ、第二十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事項ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコト

ヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ市長及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セサルトキ又ハ第四十五條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ民政署長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處分スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事項ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第五十九條　市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ

第六十條　市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二款　給料及給與

第六十一條　名譽職市長、名譽職助役、市會議員其ノ他ノ名譽職員ノ費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法又ハ市長、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第五章　市ノ財務

第一款　市稅及夫役現品

第六十二條　市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　戶別割

二　地方稅附加稅

三　特別稅

戶別割ハ市內ニ一戶ヲ構フル者及營業所ヲ有スル法人ニ對シ之ヲ賦課ス但シ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

戶別割ハ納稅義務者ノ所得、資産、生計又ハ營業ノ狀況等ヲ斟酌シ等差ヲ設ケテ之ヲ賦課スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ民政署長ノ認可ヲ得等差ヲ設ケスシテ之ヲ賦課スルコトヲ得

地方稅附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ賦課スヘシ但シ民政署長ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アル場合ニ於テ之ヲ賦課徵收スヘシ

第六十三條　三月以上市內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

市內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖市內ニ於テ土地、家屋、物件ヲ所有シ、使用シ若ハ占有シ市內ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地、家屋、物件、營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

納稅者ノ市外ニ於テ所有、使用、占有スル土地、家屋、物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十四條　神社、寺院、廟宇ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝敎會所、說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國又ハ市、會其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋、物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地、家屋、物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十五條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前各項ノ例ニ依ル

數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一項、第二項、第四項及前項ノ場合ニ於テハ市ハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十六條　夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

直接市稅ヲ準率トセスシテ夫役現品ヲ賦課スルトキハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出シ之ニ當ラシムルコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役及現品ニ付テハ之ヲ適用セス

第六十七條　市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第六十八條　市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得但シ其ノ年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市稅ヲ減免スルコトヲ得

第六十九條　市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ不服アル者ハ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

市長前二項ノ異議ヲ受理シタルトキハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル市參事會ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ民政署長ニ異議ノ申立ヲ爲シ裁定ヲ請フコトヲ得

前各項ノ申立及之ニ對スル決定又ハ裁定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十條　市稅、使用料、手數料其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲ササルトキ又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ但シ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役及現品ニ付テハ之ヲ金額ニ算出シ更ニ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市規則ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第七十一條　市制第二十九條ノ規定ニ依リ市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ其ノ起債ノ金額、起債ノ方法、利率及償還方法ニ付議決ヲ經ヘシ

第二款　歳入歳出豫算及決算

第七十二條　市長ハ市稅其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ毎會計年度歳入歳出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ハ別表第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ

事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

市長ハ豫算ノ認可ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第七十三條　市ハ民政署長ノ認可ヲ得テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別表第一號ノ式ニ準シ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

前條第一項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條　市長ハ其ノ會計年度內ニ限リ市會ノ議決ヲ經民政署長ノ認可ヲ得テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第七十五條　市費ヲ以テ支辨スル事項ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

繼續費ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

繼續費ノ年期及支出方法ハ別表第二號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七十六條　市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十七條　市長ハ市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令アルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他適法ノ方法ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サル場合ハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十八條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ市債、補助金、寄附金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第七十九條　歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱給與金、死亡給與金其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定メアルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費其ノ他ノ物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第八十條　各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス但シ年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ民政署長ノ認可ヲ受ケ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第八十一條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス但シ豫算各項ノ金額ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第八十二條　支出ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八十三條　遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ外必要アルトキハ市ハ民政署長ノ認可ヲ得テ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ現金前渡ハ市吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第八十四條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費

二　訴訟費用

第八十五條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　歳入ノ誤納又ハ過納ト爲リタル金額ノ拂戾ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂又ハ過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戾入スヘシ

第八十七條　市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ之ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審查シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ付スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ民政署長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第八十八條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第八十六條ノ拂戾金、戾入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第八十九條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ市規則ノ規定又ハ市會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第九十條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第九十一條　市稅ハ徵稅令書、夫役又ハ現品ハ賦課令書、使用料手數料過怠金及物件ノ賃貸料ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スヘシ

第九十二條　市ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第九十三條　財産ノ賣却貸與、工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ市規則ニ特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條　市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ檢查シ且毎會計年度少クトモ二回臨時檢查ヲ爲スヘシ

檢查ハ市長之ヲ爲シ臨時檢查ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第九十五條　市ハ現金ノ出納及保管ノ爲市金庫ヲ置クコトヲ得

市金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ市會之ヲ定ム

第九十六條　金庫ハ收入役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市ニ對シテ責任ヲ有ス

第九十七條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ市ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ市金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市ニ納付スヘシ

第九十八條　市ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ民政署長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十九條　收入役ハ定期又ハ臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ檢查スヘシ

附　則

本令ハ關東州市制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表第一號）

大正何年度某市歳入歳出豫算

歳　入

一金

又ハ

歳入豫算高

一金　　經常部豫算高
一金　　臨時部豫算高
合計金

歳出

一金　　歳出豫算高
又ハ
一金　　經常部豫算高
一金　　臨時部豫算高
合計金

歳入歳出差引
殘金（ナシ）

歳計剰餘金ヲ翌年度ニ繰越サスシテ基本財産ニ編入セムトスル場合ニハ左ノ通記載スヘシ
歳計剰餘金全部（内何歩）基本財産ニ編入

大正何年度某市歳入歳出豫算

歳入
經常部

豫算			豫算説明				
科目 款	科目 項	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	増減	附記
一 財産ヨリ生スル收入	一 基本財産收入		一 何々				
	二 積立金收入		一 何々				
二 使用料及手數料	一 使用料		一 何々				
			二 何々				
	二 手數料		一 何々				
			二 何々				
三 補助金	一 關東廳補助金		一 何々				
			一 何々				
四 寄附金	一 何々費指定寄附		一 何々				
	二 費途指定ナキ寄附		一 何々				
五 繰入金	一 何々資金繰入		一 何々				
六 繰越金	一 前年度繰越金		一 何々				
七 財産賣拂代	一 土地賣拂代		一 何々				
	二 物件賣拂代		一 何々				
八 雜收入	一 汚物處分收入		一 何々				
	二 何學校雜入		一 何々				
	三 繰替金戻入		一 何々				
	四 雜入		一 何々				
九 市債	一 市債		一 何々				
一〇 市稅	一 戸別割		一 何々				
	二 何稅附加稅		一 何々				
	三 特別稅何々		一 何々				
一一 夫役及現品	一 夫役		一 何々				
	二 現品		一 何々				
歳入合計							

歳出
經常部

豫算			豫算説明				
科目 款	科目 項	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	増減	附記
一 市役所費	一 報酬		一 何々				
			二 何々				
	二 給料		一 何々				
			二 何々				
	三 雜給		一 何々				
			二 何々				
	四 需用費		一 何々				
			二 何々				
	五 修繕費		一 何々				
二 會議費	一 費用辨償		一 何々				
	二 需用費		一 何々				
三 土木費	一 道路橋梁費		一 何々				
			二 何々				
	二 用惡水路費		一 何々				
四 何學校費	一 給料		一 何々				
			二 何々				
	二 雜給		一 何々				
			二 何々				
	三 需用費		一 何々				
			二 何々				
	四 修繕費		一 何々				
五 衛生費							

	一 給料		一 何々				
	二 雜給		一 何々				
			二 何々				
	三 需用費		一 何々				
			二 何々				
	四 衛生諸費		一 何々				
			二 何々				
			三 何々				
六 給水費	一 給料		一 何々				
			二 何々				
	二 雜給		一 何々				
			二 何々				
	三 需用費		一 何々				
			二 何々				
	四 諸費		一 何々				
			二 何々				
七 公會堂費	一 雜給		一 何々				
	二 需用費		一 何々				
	三 諸費		一 何々				
八 職業紹介所費	一 給料		一 何々				
	二 雜給		一 何々				
			二 何々				
	三 需用費		一 何々				
			二 何々				
	四 諸費		一 何々				
			二 何々				
九 救助費	一 貧困者救助費		一 何々				
	二 行旅病人救助費		一 何々				
	三 罹災救助費		一 何々				
一〇 基本財產造成費	一 基本財產造成		一 何々				
	二 何々基本財產造成		一 何々				

一一 財產費	一 管理費		一 何々				
			二 何々				
一二 諸稅及負擔	一 諸稅		一 何々				
	二 負擔		一 何々				
一三 公金取扱費	一 金庫費		一 何々				
一四 雜支出	一 滯納處分費		一 何々				
	二 過年度支出		一 何々				
	三 繰替金		一 何々				
			二 何々				
一五 豫備費	一 豫備費						
經常部計							

臨時部

豫算			豫算說明				
科目		豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
款	項						
一 何々營繕費	一 建築費		一 何々				
			二 何々				
	二 修繕費		一 何々				
二 傳染病豫防費	一 給料		一 何々				
	二 雜給		一 何々				
	三 需用費		一 何々				
三 積立金	一 何々積立金		一 何々				
四 財產買入費	一 土地買入費		一 何々				
	二 家屋買入費		一 何々				
	三 物件買入費		一 何々				
	四 雜費		一 何々				
五 公債費	一 元金償還		一 何々				
	二 利子						

						一 何々		
	三 諸費					一 何々		
六 訴訟費	一 訴訟費					一 何々		
七 寄附金	一 何々費寄附					一 何々		
八 補助費	一 何々費補助					一 何々		
九 選擧費	一 議員選擧費					一 何々 二 何々		
一〇 雜支出	一 某經濟繰入					一 何々		
一一 某費本年度支出額	一 某費本年度支出額					一 何々 二 何々		
臨時部計								
歳出合計								

大正　年　月　日提出

某市長　氏　名

記載例

一　歳入ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ其ノ性質ニ從ヒ適宜之カ區分ヲ爲シ經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ歳入合計ヲ掲載スヘシ

二　豫算金額ハ總テ圓位ニ止ムルモ妨ケナシ

三　增減欄ノ減ハ朱書ト爲シ又ハ△印ヲ附スヘシ

四　本表例示以外ニ新ニ款ヲ設クル場合ハ民政署長ノ承認ヲ受クヘシ

五　豫算說明本年度豫算額欄中款項ノ金額ハ記載ヲ省略スヘシ

六　豫算說明欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ明ナラシムルヲ旨トシ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スヘシ

七　歳入歳出科目中其ノ項目ヲ數多ニ區分スルヲ便トスル場合ハ本例ノ外適宜ニ設クルモ妨ケナシ

八　學校費ヲ各學校每ニ區分シタル場合ニ於テ各校共通ノ費用アルトキハ別ニ一款ヲ設ケテ之ヲ掲載スヘシ

（別表第二號）

（自大正何年度至同何年度）某市某費繼續年期及支出方法

一金　　某費

内譯

金　大正何年度支出額

金　同　何年度支出額

金　同　何年度支出額

右云々（議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス）

大正　年　月　日提出

某市長　氏　名

某市繼續費某費收支計算表

收入

科目		大正何年度	大正何年度	大正何年度	計	說明		
款	項					種目	金額	附記
一 補助金	一 關東廳補助金					一 關東廳補助金		
二 寄附金	一 寄附金					一 寄附金		
三 市債	一 市債					一 市債		

四 市費繰入金	一 市費繰入金					一 市費繰入金		
五 雜收入	一 雜收入					一 預金利子 二 何々		
六 繰越金	一 前年度繰越金					一 前年度繰越金		
合計								

支出

科目		大正何年度	大正何年度	大正何年度	計	說明		
款	項					種目	金額	附記
一 某費	一 給料					一 何々		
	二 雜給					一 何々		
	三 需用費					一 何々		
	四 何々					一 何々		
合計								

記載例

一　繼續費ニシテ特別會計ヲ設ケス又ハ特定ノ收入ナキ場合ニ於テハ「繼續費某費支出計算表」トシ收入ノ部ハ之ヲ設クルヲ要セス

●關東州市制ノ施行ニ關スル件

（大正十三年七月一日　關東廳令第三十六號）

關東州市制ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　關東州市制施行ノ際大連及旅順市規則ニ依リ選任又ハ任命セラレ現ニ市長及助役ノ職ニ在ル者ハ市制ニ依リ選擧及選任セラレ新ニ組織シタル市會ニ於テ市長ヲ選擧推薦シ若ハ助役ヲ定メ其ノ選任又ハ就任アル迄在任ス

第二條　關東州市制施行ノ際大連及旅順市規則ニ依リ選擧及選任セラレ現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ハ市制ニ依リ市會議員ニ選擧及選任セラレ新ニ市會ヲ組織スル迄在任ス

關東州市制第十二條第一項及第十四條第二項ニ關スル事項ニ付テハ市制ニ依リ新ニ市會ヲ組織スル迄從前ノ例ニ依ル

第三條　大連及旅順市規則ニ依リ設置シタル市ノ事務、市ノ權利義務、市ノ財産營造物及市ノ歳入歳出豫算其ノ他市ニ屬スル事項ハ關東州市制ニ依リ新ニ設置シタル市ニ於テ市制施行ト同時ニ總テ之ヲ承繼ス

第四條　關東州市制施行前大連及旅順市規則ニ依リ規定シタル市住民ノ權利義務及市ノ事務ニ關スル市規程中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外關東州市制ニ依リ市規則ヲ以テ規定スヘキ事項ニ關スル規定ハ市規則ト同一ノ效力アルモノト看做ス

第五條　關東州市制施行前大連及旅順市規則ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ市制又ハ市制施行規則ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六條　關東州市制施行前二年以來其ノ市內ニ住所ヲ有シ現ニ直接市稅ヲ納ムル者ハ市制第四條第一項第四號ニ規定スル納稅ノ年限ニ達セサルモ之ヲ二年以來直接市稅ヲ納ムル者ト看做ス

附　則

本令ハ關東州市制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八章　吏員　服務　懲戒

●府縣吏員服務紀律

（明治三十五年二月十四日　內務省令第三號）

府縣郡吏員服務紀律左ノ通定ム

府縣【郡】吏員服務紀律

第一條　府縣【郡】吏員ハ法令ニ從ヒ忠實ニ其ノ職務ヲ盡スヘシ

府縣【郡】吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守スヘシ

第二條　府縣【郡】吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條　府縣【郡】吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ但裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ祕密ニ付訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第四條　府縣【郡】吏員ハ職務ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ヲ除ク外指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條　府縣【郡】吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

府縣【郡】吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル府縣【郡】吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスルモノノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一　府縣【郡】ノ爲ニ工事又ハ物件調達ノ請負ヲ爲ス者

二　府縣【郡】ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　府縣【郡】ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　府縣【郡】ト土地物件ノ賣買贈與貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他府縣【郡】ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ントスル者

第七條　有給ノ府縣【郡】吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第八條　本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事、【郡吏員ニ付テハ郡長】ヲ謂フ

第九條　【郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス】

●市町村吏員服務紀律

（明治四十四年九月二十二日内務省令第十六號　改正　大正一五年第二五號）

市町村吏員服務紀律左ノ通定ム

市町村吏員服務紀律

第一條　市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條　市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受クル者ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ付テハ國府縣其ノ他公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第三條ノ二　有給市參與、市町村助役、市町村收入役及市町村副收入役竝ニ市制第六條ノ市ノ區長及市制第八十二條第三項ノ市ノ區長ハ市町村長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ズ

第四條　市町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ饗讌ヲ受クルコトヲ得ス

一　市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者

二　市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　市町村ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他市町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村長助役ノ除服及旅行認可方

（大正元年十一月十六日内務省訓令第十五號）

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

市町村長忌服ニ丁ルトキハ直近監督官廳ニ於テ除服ヲ達シ旅行ヲ爲サムトスルトキハ法令ノ規定又ハ監督官廳ノ命ニ依ル場合ヲ除クノ外取締上必要ト認ムル範圍ニ於テ豫メ監督官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ規定ヲ設クヘシ助役ノ除服及旅行ニ關シ市町村長故障アル場合ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

●島嶼町村制ニ依ル町村吏員ノ服務紀律

（明治四十二年三月三十日内務省令第九號　改正　大正九年第一七號）

【沖繩縣區制第百三十四條】、島嶼町村制第九十八條ニ依ル【區】町村吏員ノ服務紀律左ノ通定ム

【沖繩縣區制第百三十四條】、島嶼町村制第九十八條ニ依ル【區】町村吏員ノ服務紀律ハ府縣【郡】吏員服務紀律ノ規定ヲ準用ス

●島嶼町村制ニ依ル町村吏員懲戒方

（明治四十一年十二月十四日内務省令第二十號　改正　大正元年第九號、九年第一八號、一五年第二九號）

島嶼町村制第九十八條ニ依ル町村吏員ノ懲戒ニ關スル件左ノ通定ム

島嶼町村制施行地ニ於ケル町村吏員ノ懲戒處分ハ府縣知事支廳長之ヲ行フ府縣知事ノ懲戒處分及支廳長ノ區長、委員及書記ニ對スル懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ支廳長ノ町村長及收入役ニ對スル懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市區町村ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任用セラルヽコトヲ得ス

●島嶼町村制ニ依ル町村吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件

（明治四十二年三月三十日内務省令第十號　改正　大正九年第一八號、一五年第三〇號）

島嶼町村制第九十八條ニ依ル町村吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲町村ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ支廳長ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ決定シ期限ヲ定メテ其ノ賠償ヲ命スヘシ

第二條　支廳長ニ於テ賠償ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ假ニ財產ヲ差押フルコトヲ得

第三條　賠償金ノ徴收ニ關シテハ島嶼町村制第七十三條第二項第三項ノ例ニ依ル

第四條　町村收入役其ノ他出納ヲ掌ル吏員ニ對シ身元保證ヲ徴スルノ必要アリト認ムルトキハ町村ニ於テハ町村規則ヲ以テ其ノ種類程度其ノ他身元保證ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

●府吏員服務紀律

（大正三年一月二十五日朝鮮總督府令第五號）

府吏員服務紀律左ノ通定ム

府吏員服務紀律

第一條　府吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　府吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ損シ品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

府吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條　府吏員ハ公務ニ關スル機密又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退キタル後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ付訊問ヲ受クルトキハ府尹ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受クル者ニ付テモ亦同シ

第四條　府吏員ハ府尹ノ許可ヲ受クルニ非サレハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條　府吏員ハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

府吏員ハ府尹ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　左ニ掲クル者ト關係ノ職務ニ在ル府吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ饗讌ヲ受クルコトヲ得ス

一　府ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給等ノ契約ヲ爲ス者

二　府ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　府ヨリ補助金ヲ受クル起業者

四　府ト土地物件ノ賣買、贈與、貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　府ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

第七條　有給ノ府吏員ハ府尹ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

附　則

本令ハ府制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件

（大正三年一月二十五日朝鮮總督府令第四號）

府吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　府出納吏其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府尹ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ亡失又ハ毀損カ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ財產ヲ他人ノ使用ニ供シタル場合ニ生シ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ府尹ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

府出納吏府制施行規則第二十四條ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ府尹ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ

第二條　府吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ過失ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府尹ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第三條　前二條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ道【長官】ニ異議ノ申立ヲ爲シ其ノ決定ニ不服アルトキハ朝鮮總督ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得府尹ニ於テ道【長官】ノ決定ニ不服アルトキ亦同シ

異議ノ申立ハ處分又ハ決定アリタル日ヨリ十四日内ニ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四條　府尹ニ於テ賠償ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ假ニ財產ヲ差押フルコトヲ得

第五條　賠償金ノ徴收及滯納處分ニ關シテハ府稅ノ例ニ依ル

第六條　府吏員ニ對シ身元保證ヲ徴スルノ必要アリト認メタルトキハ府尹ハ道【長官】ノ許可ヲ受ケ其ノ種類程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ府制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●面長及面吏員服務規律

（大正六年七月十一日朝鮮總督府令第三十九號）

面長及面吏員服務規律左ノ通定ム

面長及面吏員服務規律

第一條　面長及面吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　面長及面吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重ムシ品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

面長及面吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條　面長及面吏員ハ公務ニ關スル機密又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退キタル後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ機密ニ付訊問ヲ受クルトキハ郡守又ハ島司ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受クル者ニ付テモ亦同シ

第四條　面長及面吏員ハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

面長及面吏員ハ郡守又ハ島司ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　面長ハ郡守又ハ島司、面書記ハ面長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第六條　面長ハ左ニ掲クル者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ饗讌ヲ受クルコトヲ得ス其ノ者ト關係ノ職務ニ在ル面吏員亦同シ

一　面ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給等ノ契約ヲ爲ス者

二　面ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　面ヨリ補助金ヲ受クル起業者

四　面ト土地物件ノ賣買、贈與、貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　面ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

附　則

本令ハ面制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●州有給吏員規則

（大正九年十一月二十七日臺灣總督府令第百七十二號　改正　大正一一年第一四八號）

州有給吏員規則左ノ通相定ム

州有給吏員規則

第一條　州ニ左ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

書記

檢稅吏

產業吏員

土木吏員

衞生吏員

前項ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　書記ハ庶務ニ從事ス

檢稅吏ハ州稅ニ關スル事務ニ從事ス

產業吏員ハ產業ノ指導獎勵ニ關スル事務又ハ產業ニ關スル技術ニ從事ス

土木吏員ハ土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事ス

衞生吏員ハ衞生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事ス

第三條　削除

第四條　有給吏員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官任用令第五條及第六條ニ依リ奏任文官又ハ判任文官任用ノ資格ヲ有スル者

二　稅務吏又ハ森林主事試驗ノ合格證書ヲ有スル者

第五條　特殊ノ技能ヲ要スル技術吏員ハ州吏員詮衡委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ州吏員詮衡委員ノ詮衡ヲ經テ有給吏員ニ任用スルコトヲ得

一　州又ハ其ノ他ノ官衙公署ニ於テ滿二年以上判任待遇職員、雇員若ハ吏員ノ職ニ在リ又ハ在リタル者

二　陸軍准士官又ハ下士ニシテ文官適任技備證明書ヲ有スル者

第七條　州知事ハ有給吏員ヲ郡ニ配置スルコトヲ得

前項ニ依リ郡ニ配置セラレタル有給吏員ハ郡守ノ指揮監督ヲ受ク

第八條　州吏員詮衡委員ハ州ノ官吏吏員中ヨリ州知事之ヲ命ス

第九條　州知事必要アリト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ第一條ノ規定以外ニ有給吏員ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●州有給吏員定員

（大正十一年八月十五日臺灣總督府令第百四十九號　改正　大正一三年第三九號、第四七號）

大正十年府令第一號州有給吏員ノ定員左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

州市街庄吏員俸給支給規則別表第二號ニ依ル者

	書記	檢稅吏	產業吏員	土木吏員	衞生吏員
臺北州	一六	一三	二	二	二
新竹州	一四	四	二	二	二
臺中州	一八	五	二	二	二
臺南州	一六	五	二	二	二
高雄州	一五	五	二	二	二

●臺灣廳地方費吏員規則

（大正十五年六月二十五日臺灣總督府令第五十號）

臺灣廳地方費吏員規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費吏員規則

臺灣廳地方費吏員ニ關シテハ大正九年府令第百七十二號州有給吏員規則ヲ準用ス但シ同規則中州知事トアルハ廳長、州ノ官吏吏員トアルハ廳ノ官吏トス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣廳地方費吏員服務規律

（大正十五年六月二十五日臺灣總督府令第四十九號）

臺灣廳地方費吏員服務規律左ノ通相定ム

臺灣廳地方費吏員服務規律

臺灣廳地方費吏員服務ニ關シテハ大正九年府令第百九十一號州市街庄吏員服務規律ヲ準用ス但シ同令中州知事トアルハ廳長トス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣廳地方費吏員懲戒規程

（大正十五年六月二十五日臺灣總督府令第五十一號）

臺灣廳地方費吏員懲戒規程左ノ通相定ム

臺灣廳地方費吏員懲戒規程

臺灣廳地方費吏員懲戒ニ關シテハ大正十年府令第二十八號州市街庄吏員懲戒規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●廳地方費有給吏員ノ定員

（大正十五年六月二十五日臺灣總督府令第五十二號）

廳地方費有給吏員ノ定員左ノ通相定ム

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

廳地方費吏員俸給支給規則ニ依リ州市街庄吏員俸給支給規則別表第二號ヲ準用スル者

	書記	檢稅吏	產業吏員	土木吏員	衞生吏員
臺東廳	二	一	一	一	一
花蓮港廳	二	二	一	一	一
澎湖廳	二	一	一	一	一

●州市街庄吏員服務規律

（大正九年十二月二十五日臺灣總督府令第百九十一號）

州市街庄吏員服務規律左ノ通相定ム

州市街庄吏員服務規律

第一條　州市街庄吏員ハ法令ニ從ヒ忠順奉公、勤勉努力、公平無私ニ其ノ職務ヲ盡スヘシ

州市街庄吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守スヘシ

第二條　州市街庄吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス謹愼懇切ヲ旨トシ苟モ職務ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條　州市街庄吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退キタル後ニ於テモ亦同シ但シ裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ機密ニ付訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ受ケタル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　州市街庄吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條　州市街庄吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

州市街庄吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　左ニ揭クル者ト直接關係ノ職務ニ在ル州市街庄吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一　州市街庄ノ爲ニ工事又ハ物件調達ノ請負ヲ爲ス者

二　州市街庄ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　州市街庄ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　州市街庄ト土地物件ノ賣買、贈與、貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他州市街庄ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

第七條　有給ノ州市街庄吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第八條　凡ソ一部ノ長タル者ハ所屬吏員ヲ監督シ其ノ過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域內ニ在ラサル者ハ之ヲ調告スルコトヲ務ムヘシ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘテ指揮監督者ニ稟告スヘシ其ノ情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第九條　本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ州吏員ニ付テハ州知事、市吏員ニ付テハ市尹、街庄吏員ニ付テハ廳長又ハ郡守ヲ謂フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●州市街庄吏員懲戒規程

（大正十年三月十六日臺灣總督府令第二十八號）

州市街庄吏員懲戒規程左ノ通相定ム

州市街庄吏員懲戒規程

第一條　州市街庄吏員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二　職務ノ內外ヲ問ハス吏員タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二條　街庄助役竝市及街庄會計役ノ解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ之ヲ行フ

第三條　懲戒審査會ハ州及廳ニ置キ州ニ在リテハ州知事ノ命シタル高等官六名廳ニ在リテハ廳長ノ命シタル高等官及判任官四名ヲ以テ會員トシ州知事、廳長ヲ以テ會長トス

州知事及廳長故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

第四條　審査會ハ會長及會員ヲ併セ定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ審査ヲ爲スコトヲ得ス

會員事故アリテ前項定數ニ滿タサルトキハ州知事又ハ廳長ハ所屬高等官又ハ判任官中ヨリ臨時會員ヲ命スルコトヲ得

第五條　審査會ノ審査ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第六條　會長及會員ハ自己又ハ親戚ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第七條　審査會ニ書記一名又ハ二名ヲ置キ會長之ヲ命ス

第八條　書記ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　州知事、廳長及市尹ハ市制第八條街庄制第十一條ニ依リ街庄助役又ハ會計役ヲ解職セムトスルトキハ其ノ懲戒ニ付スヘキ所爲アリト認ムヘキ證據書類ヲ添ヘ書面ヲ以テ懲戒審査會ノ審査ヲ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキハ審査會長ハ審査會ヲ招集シ其ノ決議ノ事由ヲ書面ヲ以テ復申スヘシ

第十條　審査會ハ必要アリト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

第十一條　前條ニ依リ召喚ヲ爲シタル吏員ニ對シテハ本職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十二條　前條ノ旅費及懲戒審査會ノ費用ハ州及廳地方費ノ負擔トス

第十三條　懲戒ハ辭令書ヲ以テ之ヲ本人ニ交付スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市街庄吏員賠償責任竝身元保證ニ關スル規程

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百五十一號）

市街庄吏員賠償責任竝身元保證ニ關スル規程左ノ通相定ム

市街庄吏員賠償責任竝身元保證ニ關スル規程

第一條　市街庄吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市街庄ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ善良ノ注意ヲ怠ラサリシトキハ市街庄ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

第二條　會計役若ハ會計役代理者市街庄ノ財務ニ關スル規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ市街庄ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ

第三條　市街庄吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市街庄ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第四條　賠償金ノ徴收ニ關シテハ市制第二十四條街庄制第二十七條ノ例ニ依ル

第五條　市街庄吏員ニ對シ身元保證ヲ徴スルノ必要アリト認メタルトキハ市街庄ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市街庄吏員事務引繼ニ關スル件

（大正十年三月十七日臺灣總督府令第三十號）

市街庄吏員事務引繼ニ關スル件左ノ通相定ム

市街庄吏員事務引繼ニ關スル件

第一條　街庄長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ助役ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ助役ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項ノ場合ニ於テ助役ヲ置カス又ハ助役闕員ナル場合ニ在リテハ第一次監督官廳ノ認可ヲ經テ引繼ヲ受クヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第二條　會計役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ引繼ヲ受クヘキ吏員ヲ定メ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テ引繼ヲ受ケタル吏員ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

第三條　街庄長又ハ會計役死亡シタル場合ニ於テハ前任者ノ事務ノ引繼ハ第一次監督官廳ノ認可ヲ經テ其ノ取扱者ヲ定ムヘシ

第四條　引繼ハ書類、帳簿、財產、現金其ノ他引繼ヲ爲スヘキ物件ノ目錄ヲ調製シ尙現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ又帳簿ニ付テハ引繼當日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ總テ引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第五條　引繼完了シタルトキハ直ニ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者連署ノ上第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第六條　第一條及第二條ノ引繼期間內ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シテ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　市街庄ノ廢置分合ニ依リ新ニ市街庄ヲ置キタル場合ニ於テ前街庄長及會計役ノ擔任スル事務ハ之ヲ新街庄長及會計役ニ引繼クヘシ前各條ノ規定ハ此ノ場合ニ準用ス

市街庄ノ境界變更アリタル場合亦同シ

第八條　本令ニ規定スルモノノ外市街庄吏員事務引繼ニ關シ必要ナル事項ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

第九條　本令ハ市街庄組合及街庄組合吏員ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●町村吏員服務規律

（大正十一年二月七日樺太廳令第三號）

町村吏員服務規律左ノ通定ム

町村吏員服務規律

第一條　町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　町村吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス町村吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條　町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退キタル後ニ於テ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受ケタル者ニ付テ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ掌ル國及公共團體ノ事務ニ付テハ國及公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四條　町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　左ニ揭クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一　町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者

二　町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三　町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　町村ト土地物件ノ賣買、贈與、貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

第六條　町村長、助役及收入役ハ樺太廳支廳長、其ノ他ノ吏員ハ町村長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ擅ニ職務ヲ離レ又ハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●町村吏員ノ懲戒ニ關スル件

（大正十一年七月二十八日樺太廳令第六十三號）

町村吏員ノ懲戒ニ關スル件左ノ通定ム

町村吏員ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二、職務ノ內外ヲ問ハス吏員タルノ威信ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

懲戒ハ辭令書ヲ以テ之ヲ本人ニ交付ス

附　則

本令ハ樺太町村吏員懲戒審査會規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●町村吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル規程

（大正十一年二月七日樺太廳令第四號）

町村吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル規程左ノ通定ム

町村吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル規程

第一條　町村吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

第二條　收入役若ハ收入役代理者又ハ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長樺太町村制第六十五條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ町村ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ

第三條　町村吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第四條　前三條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ樺太廳支廳長ニ異議ノ申立ヲ爲シ其ノ決定ニ不服アルトキハ樺太廳長官ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項異議ノ申立ハ處分又ハ決定アリタル日ヨリ二十一日以內ニ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條　賠償金ノ徴收ニ關シテハ樺太町村制第六十三條ノ例ニ依ル

第六條　町村吏員ニ對シ身元保證ヲ徴スルノ必要アリト認メタルトキハ町村ハ樺太廳支廳長ノ認可ヲ得テ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●町村吏員事務引繼ニ關スル規程

（大正十一年二月七日樺太廳令第五號）

町村吏員事務引繼ニ關スル規程左ノ通定ム

町村吏員事務引繼ニ關スル規程

第一條　町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十五日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ代理者ニ引繼クヘシ代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ書類、帳簿及財產ノ目錄ヲ調製シ處分未濟又ハ未著手若ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第一項ノ期間內ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　助役又ハ區長退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ町村長ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條　收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ代理者ニ引繼クヘシ代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ現金、書類、帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ尙現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ其ノ帳簿ニハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第四條　町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テハ舊町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ新町村ノ町村長、收入役又ハ各其ノ代理者ニ引繼クヘシ前三條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

第五條　前四條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ樺太廳支廳長ハ三十圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得其ノ故ナク引繼ヲ遲延シタルカ爲町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セサル者ニ付亦同シ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會吏員服務紀律

（大正十四年七月三十日關東廳令第四十五號）

會吏員服務紀律左ノ通定ム

會吏員服務紀律

第一條　會吏員ハ法令及指揮監督者ノ命令ニ遵ヒ其ノ職務ニ忠實ナルヘシ

第二條　會吏員ハ職務ノ內外ヲ問ハス懇切公平ヲ旨トシ苟モ職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條　會吏員又ハ會吏員タリシ者ハ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ漏示スルコトヲ得ス但シ裁判所ノ召喚ニ依リ證人、鑑定人又ハ參考人ト爲リタル場合ハ民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第四條　會長ハ民政署長又ハ民政支署長、其ノ他ノ會吏員ハ會長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條　會吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接又ハ間接ニ自己又ハ他人ノ爲ニ金錢物件其ノ他ノ利益ヲ贈與又ハ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

會吏員ハ民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ金錢物件其ノ他ノ利益ノ贈與又ハ供給ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　左ニ揭クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル會吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一　會ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給等ノ契約ヲ爲ス者
二　會ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者
三　會ヨリ補助金ヲ受クル者
四　會ト土地物件ノ賣買、贈與、貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
五　會ヨリ利益ヲ受ケツツアル者又ハ之ヲ受ケムトスル者

第七條　有給會長、有給副會長及會計員ハ民政署長又ハ民政支署長、其ノ他ノ會吏員ハ會長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會吏員事務引繼ニ關スル件

（大正十四年七月三十日關東廳令第四十六號）

會吏員事務引繼ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　會長又ハ會計員更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ會長ニ在リテハ副會長ニ、副會長ナキ會ニ於テハ上席書記ニ、會計員ニ在リテハ會計員代理者ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ副會長、上席書記又ハ會計員代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項ノ期間內ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政署長又ハ民政支署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　會長事務引繼ノ場合ニハ書類、帳簿及財產ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序、方法及意見ヲ記載スヘシ

會計員事務引繼ノ場合ニハ現金、書類、帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第三條　會計員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ引繼ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ民政署長又ハ民政支署長ハ其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘキ吏員ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ指定ヲ受ケタル吏員ハ本令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第四條　事務引繼ヲ爲ストキハ別記書式ニ依リ必要ナル書類三通ヲ作製シテ之ニ引繼者引受者連署シ會竝各當事者ニ於テ其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ニ依リ調製スヘキ書類、帳簿、物件及財產ノ目錄ハ現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ充用シ其ノ旨引繼書ニ記載スヘシ

第五條　事務引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ其ノ期日ヲ定メ會長ハ三日前ニ民政署長又ハ民政支署長ニ報告スヘシ

會吏員ノ事務引繼ニ際シテハ民政署長又ハ民政支署長ハ其ノ所屬官吏ヲシテ之ニ立會ハシメ監督ヲ爲スヘシ但シ會計員ノ事務引繼ノ場合ヲ除クノ外之ヲ省略スルコトヲ得

事務ノ引繼完了シタルトキハ其ノ引繼者引受者連署ノ上引繼書類ノ寫ヲ添附シ直ニ民政署長又ハ民政支署長ニ報告スヘシ

第六條　會ノ廢置分合ニ依リ新ニ會ヲ置キタル場合ニ於テハ前會ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ新會長、會計員又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引繼クヘシ前各條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス會ノ境界變更ニ依リ事務引繼ヲ要スル場合亦同シ

第七條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ民政署長又ハ民政支署長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（書式略ス）

●會吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件

（大正十四年七月三十日關東廳令第四十七號）

會吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　會吏員其ノ管掌スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ會ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ基因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ會ハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ受ケ賠償ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第二條　會計員又ハ會計員代理者ハ關東州會制施行規則第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ會ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ

第三條　會吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ會ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第四條　賠償金ノ徵收ニ關シテハ關東州會制第十一條及同會制施行規則第二十七條ノ例ニ依ル

第五條　會吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルトキハ會ハ民政署長又ハ民政支署長ノ認可ヲ得テ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會長ノ旅行ニ關スル件

（大正十四年七月二十九日關東廳令第四十八號）

會長ノ旅行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　會長其ノ會外ニ出張又ハ私事旅行セムトスル場合ニ於テ其ノ出張又ハ旅行ノ日數四日以內ナルトキハ旅行ノ要務、旅行先、出發竝歸著ノ日時等ヲ具シ事前ニ民政署長又ハ民政支署長ニ屆出テ五日以上ニ及フトキハ許可ヲ受クヘシ但シ監督官廳ノ命令ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　會長故障アルトキ副會長其ノ他會長ノ職務ヲ代理スル者ノ出張又ハ私事旅行ニ關シテハ前條ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市吏員服務紀律

（大正十三年八月一日關東廳令第四十一號）

市吏員服務紀律左ノ通定ム

市吏員服務紀律

第一條　市吏員ハ法令及指揮監督者ノ命令ニ遵ヒ其ノ職務ニ忠實ナルヘシ

第二條　市吏員ハ淸廉懇切公平ヲ旨トシ職務ノ內外ヲ問ハス其ノ職權ヲ濫用セサルヘシ

第三條　市吏員又ハ市吏員タリシ者ハ公務ニ關スル機密又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ漏示スルコトヲ得ス但シ裁判所ノ召喚ニ依リ證人、鑑定人又ハ參考人ト爲リタル場合ハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第四條　市吏員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス但シ指揮監督者ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　市吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接又ハ間接ニ自己又ハ他人ノ爲ニ金錢物件其ノ他ノ利益ヲ贈與又ハ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

市吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ自己又ハ他人ノ爲ニ金錢物件其ノ他ノ利益ノ贈與又ハ供給ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　左ニ揭クル者ノ事業ト直接ノ關係ヲ有スル職務ニ在ル市吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一　市ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給等ノ契約ヲ爲ス者
二　市ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者
三　市ヨリ補助金ヲ受クル者
四　市ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
五　市ヨリ利益ヲ受ケツツアル者又ハ之ヲ受ケムトスル者

第七條　有給ノ市吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市吏員事務引繼ニ關スル件

（大正十三年八月一日關東廳令第四十二號）

市吏員事務引繼ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　市長又ハ收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ市長ニ在リテハ助役ニ收入役ニ在リテハ收入役代理者ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ助役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項ノ期間內ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　市長事務引繼ノ場合ニハ書類、帳簿及財產ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スヘシ

收入役事務引繼ノ場合ニハ現金、書類、帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第三條　市吏員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ引繼ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ民政署長ハ其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘキ吏員ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ指定ヲ受ケタル吏員ハ本令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第四條　事務引繼ヲ爲ストキハ別記書式ニ依リ必要ナル書類三通ヲ作製シ市竝各當事者ニ於テ其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ニ依リ調製スヘキ書類、帳簿、物件又ハ財產ノ目錄ハ現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ充用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨引繼書ニ記載スヘシ

第五條　事務引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ其ノ期日ヲ定メ市長ハ三日前ニ民政署長ニ報告スヘシ

市吏員ノ事務引繼ニ際シテハ民政署長ハ其ノ所屬官吏ヲシテ之ニ立會ハシメ監督ヲ爲スヘシ但シ收入役ノ事務引繼ノ場合ヲ除クノ外之ヲ省略スルコトヲ得

事務ノ引繼完了シタルトキハ其ノ引繼書類ノ寫ヲ添ヘ直ニ民政署長ニ報告スヘシ

第六條　事務ノ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ民政署長ハ五十圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得其ノ故ナク引繼ヲ遲延シタルカ爲市長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セサル者亦同シ

第七條　市ノ境界變更ノ爲事務ノ引繼ヲ要スルトキハ市又ハ會吏員ハ其ノ擔任スル事務ヲ市ニ在リテハ市長、收入役又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ會長ニ會ニ在リテハ會長ヨリ市長、收入役又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引繼クヘシ前各條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ民政署長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記書式略ス）

●市吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件

（大正十三年八月一日關東廳令第四十三號）

市吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　市吏員其ノ管掌スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ基因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラサリシトキハ市ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第二條　收入役又ハ收入役代理者ハ關東州市制施行規則第七十七條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ市ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムヘシ

第三條　市吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第四條　前三條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ處分アリタル日ヨリ二十一日以內ニ民政署長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

第五條　賠償金ノ徵收ニ關シテハ關東州市制第二十八條及同市制施行規則第七十條ノ例ニ依ル

第六條　市吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルトキハ市ハ民政署長ノ許可ヲ得テ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市長ノ忌服及旅行ニ關スル件（大正十三年八月一日關東廳令第四十四號）

市長ノ忌服及旅行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　市長忌服ニ丁ルトキハ死者ノ氏名、緣故、死亡ノ月日、死亡ノ地及忌服日數等ヲ記載シ民政署長ニ屆出ツヘシ遠慮ニ止マル場合亦同シ

民政署長ハ事務上必要アルトキハ忌服期間內ト雖除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第二條　市長其ノ市外ニ旅行セムトスル場合ニ於テ二日ニ亙ルトキハ旅行ノ要務、旅行先、出發竝歸著ノ日時等ヲ具シ事前ニ民政署長ニ屆出テ三日以上ニ亙ルトキハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ但シ法令ノ規定又ハ監督官廳ノ命令ニ依ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　助役ノ忌服及旅行ニ關シ市長故障アル場合ニ於テハ前二條ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島島民村吏規程（大正十一年十月十一日南洋廳令第三十四號）

南洋群島島民村吏規程左ノ通定ム

南洋群島島民村吏規程

第一條　支廳管內ニ總村長、區長又ハ村長、助役ヲ置キ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ支廳長之ヲ命免ス

總村長、區長又ハ村長、助役ノ管轄區域ハ舊慣ニ依ル

第二條　支廳長前條ノ管轄區域ヲ變更セムトスルトキハ當該總村長、區長又ハ村長助役ノ意見ヲ徵シ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　總村長又ハ區長ハ支廳長ノ指揮監督ヲ承ケ法規又ハ舊慣ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事項ヲ執行スルノ外島民ニ關スル左ノ事務ヲ補助執行ス

一　法規ノ周知ニ關スルコト

二　願、屆等ノ進達ニ關スルコト

三　支廳長ヨリ發シタル命令ノ傳達又ハ其ノ執行ニ關スルコト

第四條　總村長又ハ區長ハ管內ノ行政ニ關シ所轄支廳長ニ意見ヲ開申スルコトヲ得

第五條　村長、助役ハ舊慣ニ依リ總村長、區長ノ職務ヲ補佐シ又ハ之ヲ分掌ス

第六條　總村長、區長、村長、助役ニハ月手當ヲ給ス其ノ給額ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九章　地方諸稅

第一款　地方諸稅（第十二輯第二章第二十一款ニ收ム）

第二款　地方費

●北海道地方費法（明治三十四年三月二十八日法律第三號　改正　明治四〇年第三號　大正一一年第五八號、一五年第七七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道地方費法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、內務大臣副署）

北海道地方費法

第一條　北海道地方費ハ北海道地方稅其ノ他地方費ニ屬スル收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條　北海道地方稅ニ關シテハ法律勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外府縣稅ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　段別割ハ地租ヲ賦課セサル土地ノ所有者ニ對シテハ其ノ土地ノ民有ニ歸シタル年ノ翌年ヨリ二年間之ニ賦課スルコトヲ得ス

第四條　削除

第五條　削除

第六條　削除

第七條　削除

第八條　法律勅令ニ規定アルモノノ外北海道地方費ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一　警察費

一　警察廳舍建築修繕費

一　土木費

一　衞生及病院費

一　教育費

一　諸達書及揭示諸費

一　勸業費

一　二級町村長書記給料旅費

一　北海道廳舍建築修繕費

一　北海道會議員選擧費

一　北海道會費

一　補助費

一　地方稅取扱費

一　豫備費

前項ノ外公共事務ノ爲費目ノ增加ヲ要スルトキハ北海道會ノ議決ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

第八條ノ二　北海道廳長官ハ北海道地方費ノ行政ヲ擔任ス

第八條ノ三　府縣制第七十五條乃至第七十七條、第八十條、第八十一條、第八十八條乃至第百一條、第百三條第二項、第百十二條、第百十四條、第百十五條第二項乃至第五項、第百十六條第二項乃至第九項、第百十七條乃至第百二十六條、第百二十七條乃至第百三十條、第百三十二條乃至第百三十六條、第百四十二條及第百四十四條ノ規定ハ之ヲ準用ス

第九條　北海道ニ施行シタル從前ノ法律中府縣ノ負擔、收入及國庫補助ニ關スル規定ハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

附　則（大正一一年法律第五八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依リ定メタル段別割ハ本法ニ依リ之ヲ定メタルモノト看做ス

北海道會又ハ北海道參事會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ從前ノ規定ニ依リ北海道廳長官ノ爲シタルモノハ本法ニ依リ北海道會又ハ北海道參事會ノ議決ヲ經タルモノト看做ス

本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル異議、訴願又ハ訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

（大正十一年勅令第二百五十五號ヲ以テ同年五月十五日ヨリ施行）

附　則（大正一五年法律第七七號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年北海道地方費法中改正法律ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年勅令第二百十四號））

●北海道地方費ニ關スル件（大正十一年五月十三日勅令第二百五十六號　改正　大正一五年第二一六號）

朕北海道地方費ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　北海道地方費ノ支辨ニ屬スル警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對シ國庫ハ其ノ總額ノ六分ノ一ヲ下付ス

第二條　削除

附　則

本令ハ大正十一年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

北海道地方費令ハ之ヲ廢止ス但シ同令第二十一條ノ規定ハ當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス

明治三十九年勅令第百九十四號ハ之ヲ廢止ス

●北海道地方費ノ豫算調製式、費目流用其ノ他財務ニ關スル件竝北海道地方費吏員ノ服務紀律ニ關スル件（大正十二年二月二十三日內務省令第六號）

府縣ノ豫算調製ノ式竝費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ハ之ヲ北海道地方費ニ、府縣吏員ノ服務紀律ニ關スル規定ハ之ヲ北海道地方費吏員ニ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●北海道地方費ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項（大正元年十一月二十九日內務省令第十六號）

北海道地方費ノ行政ニ關スル左記ノ事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス（大藏大臣連署）

一　教育、勸業、土木、衞生若ハ慈善ノ事業ニ對スル補助又ハ許可ヲ受ケタルモノト同種類ノ補助ニ關スル事

二　癩豫防費國庫下渡金又ハ感化院費國庫下渡金ニ對スル支出金額ニ關スル事

三　特別會計ニ關スル事

四　支出總額拾五萬圓以內ノ繼續費ニ關スル事

五　豫定價格壹萬圓未滿ノ不動產處分ニ關スル事

六　物產陳列場、種畜場ニ於ケル使用料及手數料徵收規定ニ關スル事

七　管外ニ涉ル營業者ニシテ其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テ關係府縣知事ト協議一致シタル營業稅附加稅ノ步合ニ關スル事

八　每地目ノ平均課率一段步宅地參拾五錢以內其ノ他ノ土地貳拾錢以內ニ於テ段別割ノ課率ヲ定ムル事

九　既ニ許可ヲ受ケタル課率ノ範圍內ニ於テ水產稅ノ課率ヲ定ムル事

附　則

本令ハ大正元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月內務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

●府縣ニ於ケル費用ノ府縣負擔ニ關スル件（大正十五年十一月十七日勅令第三百三十八號）

朕府縣ニ於ケル費用ノ府縣負擔ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

法律勅令ニ規定アルモノノ外府縣ニ於ケル左ノ費用ハ之ヲ府縣ノ負擔トス

一　警察費

二　警察廳舍建築修繕費

三　土木費

四　衞生及病院費

五　教育費

六　救育費

七　諸達書及揭示諸費

八　勸業費

九　府縣廳舍建築修繕費

附　則

本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

休職ノ郡官吏ノ給與ニ關スル府縣ノ負擔ニ付テハ仍ホ從前ノ例ニ依ル

●府縣稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件（明治二十年十一月五日勅令第五十六號）

朕地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

第一條　【地方稅】ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條　【地方稅】ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條　本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

●朝鮮道地方費令（大正九年七月二十九日制令第十五號　改正　大正一二年第一四號）

朝鮮道地方費令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮道地方費令

第一條　各道ノ地方費ハ道ノ地方稅其ノ他ノ道地方費ニ屬スル收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

道地方費ニ關スル事務ハ道知事之ヲ擔任ス

第二條　法律勅令又ハ制令ニ規定アルモノノ外道地方費ヲ以テ支辨シ得ル費目左ノ如シ

一　土木費

二　勸業費

三　教育費

四　衞生費

五　救濟費

六　補助費

七　道評議會費

八　道地方費取扱費

第三條　地方稅トシテ賦課シ得ルモノ左ノ如シ

一　國稅附加稅

二　特別稅

第四條　道地方費ニ屬スル營造物ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付テハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第五條　道地方費ヲ以テ支辨スル事業ノ爲特別ノ必要アルトキハ夫役又ハ現品ヲ賦課スルコトヲ得

第五條ノ二　地方稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第六條　道地方費ニ屬スル徵收金ニ付テハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵及還付ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第七條　地方稅、使用料、手數料及夫役現品竝其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

道地方費ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府面ニ之ヲ分賦スルコトヲ得

第八條　道地方費ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ起債ヲ爲スコトヲ得

道地方費ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第八條ノ二　道知事ハ道地方費ノ事務ノ一部ヲ府郡島ノ官吏ニ補助執行セシメ又ハ委任スルコトヲ得

第九條　道地方費ヲ以テ有給ノ吏員ヲ置クコトヲ得

吏員ハ道知事之ヲ任免ス

吏員ハ道知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

道知事ハ吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

吏員ニハ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十條　道地方費ニ關シ道知事ノ諮問ニ應セシムル爲道評議會ヲ置ク

道評議會ハ道知事及道評議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

道評議會員ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

道評議會ハ道知事ヲ以テ議長トス

第十一條　道知事ハ左ノ事件ヲ道評議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ道評議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　地方稅、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

三　起債ニ關スル事

四　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

第十一條ノ二　道評議會召集若ハ諮問ニ應セス又ハ會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ道知事ハ朝鮮總督ノ指揮ヲ承ケ其ノ諮問スヘキ事件ヲ處理スルコトヲ得

第十二條　道評議會ハ道ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ道知事ニ提出スルコトヲ得

第十三條　道評議會員ハ道知事之ヲ命ス

道評議會員ハ名譽職トス

道評議會員ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ道評議會員ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第十四條　道評議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ解任スルコトヲ得

第十五條　前五條ニ規定スルモノノ外道評議會及道評議會員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十六條　道知事ハ每會計年度道地方費ノ歲入出豫算ヲ調製スヘシ

道地方費ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第十七條　道地方費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ道評議會ノ諮問ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第十八條　道地方費ニ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第十九條　道地方費ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

第二十條　道地方費ノ財務ニ關スル事項竝吏員ノ賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

隆熙三年法律第十二號地方費法及大正八年制令第三號ハ之ヲ廢止ス

（大正九年朝鮮總督府令第百十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

（大正十四年四月一日朝鮮總督府令第三十五號）

京城府ハ京畿道地方費ノ支辨ニ屬スル消防費ノ一部ヲ負擔スヘシ

前項ノ規定ニ依リ京城府ノ負擔スヘキ額ハ京畿道知事朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十四年四月一日朝鮮總督府令第四十一號）

平安南道地方費ハ當分ノ間普通學校ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立シタル普通學校ハ公立普通學校トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮道地方費令施行規則

（大正九年七月二十九日朝鮮總督府令第百五號）
改正　大正一〇年第八〇號、第一五一號、一二年第一二七號

朝鮮道地方費令施行規則左ノ通定ム

朝鮮道地方費令施行規則

第一章　道評議會

第一條　道評議會員ノ定員左ノ如シ

京畿道	三十七人
忠淸北道	十八人
忠淸南道	二十四人
全羅北道	二十四人
全羅南道	三十四人
慶尙北道	三十七人
慶尙南道	三十三人
黃海道	二十七人
平安南道	二十四人
平安北道	三十人
江原道	三十一人
咸鏡南道	二十五人
咸鏡北道	十八人

第二條　道評議會員ノ定員ノ三分ノ二ハ之ヲ府郡島ニ配當ス定員ヲ三分シ餘キトキ其ノ端數ニ相當スル員數亦同シ

前項ニ依リ府郡島ニ配當シタル道評議會員ハ府郡島毎ニ府面協議會員ノ選擧シタル候補者中ヨリ之ヲ命ス

第三條　前條ニ依リ選擧スルモノノ外道評議會員ハ學識名望アル者ニシテ第七條ニ規定スル資格ヲ有スルモノノ中ニ就キ之ヲ命ス

第四條　道評議會員候補者ノ選擧ハ各府郡島ニ於テ道知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ府郡島、選擧期日及選擧スヘキ候補者ノ員數ヲ記載シ選擧ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第五條　道評議會員候補者ノ選擧ハ府尹、面長ニ於テ府面協議會員ヲシテ投票ニ依リ之ヲ行ハシムヘシ

投票ハ無記名トシ選擧スヘキ候補者ノ員數ニ相當スル被選擧人ノ氏名ヲ記載スヘシ

投票ヲ終リタルトキハ面長ハ直ニ投票ヲ郡守島司ニ送致スヘシ

第六條　府尹、郡守又ハ島司ハ得票數最多キ者ヲ候補者ト定メ之ヲ道知事ニ報告スヘシ

候補者ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年長者ヲ採リ年齡同シキトキハ府尹、郡守又ハ島司抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第七條　道評議會員候補者ハ一年以來道內ニ住所ヲ有スル帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子ノ中ニ就キ之ヲ選擧スヘシ

左ニ揭クル者及禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者ハ道評議會員候補者ニ選擧スルコトヲ得ス禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

一　其ノ道ノ官吏及有給吏員
二　其ノ道內府郡島ノ官吏及有給吏員
三　檢事及警察官吏
四　神職、僧侶其ノ他諸宗敎師
五　小學校及普通學校ノ敎員
六　現役中又ハ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ陸海軍軍人

第八條　道評議會員ニシテ前條ニ規定スル資格ヲ闕クニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ資格ノ有無ハ道知事之ヲ決定ス

第九條　道評議會ハ道知事之ヲ招集ス

第十條　道評議會ハ道知事之ヲ開閉ス

道評議會ハ道評議會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十一條　道評議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議長ハ必要アリト認ムルトキハ道評議會員ニ對シ發言ヲ禁止シ、之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第十三條　議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席道評議會員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議錄ハ議長及出席道評議會員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス

第十四條　道評議會員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

第二章　地方稅及夫役現品

第十五條　地方稅ハ道內ニ住居ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

三月以上道內ニ滯在スル者ニ對シテハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十六條　道內ニ住居ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖道內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、道內ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ道內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ付又ハ其ノ行爲ニ付地方稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十七條　納稅者ノ道外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ道外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十八條　國又ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地家屋物件及營造物ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝敎會所說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

墓地竝外國政府ノ所有ニ屬スル領事館及其ノ敷地ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十九條　永代借地及其ノ上ニ在ル建物ニ對シテハ其ノ借地料ヨリ國稅ヲ控除シタル金額カ地方稅額ニ等シキトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

借地料ヨリ國稅ヲ控除シタル金額カ地方稅額ヨリ少キトキハ其ノ差額ヲ地方稅トシテ賦課スルコトヲ得

第二十條　夫役現品ハ道內一部ノ府面又ハ一部ノ地方稅ノ納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

夫役現品ハ之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十一條　地方稅ノ課目、課率及賦課ノ方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

第二十二條　地方稅及夫役現品賦課ノ細目ニ係ル事項ハ關係府面ヲシテ之ヲ定メシムルコトヲ得

第二十三條　道知事ハ特別ノ事情アル者ニ對シ地方稅ヲ減免シ又ハ納稅ノ延期ヲ許スコトヲ得

第二十四條　府面ハ道知事ノ指定シタル地方稅ヲ除クノ外其ノ府面內ノ地方稅ヲ徵收シ之ヲ道地方費ニ納入スルノ義務ヲ負フ

前項地方稅徵收ノ費用ハ府面ノ負擔トシ道地方費ニ納入シタル稅金ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヲ其ノ府面ニ交付ス

地方稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一、第四條ノ三乃至第四條ノ八及第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條　道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ地方稅トシテ賦課スヘキ金額ノ一部ヲ府面ニ分賦スルコトヲ得

第三章　道地方費ノ財務

第二十六條　道知事ハ地方稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ年度開始前道評議會ノ諮問ヲ經歲入出豫算ヲ調製スヘシ

特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第二十七條　豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

第二十八條　豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　道知事豫算ヲ調製シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三十條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度
二　隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度
三　隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金及起債收入ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ歲入ト爲スコトヲ得

第三十一條　歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、給料其ノ他ノ諸給與及傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定メアルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
二　通信運搬費、土木建築費物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ補助金及缺損補塡ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル、年度ノ歲出ト爲スコトヲ得

第三十二條　各年度ノ經費ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ

年度經過後ニ至リ歲入ヲ以テ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第三十三條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

道知事豫算各項ノ金額ヲ流用シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三十四條　道地方費ノ歲入ハ道知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ徵收ス

道知事ハ府面ヲシテ地方稅以外ノ收入ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ徵收ニ關シテハ第二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十五條　支出ヲ爲サムトスルトキハ道金庫ニ對シ支拂命令ヲ發行スヘシ

支拂命令ハ道知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ發行ス

第三十六條　支拂命令ハ債主又ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第三十七條　人夫賃及道金庫所在地外ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第三十八條　左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一　旅費
二　訴訟費用

第三十九條　前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十條　歲入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戾ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ支拂フヘシ

歲出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂又ハ繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戾入スヘシ

第四十一條　道地方費ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス

道知事ハ出納閉鎖後三月以內ニ決算ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スヘシ

第四十一條ノ二　左ニ揭クル事件ハ道評議會ニ之ヲ提示スヘシ

一　道地方費令第十一條但書及第十一條ノ二ノ規定ニ依リ處理シタル事件
二　決算

第四十二條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ第四十條ノ拂戾金及戾入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第四十三條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第四十四條　道地方費ニ出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ道知事之ヲ命ス

出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第四十五條　道地方費ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲道金庫ヲ置ク

金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

第四十六條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ保管スル現金ハ道地方費ノ歲入歲出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ナキ限度ニ於テ道知事ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ道知事ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ納ムヘシ

第四十七條　道知事ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ檢査スヘシ

第四十八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外財務ニ關シ必要ナル規定ハ道知事之ヲ定ム

第四章　監督

第四十九條　左ニ揭クル事件ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ道地方費令第十一條ノ二ノ規定ニ依リ處理シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　夫役現品ヲ賦課スル事
二　使用料、手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事
三　起債ヲ爲シ竝起債ノ方法、利率及償還方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事
四　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
五　特別會計ヲ設クル事
六　不動產ノ處分ニ關スル事
七　有給吏員ノ退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料及其ノ支給方法ヲ定ムル事
八　歲入歲出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

第五十條　朝鮮總督ハ道地方費ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

附　則

本令ハ朝鮮道地方費令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年府令第八十三號及地方費諸收入徴收規則ハ之ヲ廢止ス

地方費賦課金、使用料及手數料賦課徴收ニ關スル從前ノ規定ハ地方費諸收入徴收規則ヲ除クノ外當分ノ内本令ニ依リ定メタル地方税、使用料、手數料ニ關スル規定トシテ仍其ノ效力ヲ有ス

大正九年度歳入歳出ノ經理ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

●地方費ノ會計年度

（明治四十三年十二月八日朝鮮總督府令第五十四號）

地方費ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ據ル

【明治四十三年度ニ在リテハ明治四十三年一月一日ヨリ明治四十四年三月三十一日迄ヲ以テ一會計年度トス】

●府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件

（大正十二年三月二十三日朝鮮總督府令第四十三號）

府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮民事令ニ依リ府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ爲要スル費用ハ府又ハ面ノ負擔トス

附　則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●健康診斷又ハ檢診ノ爲要スル費用負擔ノ件

（大正十二年三月三十一日朝鮮總督府令第六十一號）

改正　昭和二年第一〇號

健康診斷又ハ檢診ノ爲要スル費用負擔ノ件左ノ通定ム

貸座敷娼妓取締規則第二十三條又ハ藝妓酌婦藝妓置屋營業取締規則第八條ニ依リ行フ健康診斷又ハ檢診ノ爲要スル費用ハ府又ハ面ノ負擔トス

前項ニ依リ負擔セシムヘキ費用ノ範圍及面ハ道知事之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣廳地方費令

（大正九年七月三十日律令第四號）

改正　大正一五年第四號

臺灣廳地方費令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

臺灣廳地方費令

第一條　臺東廳、花蓮港廳及澎湖廳ノ管轄區域ヲ通シテ廳地方費ヲ設ク

廳地方費ハ臺灣總督之ヲ管理ス

第二條　廳地方費ニ關シテハ臺灣州制第二條、第四條、第五條、第九條、第十條、第十七條乃至第二十二條、第二十四條乃至第三十五條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス但シ同律令第四條、第九條、第二十八條及第四十一條中州知事トアルハ廳長トス

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

（大正九年臺灣總督府令第四十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年律令第四號）

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

（大正十五年臺灣總督府令第五十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

●臺灣廳地方費税外收入規則

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百五十號）

臺灣廳地方費税外收入規則左ノ通相定ム

臺灣地方費税外收入規則

第一條　廳地方費ニ屬スル國庫補助金及現金出納上一時ノ運用ニ伴ヒ生スル利子ハ總務長官之ヲ收入ス

第二條　前條以外ノ税外收入ハ廳長之ヲ徴收ス

第三條　前條ノ徴收ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外廳地方費税徴收ノ例ニ依ル但シ徴收告知書ハ之ヲ發セス若ハ特別ノ形式ニ依リ、領收證ハ之ヲ交付セサルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●廳地方費手數料規則

（大正九年九月三十日臺灣總督府令第百十五號）

改正　大正一〇年第五九號、一四年第一九號

廳地方費手數料規則左ノ通相定ム

廳地方費手數料規則

第一條　鑑札又ハ證明書交付ノ手數料ノ徴收ニ付テハ他ノ規則ニ定ムルモノノ外本令ニ依ル

第二條　廳又ハ支廳ニ於テ鑑札其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス鑑札ノ性質ヲ帶フルモノヲ交付スルトキハ一枚ニ付手數料金二十錢ヲ徴收ス

第三條　前條ノ官署ニ於テ證明書ヲ交付スルトキハ一通ニ付手數料金十錢ヲ徴收ス

第四條　左ニ揭クル鑑札又ハ證明書ノ交付ニ付テハ之カ手數料ヲ徴收セス

一　官公署ニ對シ交付スルモノ

二　公務ニ從事スル者ノ公務上必要ナル證明書

三　陸海軍ノ召集、簡閲點呼ニ應召若ハ參會又ハ入營ノ爲必要ナル諸證明書

四　無資力證明書

第五條　本令ハ警察事務ニ屬スル鑑札又ハ證明書ノ交付ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月府令第二十一號手數料徴收規則ハ之ヲ廢止ス

●州又ハ廳地方費ノ收入トスル手數料

（大正九年十月十九日臺灣總督府令第百五十八號）

改正　大正一〇年第五二號、一五年第六九號

左ニ揭クル手數料ハ州又ハ廳地方費ノ收入トス

一　削除

二　削除

三　削除

四　手數料規則ニ依ル手數料（國、市街庄ノ收入ニ屬スルモノヲ除ク）

五　削除

六　内地移出石花菜檢査手數料

七　臺灣帽子檢査手數料

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

●廳地方費所屬營造物使用料規則

（大正十五年七月二十八日臺灣總督府令第六十二號）

廳地方費所屬營造物使用料規則左ノ通相定ム

廳地方費所屬營造物使用料規則

第一條　廳地方費所屬營造物ノ使用料ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ廳長之ヲ定ム

第二條　街庄又ハ區長ヲシテ屠場使用料ノ徴收又ハ取纒ヲ爲サシムルトキハ其ノ費用トシテ廳地方費ハ廳ニ納入シタル使用料ノ百分ノ二ヲ其ノ街庄又ハ區長ニ交付ス

第三條　使用料ノ徴收手續ハ廳長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正十年府令第四十六號ハ之ヲ廢止ス

●廳地方費ニ對スル用途指定ノ寄附受納取扱方

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百五十三號）

廳地方費ニ對スル用途指定ノ寄附受納ニ關シテハ廳長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣廳地方費會計規則

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百四十八號）

改正　大正九年第一八一號

臺灣廳地方費會計規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費會計規則

第一條　廳地方費ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ總務長官、廳長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ發ス

第二條　工事又ハ物件ノ賣買、貸借及財産ノ管理、處分ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外臺灣總督府特別會計ノ例ニ依ル

第三條　廳地方費ニ屬スル現金ノ出納及保管ヲ爲サシムル爲廳地方費金取扱所ヲ置ク

廳地方費金ヲ取扱フヘキ銀行及廳地方費金取扱所ノ位置、名稱、出納區域竝其ノ事務ノ範圍ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條　廳地方費ニ屬スル現金ハ其ノ取扱銀行ノ預金トス但シ利子ヲ附スルコトヲ要セス

第五條　廳地方費金取扱銀行ハ現金ノ出納及保管ニ付一切ノ責ニ任ス

第六條　廳地方費金取扱銀行ハ臺灣總督ノ命スル所ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

第七條　臺灣總督ハ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ナキ限度ニ於テ廳地方費金取扱銀行ニ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運用ヲ許サレタル銀行ハ臺灣總督ノ命スル所ニ依リ利子ヲ納付スヘシ

第八條　廳地方費ノ會計事務ヲ掌ラシムル爲會計吏ヲ置ク

會計吏ハ財務局會計課長又ハ廳及廳各庶會計主任ヲ以テ之ニ充ツ但シ止ムヲ得サル場合ニ限リ其ノ責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ補助セシムルコトヲ得

前項ノ外臺灣總督又ハ廳長必要アリト認ムルトキハ事項ヲ限リ臨時ニ會計吏ヲ命スルコトヲ得

第九條　會計吏ハ命令ヲ受ケタル歳入金、歳出金、歳入歳出外現金、證券又ハ物品ノ出納及保管ヲ掌ル

第十條　會計吏ハ其ノ保管ニ係ル現金、證券又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

會計吏ハ其ノ保管ニ係ル現金證券又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十一條　區長ニ於テ廳地方費金ノ取扱ヲ爲ス場合ハ會計吏ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●州市街庄手數料規則

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百四十一號）

改正　大正一〇年第六〇號、一四年第二〇號

州市街庄手數料規則左ノ通相定ム

州、市街庄手數料規則

第一條　鑑札又ハ證明書交付ノ手數料ノ徴收ニ付テハ他ノ規則ニ定ムルモノ、外本令ニ依ル

第二條　州、郡、市街庄又ハ税務出張所ニ於テ鑑札其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス鑑札ノ性質ヲ帶フルモノ又ハ證明書ヲ交付スルトキハ手數料ヲ徴收ス

第三條　前條ノ手數料ハ左ノ範圍内ニ於テ州知事、市尹、街庄長之ヲ定ムヘシ

一　鑑札一枚ニ付金二十錢

二　證明書一通ニ付金十錢

第四條　左ニ揭クル鑑札又ハ證明書ノ交付ニ付テハ手數料ヲ徴收セス

一　官公署ニ對シ交付スル鑑札又ハ證明書

二　公務ニ從事スル者ノ公務上必要ナル證明書

三　陸海軍ノ召集、簡閲點呼ニ應召若ハ參會又ハ入營ノ爲必要ナル諸證明書

四　無資力證明書

第五條　本令ハ警察事務ニ屬スル鑑札又ハ證明書ノ交付ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府令、告示中地方費區ニ關スル規定改定

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百四十五號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ臺灣總督府令、告示中臺灣總督府ノ地方費區ニ關スル規定ハ州又ハ廳地方費ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州地方費令

（明治四十年三月二十日勅令第四十八號）

朕關東州地方費令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理・外務大臣副署）

關東州地方費令

第一條　關東州地方費ハ地方税其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

關東州地方費ハ關東【都督】ノ管理ニ屬ス

第二條　地方税ハ左ノ種目ニ從ヒ賦課徴收ス

一　營業税

二　雜種税

營業税及雜種税ノ種類及課率ハ關東【都督】之ヲ定ム

第三條　營造物又ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徴收スルコトヲ得

國ニ屬スル營造物及財産ニシテ地方費ニ於テ管理スルモノニ在リテモ亦同シ

特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付テハ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第四條　特別ノ必要アルトキハ夫役及現品ヲ賦課スルコトヲ得但シ學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

第五條　地方費ヲ以テ支辨スル事業ニ關シ金穀、物件又ハ勞力ノ寄附ヲ受ケタルトキハ寄附者ノ指定シタル條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第六條　地方費ニ於テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一　會村事務費

二　教育費

三　衛生費

四　勸業費

五　營繕土木費

六　救育費

七　營造物費

八　地方費取扱費

公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第七條　地方費ノ豫算及決算ハ關東【都督】之ヲ主務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第八條　本令施行ノ爲必要ナル規程ハ關東【都督】之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州地方費令施行規程

（明治四十年三月三十一日關東都督府令第十六號）

改正　明治四一年第二六號、第三一號、四四年第二七號、大正五年第二〇號、一〇年關東廳令第一一號、第六七號、一二年第二八號、一三年第三九號

關東州地方費令施行規程左ノ通相定ム

關東州地方費令施行規程

第一條　關東州地方費ノ年度ハ關東廳特別會計ノ年度ニ據ル

第二條　當該年度ニ於テ收入又ハ仕拂済ニ至ラサルモノノ出納ハ翌年度五月三十一日限リトス

第三條　租税其ノ他收入ノ納付又ハ經費ノ仕

拂ニシテ其所屬年度經過後滿五箇年以內ニ納入ノ告知ヲ受ケス又ハ債主ヨリ仕拂ノ請求ナキトキハ各其ノ義務ヲ免ル、モノトス

第四條　【事務總長】ハ每年度收入支出ノ豫算ヲ編成シ關東長官ノ決裁ヲ受クヘシ豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲ストキ亦同シ

第五條　豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル事項ノ費途ニ充ツル爲豫備費ヲ設ク

豫備費ノ支出ヲ要スルトキハ【事務總長】ハ金額理由ヲ示ストコロノ計算書ヲ作リ關東長官ノ決裁ヲ受クヘシ

第六條　豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ許サス

第七條　每年度始ニ特ニ定メタル費目ノ外過年度ニ屬スル經費ニシテ前年度豫算項ノ殘額ヲ超過スル仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　一年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲事業遲延シ年度內ニ竣工セサルモノハ之ヲ翌年度ヘ繰越使用スルコトヲ得

繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ仕拂殘額ヲ竣工年度迄逐次繰越使用スルコトヲ得

第九條　前條ノ繰越ヲ要スルモノアルトキハ翌年度四月三十日マテニ繰越計算書ヲ調製シ【事務總長】ニ提出シ【事務總長】ハ之ヲ調査シ關東長官ノ決裁ヲ受クヘシ

第十條　關東州地方費令第四條及第五條ニ依リ夫役現品ヲ賦課シ又ハ金穀、物件若ハ勞力寄附ノ受納ニ付テハ豫メ關東長官ノ認可ヲ經ヘシ

第十一條　地方費ノ出納ヲ掌ル吏員ハ其ノ現金若ハ物品ニ付キ一切ノ責任ヲ負フ

出納吏員ハ其ノ責任ニ關スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

第十二條　出納吏員ハ水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ其保管ノ現金ヲ亡失シタル場合ニハ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ證明シ責任解除ノ決定ヲ受クルニアラサレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第十三條　出納吏員ノ帳簿金櫃ハ每年三月三十一日若ハ當該吏員轉免死亡停職ノトキ直接監督官檢査員ヲ命シテ之ヲ檢査セシムヘシ

關東長官ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ檢査員ヲ命シテ出納吏員ノ帳簿金櫃ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第十四條　地方費ニ屬スル現金ノ保管及出納ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條　部局長ハ徵收簿ノ結果ニ依リ每年度經過後三ケ月以內ニ徵收額計算書ヲ作リ證憑書ヲ添ヘ【事務總長】ニ送付スヘシ

第十六條　部局長ハ每月支出計算書ヲ作リ證憑書ヲ添ヘ之ヲ【事務總長】ニ提出スヘシ

收入役ハ每年收入計算書ヲ、支拂役ハ每月支拂計算書ヲ作リ證憑書ヲ添ヘ之ヲ部局長ニ提出スヘシ

部局長前項ノ計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ十五日以內ニ之ヲ【事務總長】ニ提出スヘシ

第十七條　第十五條ノ規定ニ依ル部局長ハ關東廳ニ在リテハ【內務局財務課長】トシ第十六條第一項ノ規定ニ依ル部局長ハ關東廳ニ在リテハ【長官官房會計課長】トス

第十八條　收入支出ノ總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ七月三十一日迄ニ【事務總長】之ヲ調製シ關東長官ニ提出スヘシ

第十九條　地方費會計ノ出納ヲ經理スル爲左ノ簿冊其ノ他ヲ備フヘシ

主計簿　徵收簿　支出簿　現金出納簿

收入金部局別內譯簿　拂出金部局別內譯簿　未拂金繰越整理簿　收納簿　收入日計表　收入月計表　收入金滯納額整理簿

前項ニ規定セル簿冊ノ外收入、支出ノ整理上必要ニ應シ補助簿ヲ備フルコトヲ得

第十九條ノ二　地方費會計ニ屬スル納額告知書及督促狀ハ別記樣式ニ依ル

第二十條　地方費ニ屬スル計算證明ノ方法ハ特ニ規定アルモノノ外大正十一年會計檢査院達第一號計算證明規程ヲ準用ス

第二十一條　地方費ニ屬スル物品ノ保管及出納ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條　本令ニ規定セサルモノハ關東廳特別會計ノ規程ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

納額告知書

第　號　住所　何某納
地方費會計　何年度　取扱廳名
一金
右大正何年何月何日迄ニ何地方費現金取扱所（又ハ「當廳」）ニ納付スヘシ
年月日
官氏名印

何地方費現金取扱所割印
又ハ收入役割印

通知書

第　號　住所　何某納
地方費會計　何年度　取扱廳名
何款　何項　何目　何年何月分（又ハ「第何期分」）
一金
年月日
官氏名殿
何地方費現金取扱所印（又ハ「收入役官氏名印」）

何地方費現金取扱所割印
又ハ收入役割印

領收證書

第　號　住所　何某納
何目　何年何月分（又ハ「第何期分」）　取扱廳名
一金
年月日
何地方費現金取扱所印（又ハ「收入役官氏名印」）

備考
一　輪廓ハ赤色トス

二　用紙適宜、寸法（縦四寸五分橫三寸三分）ノモノ二枚（縦四寸五分橫二寸五分）ノモノ一枚接續

三　領收證書及通知書用紙ノ金額、年度等ハ總テ納額告知書發行者ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

四　收入役本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ス場合ニ於テ督促手數料、延滯金ヲ徵收スル必要アルトキハ科目、金額ヲ竝記シ納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス

五　收入役本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ストキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證ヲ發行スルコトヲ要セス又納額告知書餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

六　納額告知書ノ右傍欄外ニ左ノ注意ヲ附記スルモノトス

注意
一　納金ノ際ハ必ス本書ヲ添附スヘシ
二　指定ノ期日迄ニ完納セサルトキハ督促ヲ受ケ金二十錢ノ督促手數料ヲ徵收セラルルノ外納金額百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ納期日ノ翌日ヨリ納金完納ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收セラルルコトアルヘシ

注意
一　繳納此稅金者必須將此票一併繳上
二　指定限期內如有不完納時卽行發給督促狀並除徵收金二十錢之手數料外尙有徵收自限期之第二日起至完納前一日止每一百圓每日金三錢之延滯金時

（第二號樣式）

督促狀

第　號　納人　住所　何某
何年度　地方費會計　何項　何年何月分（又ハ「第何期分」）
一金何程　何目
一金二十錢　督促手數料
右何年何月何日限何地方費現金取扱所（又ハ「當廳」）ニ納付スヘシ若其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ
年月日
何廳　官氏名

備考
一　用紙適宜、寸法（縦六寸橫四寸五分）トス
二　輪廓ハ赤色トス

（第三號樣式）

督促狀

第　號　納人　住所　氏名
何年度　何々（款）　何々（項）　何年分（又ハ「何年何月分」）
一金何程　何々（目）
一金二十錢　督促手數料
一納期日ノ翌日ヨリ納金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ニ依ル金額　延滯金
右何月何日限何地方費現金取扱所（又ハ「當廳」）ニ納付スヘシ
指定ノ期日迄納金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ヲ徵收セス
指定期日ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財產差押ノ處分ヲ爲スヘシ
年月日
何廳　官氏名印

備考
一　用紙適宜、寸法（縦六寸橫四寸五分）トス
二　輪廓ハ赤色トス

●關東州地方費令ニ依ル收入金又ハ仕拂金計算方

（明治四十年五月十四日 關東都督府令第二十九號）

關東州地方費令ニ依ル收入金又ハ仕拂金計算方左ノ通相定ム

第一條　關東州地方費ニ屬スル收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ地方稅ノ課稅標準額ニ付テモ亦同シ

第二條　法規又ハ行政ノ處分ニ依リ分納ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ分納額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ其ノ端數ハ最初ノ分納額ニ合算ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方費ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納吏ニ關スル件

（明治四十四年十月二日 關東都督府令第二十六號）
改正　大正五年第二一號

地方費ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納吏ニ關スル件左ノ通定ム

地方費ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納吏ハ明治四十年三月府令第十六號關東州地方費令施行規程中出納吏員ニ關スル規定ニ準據ス

附則

明治四十年十一月府令第七十一號ハ之ヲ廢止ス

●關東州地方費收入金郵便振替貯金收納規則

（大正九年十二月二十四日 關東廳令第八十號）
改正　大正一二年第二七號

關東州地方費收入金郵便振替貯金收納規則左ノ通定ム

關東州地方費收入金郵便振替貯金收納規則

第一條　關東州地方費收入金ハ郵便振替貯金特別取扱ノ方法ニ依リ收納スルコトヲ得

第二條　部局長前條ノ規定ニ依リ收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納入ニ對シ第一號樣式ノ納額告知書ヲ發スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ部局長ハ拂込ムヘキ郵便局所ヲ特ニ指定スルコトヲ得

第三條　納人納額告知書ナキトキ又ハ納金ヲ分納セムコトヲ申出テタルトキハ部局長ハ第二號樣式ノ納付書ヲ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條　納人前二條ノ規定ニ依ル納額告知書又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納額告知書又ハ納付書ヲ添ヘ又ハ郵便振替貯金振替拂込ノ方法ニ依リ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條　收入役其ノ領收シタル收入金ヲ關東州地方費現金取扱所ニ拂込マムトスルトキハ第三號樣式ノ現金拂込書ヲ使用シ最寄ノ郵便局所ニ拂込ムコトヲ得

第六條　部局長、出納役又ハ收入役遞信局ヨリ拂込通知票又ハ拂出通知票ノ送付ヲ受ケ

タルトキハ之ニ依リ關係簿書ニ收入又ハ拂出ノ登記ヲ爲スヘシ

出納役ニ於テ送付ヲ受ケタル前項ノ拂込通知票ハ毎日之ヲ部局長ニ送付スルヲ要ス

附　則

本令ハ大正十年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

用紙適宜、輪廓赤色、寸法（縱四寸五分橫三寸三分）ノモノ二枚、（縱四寸五分橫二寸五分）ノモノ一枚接續

領收證書
（受領票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
何目　（何年何月分（又ハ第何期分））
一金
大正何年何月何日領收
何地方費現金取扱所㊞
（又ハ收入役官氏名㊞）
郵便局受入日附印
遞信局日附印

割印

納額告知書
（拂込通知票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
何款　何項　何目　何年何月分（又ハ第何期分）
一金
右大正何年何月何日限何地方費現金取扱所（又ハ當廳）ヘ納付スヘシ
但シ郵便振替貯金ノ拂込又ハ振替ヲ以テ納付スルコトヲ得
大正何年何月何日
官　氏　名㊞
郵便局受入日附印
遞信局日附印

割印

原符
（拂込票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
一金
加入者
備考
遞信局日附印
郵便局受入日附印
金額　口數　日
計

備考

一　領收證書（受領票）及原符（拂込票）用紙ノ金額、年度等ハ總テ納額告知書發行者ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

二　收入役本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ス場合ニ於テ督促手數料、延滯金ヲ徴收スル必要アルトキハ科目、金額ヲ竝記シ納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　收入役本書ニ依リ納金ノ領收ヲ爲ストキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證ヲ發行スルコトヲ要セス又納額告知書餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

四　納額告知書ノ右傍欄外ニ左ノ注意ヲ附記スルモノトス

注意

一　納金ノ際ハ必ス本書ヲ添附スヘシ

二　指定ノ期日迄ニ完納セサルトキハ督促ヲ受ケ金二十錢ノ督促手數料ヲ徴收セラルルノ外納金額百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ納期日ノ翌日ヨリ納金完納ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徴收セラルルコトアルヘシ

譯文

一　繳納此稅金者必須將此票一併繳上

二　指定限期內如有不完納時卽行發給督促狀並除徵收金二十錢之手數料外尙有徵收自限期之第二日起至完納前一日止每一百圓每日金三錢之延滯金時

（第二號樣式）

用紙適宜、輪廓赤色、寸法（縱四寸五分橫三寸三分）ノモノ二枚、（縱四寸五分橫二寸五分）ノモノ一枚接續

領收證書
（受領票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
何目　（何年何月分（又ハ第何期分））
一金
大正何年何月何日領收
何地方費現金取扱所㊞
（又ハ收入役官氏名㊞）
郵便局受入日附印
遞信局日附印

納付書
（拂込通知書）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
何款　何項　何目　何年何月分（又ハ第何期分）
一金
大正何年何月何日領收
郵便局受入日附印
遞信局日附印

割印

原符
（拂込票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何所　何某　納
第何號　地方費會計
取扱廳名
一金
加入者
備考
遞信局日附印
郵便局受入日附印
日　口數　金額
計

備考

一　領收證書（受領票）、納付書（拂込通知票）及原符（拂込票）用紙ノ金額、年度、科目等ハ納付書作成ノトキ之ヲ記入スルモノトス

二　收入役本書ニ依リ納金領收ヲ爲ストキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス又納付書ノ餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

（第三號樣式）

用紙適宜、輪廓赤色、寸法（縱四寸五分橫三寸三分）ノモノ二枚、（縱四寸五分橫二寸五分）ノモノ一枚接續

領收證書
（受領票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何收入役
拂込人　官　氏　名
郵便局受入日附印
第何號　地方費會計
取扱廳名
一金
大正何年何月何日領收
何地方費現金取扱所㊞
遞信局日附印

割印

現金拂込書
（拂込通知票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
第何號　地方費會計
取扱廳名
一金
右拂込候也
大正何年何月何日
何收入役官氏名㊞
郵便局受入日附印
遞信局日附印

割印

原符
（拂込票）

振替貯金口座番號　何番
何年度
何收入役
拂込人　官　氏　名
第何號　地方費會計
取扱廳名
一金
加入者
備考
遞信局日附印
郵便局受入日附印
日　口數　金額
計

法律資料第一課
28.3.31
調査立法考査局